

# 蒲田部木原遺跡 8

—蒲田部木原遺跡群第10次調査報告—  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第976集

2008

福岡市教育委員会

KAMA TA HE KI BARU

# 蒲田部木原遺跡 8

—蒲田部木原遺跡群第10次調査報告—  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第976集



遺跡略号 KHH-10  
調査番号 0556

2008

福岡市教育委員会



## 序

福岡市は古くから東アジアとの対外交渉の窓口として発展してきました。このような環境のもとに数多くの埋蔵文化財が残されており、本市におきましてはこの保護と活用に努めているところであります。

本書は福岡市東区蒲田3丁目における倉庫建設に伴い実施した、蒲田部木原遺跡群第10次調査の記録です。調査の結果、弥生時代を中心とする集落が確認され、蒲田地区の歴史を知るうえで多くの貴重な資料を得ることができました。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財保護のご理解の一助として、また研究資料として役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり株式会社キョーワをはじめとする多くの方々のご理解、ご協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表する次第です。

平成20年3月31日

福岡市教育委員会  
教育長 山田 裕嗣

## 例 言

1. 本書は福岡市教育委員会が倉庫建設に伴い、東区蒲田3丁目1211-1他において実施した蒲田部木原遺跡群第10次調査の報告書である。
2. 本書に掲載した遺構実測図の作成は調査担当者の他、文化財部職員の協力を得た。
3. 本書に掲載した遺物実測図の作成は山口譲治、大塚紀宜、本田浩二郎、丸尾弘介、景山貴明、田北健三、山下夏希、斉木由佳、谷澤亜里、中村が行った。
4. 本書に掲載した挿図の製図は調査担当者の他、林由紀子が行った。
5. 本書に掲載した遺構写真の撮影は調査担当者が行った。
6. 遺構番号は通し番号とし、遺構略号を付している。
7. 本書使用した座標は国土座標Ⅱ系で、使用した方位は磁北である。
8. 本調査に関わる記録、遺物等は福岡市埋蔵文化財センターに取蔵保管される予定である。
9. 本書の執筆は石器を山口が、動物遺存体を屋山洋が、他を中村が行った。

## 本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査組織	1
II. 位置と環境	2
1. 位置と環境	2
2. これまでの調査	3
III. 調査の記録	6
1. 調査概要	6
2. 竪穴住居	7
3. 掘立柱建物	20
4. 土坑	26
5. 溝	56
6. その他の遺構・遺物	62
IV. おわりに	71

挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第2図	蒲田部木原遺跡群調査区位置図 (1/8,000)	3
第3図	第10次調査区位置図 (1/600)	4
第4図	第10次調査区割付図 (1/400)	5
第5図	SC253実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)	6
第6図	SC476実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)	7
第7図	SC563実測図 (1/60)	8
第8図	SC563出土遺物実測図 (1/3・1/2)	9
第9図	SC930実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)	10
第10図	SC939・1127実測図 (1/60)	11
第11図	SC1190実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3・1/2)	12
第12図	SC1300実測図 (1/60)	13
第13図	SC1300出土遺物実測図 (1/3・1/2)	14
第14図	SC1364実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3・1/2)	15
第15図	SC1400実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)	16
第16図	SC1442・1558実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3・1/2)	17
第17図	SC2154実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3・1/2)	18
第18図	SC2186・3251・3252実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)	19
第19図	SB3300～3302実測図 (1/60)	21
第20図	SB3303・3304実測図 (1/60)	22
第21図	SB3305～3307実測図 (1/60)	23
第22図	SB3308～3312実測図 (1/60)	24
第23図	SB 3313実測図 (1/60)	25
第24図	SK1・56・141・252実測図 (1/40)	26
第25図	SK1・56出土遺物実測図 (1/3)	27
第26図	SK141出土遺物実測図 (1/3)	28
第27図	SK252出土遺物実測図① (1/3)	29
第28図	SK252出土遺物実測図② (1/3)	30
第29図	SK254・255・256・369・442・445実測図 (1/40)	31
第30図	SK254・255・369出土遺物実測図 (1/3・1/2)	32
第31図	SK871・976・1088・1096・1097・1119実測図 (1/40)	33
第32図	SK976・1097・1119出土遺物実測図 (1/3)	34
第33図	SK1416・1477・1556・1687実測図 (1/40)	36
第34図	SK1416・1477・1556・1687出土遺物実測図 (1/3・1/2)	37
第35図	SK1700・1822・2029・2092実測図 (1/40)	38
第36図	SK1822・2029・2092実測図 (1/3・1/2)	39
第37図	SK2262・2401・2430・2433実測図 (1/40)	40
第38図	SK2262・2401出土遺物実測図 (1/3・1/2)	41
第39図	SK2401・2430出土遺物実測図 (1/6・1/3)	42
第40図	SK2434・2449・2450・2452実測図 (1/40)	43
第41図	SK2434・2449・2450出土遺物実測図 (1/3)	44
第42図	SK2452出土遺物実測図 (1/3・1/2)	45
第43図	SK2528・2547・2589・2595実測図 (1/40)	46
第44図	SK2547出土遺物実測図 (1/3・1/2)	47
第45図	SK2589・2595出土遺物実測図 (1/3)	48
第46図	SK2617・2655・2665・2669・2753実測図 (1/40)	49
第47図	SK2617・2655・2665・2753出土遺物実測図 (1/3)	50

第48図	SK2762・2880・2907・3006・3035・3038実測図 (1/40)	51
第49図	SK2762出土遺物実測図 (1/3)	52
第50図	SK2880・2907・3035・3038出土遺物実測図 (1/3)	53
第51図	SK2809・3038実測図 (1/40)	54
第52図	SK2809・3084出土遺物実測図 (1/3)	55
第53図	SD50~2400実測図 (1/40)	57
第54図	SD57・388・974出土遺物実測図 (1/3)	58
第55図	SD974・1570出土遺物実測図 (1/3)	59
第56図	SD1717出土遺物実測図 (1/3)	60
第57図	SD1717出土遺物実測図 (1/2・1/3)	61
第58図	その他の遺構 (1/40) および出土遺物実測図 (1/2・1/3)	63
第59図	北側包含層出土遺物実測図 (1/3)	64
第60図	北側包含層出土遺物実測図 (1/3)	65
第61図	各土抗および包含層出土石器実測図 (1) (1/2)	66
第62図	各土抗および包含層出土石器実測図 (2) (1/2)	67
第63図	各土抗および包含層出土石器実測図 (3) (1/1)	68
第64図	各土抗および包含層出土石器実測図 (4) (1/1)	69

#### 図版目次

図版 1	1. 調査区全景 (北から)	3. SC476 (南から)
	2. SC253 (南から)	5. SC930 (東から)
	4. SC563 (南から)	
図版 2	1. SC1127 (西から)	2. SC1190 (西から)
	3. SC1300 (西から)	4. SC1364 (東から)
	5. SC1558 (西から)	6. SC2154 (南から)
	7. SC2186 (東から)	8. SK1 (西から)
図版 3	1. SK141 (南から)	2. SK252遺物出土状況 (東から)
	3. SK252 (東から)	4. SK252土層 (北から)
	5. SK254 (北から)	6. SK254土層 (東から)
	7. SK255土層 (南から)	8. SK871 (西から)
図版 4	1. SK871土層 (南から)	2. SK976土層 (西から)
	3. SK1119 (東から)	4. SK1556 (西から)
	5. SK1822遺物出土状況 (北から)	6. SK2401遺物出土状況 (北から)
	7. SK2401 (北から)	8. SK2433 (東から)
図版 5	1. SK2434 (東から)	2. SK2589 (北から)
	3. SK2595 (南から)	4. SK2617 (東から)
	5. SK2762 (北から)	6. SK2809 (北から)
	7. SK2809土層 (北から)	8. SK3038 (北から)
図版 6	1. SK3084 (北から)	2. SD974 (西から)
	3. SD974 (東から)	4. SD1717 (東から)
	5. SD1717炭化物出土状況 (北から)	6. SD1717土層 (北から)
	7. SD2400 (東から)	8. SP933 (北から)
図版 7	1. SP1849 (北から)	2. SP2550 (東から)
	3. SP1152 (西から)	4. SP1909 (東から)
	5. SP2551 (西から)	6. SX1742 (西から)
	7. 北側包含層 (西から)	8. 北側包含層土層 (西から)

# 1. はじめに

## 1. 調査に至る経過

平成17年9月5日、萩尾重光氏より福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課へ福岡市東区蒲田3丁目1211-1他における埋蔵文化財の事前審査について依頼がなされた。これを受けた埋蔵文化財課では事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である蒲田部木原遺跡群に含まれることから確認調査が必要との判断をした。平成17年9月14日確認調査を行い、その結果、対象地の全面に遺構が存在することを確認した。平成17年12月8日、株式会社キョーワより同地区における倉庫建設に伴う埋蔵文化財の有無について照会があらためてなされた。先の確認調査の成果をもとに協議を重ねたが、現状での設計変更は不可能との判断から記録保存のための発掘調査を行うこととなった。株式会社キョーワと福岡市との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、平成17年12月21日より調査を開始し、予定期間より1ヶ月延長して平成18年4月28日に終了した。

## 2. 調査体制

(2005年度)

調査委託 株式会社キョーワ

調査主体 福岡市教育委員会

調査総括 文化財部長 山崎純男

埋蔵文化財課長 山口譲治

調査第2係長 池崎譲二

事前審査 事前審査係長 濱石哲也

主任文化財主事 吉留秀敏

事前審査係 本田浩二郎

調査庶務 文化財整備課管理係 鈴木由喜

調査担当 調査第2係 中村啓太郎

発掘作業 宮崎雅秀 井上ヨシ子 田中フキ子 光安晶子 田端名穂子 中村幸子

花田則子 阿部純子 崎村雄介 竹原吉秋 永松弘恵 野田トヨ子 花田昌代

藤澤義一 野口リュウ子 高手興子 兼田ミヤ子 保坂由美子 小路丸嘉人

中野裕子 安元尚子 岩崎義隆 波賀久雄 川田強司 平田周二 藤野雅基

近藤澄江 村田敬子 浦伸英 本郷満子 関哲也 尊田絹代 宗像正勝 中村桂子

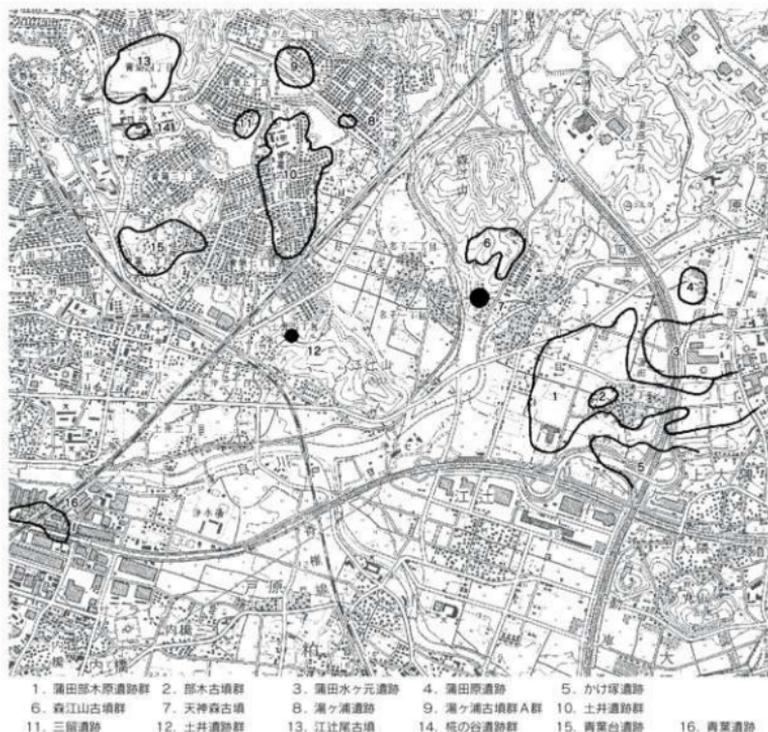
徳山孝江 遠山勲 原勝輝 芹川淳子

(2007年度)

整理作業 有島美江 林由紀子 岩隈香吹里 柴田志乃 宮崎まり子 渡辺敦子 庄崎智子

最後になりましたが、調査にあたり、株式会社キョーワをはじめとする関係者の方々には多大なご協力のご理解をいただきました。

また、調査終盤の土曜日、日曜日には休日にも関わらず多くの文化財部職員の方々からご協力をいただきました。記して感謝いたします。

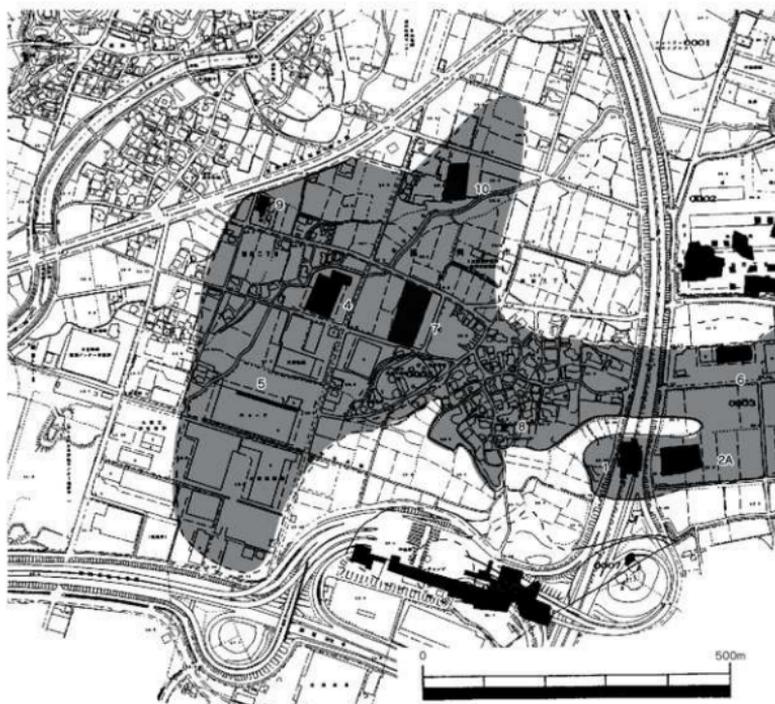


第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

## II. 位置と環境

### 1. 位置と環境

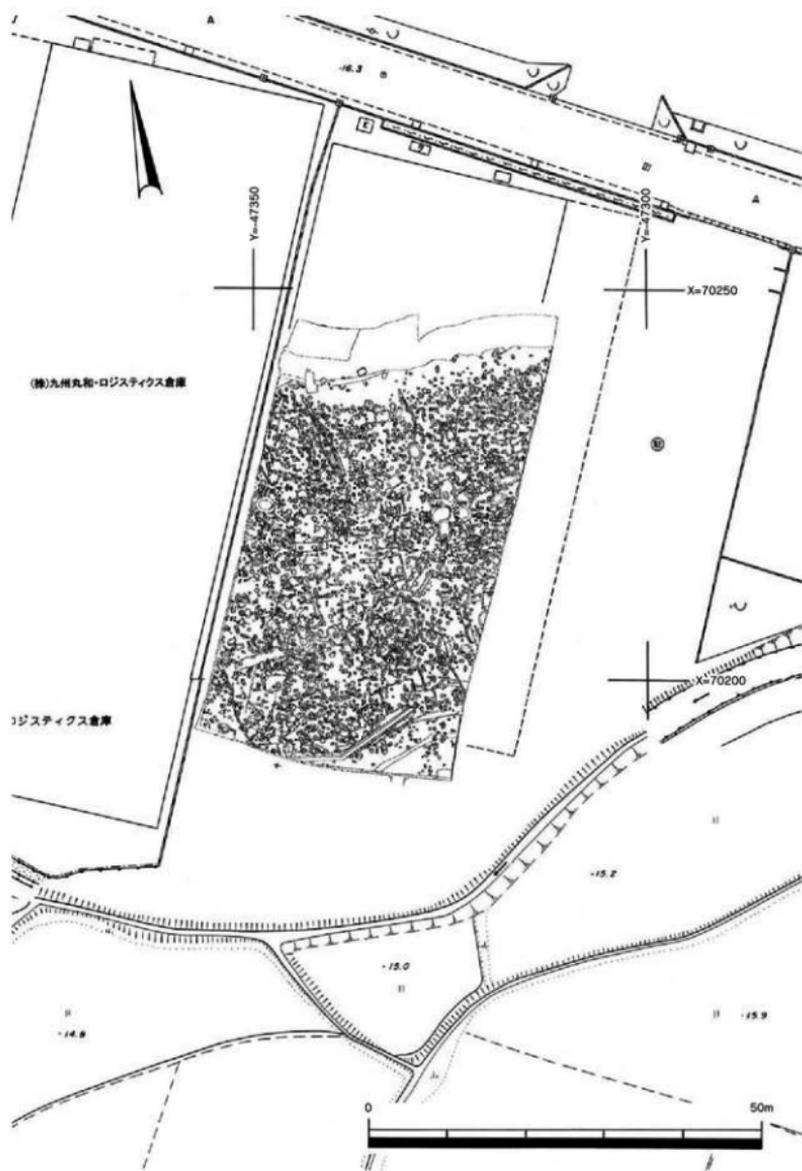
蒲田部木原遺跡群は福岡市の東部、粕屋町との境、久原川と多々良川に挟まれた丘陵及び沖積地に立地する。この地域には本遺跡群に接するように多くの遺跡が存在している。本調査地点の南に位置する部木古墳群は9基からなる古墳群であるが、1998年の重要確認調査で周知の1号墳に加え、2号墳も前方後方墳であることが確認されている。北に接した蒲田水ヶ元遺跡では弥生時代中期の甕棺墓、弥生時代後期から古墳時代の竪穴住居、掘立柱建物、方形周溝遺構が確認されている。その北には蒲田原遺跡が位置する。南にはかけ塚遺跡群が位置し、弥生時代の甕棺墓、土壘墓、古墳時代の竪穴住居、中世の敷石遺構等が確認されている。



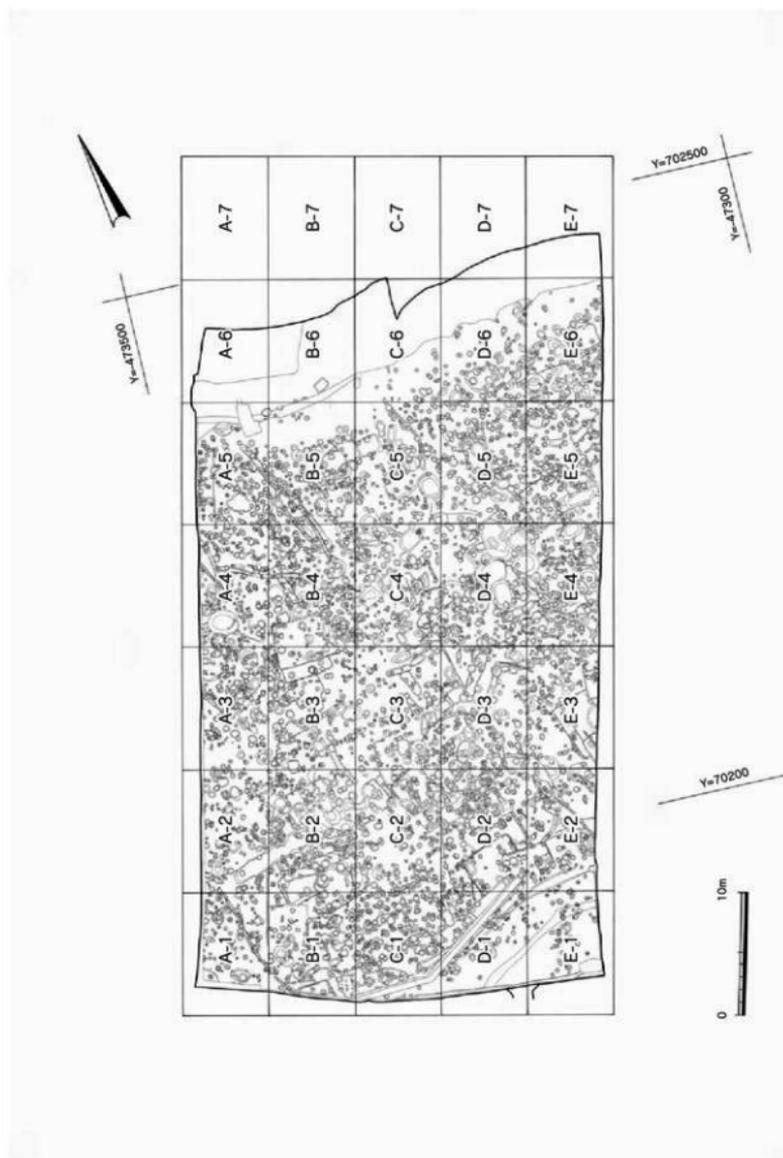
第2図 蒲田部木原遺跡群調査区位置図 (1/8,000)

## 2. これまでの調査

調査次数	調査番号	所在地	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	時代	主な遺構	報告書
第1次	7215	(蒲田字業師)	1973.6.16～ 1973.8.11	900	旧石器時代	包含層 土坑	33集
第2次	8452	蒲田	1984.11.5～ 1985.1.8		古墳時代～ 中世	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝	柏屋町 第2集
第3次	9341	蒲田字部木原397他	1993.11.2～ 1994.5.31	2888	弥生時代～ 奈良時代	竪穴住居 掘立柱建物	446集
第4次	9517	蒲田2-777-1	1995.6.1～ 1995.9.19	2915	弥生時代～ 古墳時代	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝	531集
第5次	9652	蒲田2-787-787-1	1996.10.21～ 1996.11.16	936	弥生時代～ 古墳時代	竪穴住居 土坑 溝	550集
第6次	9732	蒲田4-376他	1997.8.6～ 1997.9.22	1450	13世紀	掘立柱建物 土坑 溝 木棺墓	589集
第7次	0328	蒲田3-711-1他	2003.6.21～ 2003.8.11	213	弥生時代	甕棺墓 木棺墓 土坑 溝	836集
第8次	0439	蒲田3-522-1他	2004.7.27～ 2004.7.28	78	弥生時代	甕棺墓 祭祀土坑	整理中
第9次	0469	蒲田2-1084-1	2004.11.26～ 2005.1.6	450	不明	柱穴	年報 VOL.19
第10次	0556	蒲田3-1211-1他	2005.12.22～ 2007.4.28	1850	弥生時代～ 古墳時代	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝	976集



第3図 第10次調査区位置図 (1/600)

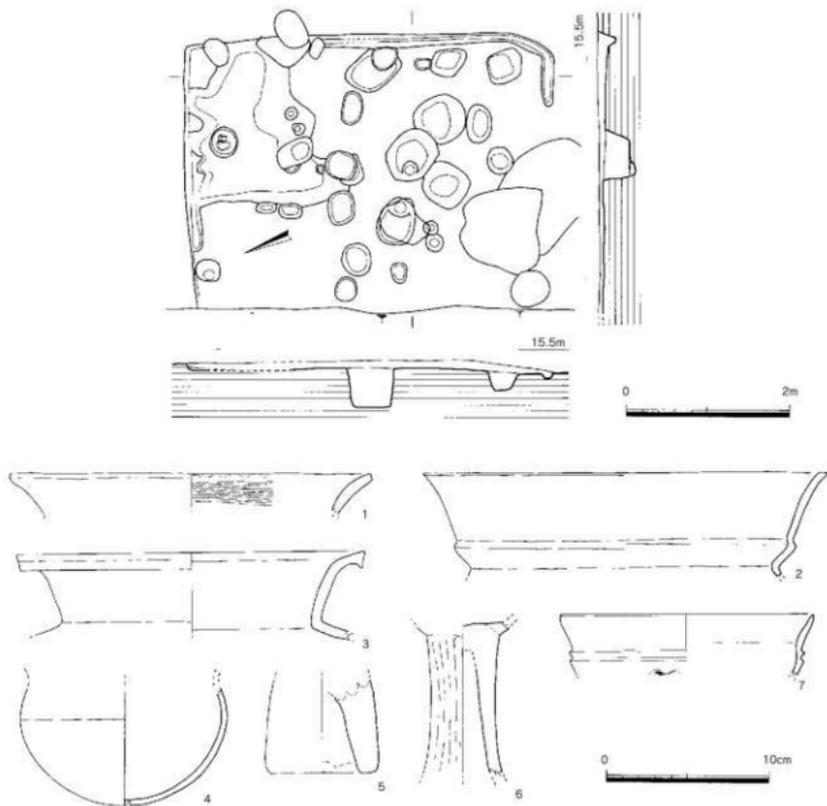


第4図 第10次調査区割付図 (1/400)

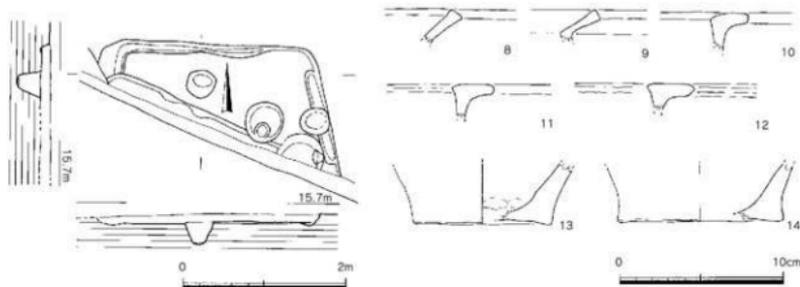
### Ⅲ. 調査の記録

#### 1. 調査概要

蒲田部木原遺跡群第10次調査区は遺跡群の北端部に位置する。この地点はかつて周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、新たに追加された地区にあたる。現況は水田である。調査は平成17年12月21日より事業者提供の重機による表土剥ぎから開始した。初日から天候に恵まれず、雨であった。当初は対象面積すべての表土を掘削する予定であったが、天候の悪さ、養生の問題、予想以上の遺構密度から一旦、東半分を終了した時点で中断し、人力による検出作業に切り替え、様相を把握することに努めた。検出作業は南東から開始し、順次、遺構の掘削、実測作業を行った。本地点は湧水が激



第5図 SC253実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)



第6図 SC476実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)

しく、10cm程掘削した段階で水が滲んでくる状況であり、掘削も困難を極めた。

調査区の基本層序は耕作土、(20cm)、床土 (10~20cm) 暗褐色粘質土 (包含層 10~30cm)、黄褐色粘質シルト (遺構検出面) となる。

検出した遺構は弥生時代から古墳時代にいたる竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、旧河川、柱穴等である。調査区北側には良好な包含層が形成される。また旧河川が東西方向に流れ、これが遺構分布の北限になると考えられる。

なお、各遺構の位置標記について図面割付 (第4図) を用いる。割付は調査区の長軸に合わせて設定した。遺構番号は通し番号で付している。調査時に付した番号は3201までである。その後の整理段階で確認したものや図上で復元した建物については3301から番号を付している。

## 2. 竪穴住居

現時点で16軒を確認しているが、全体的に遺存状況が悪い。壁が削平された住居については検討できていない。

### SC253 (第5図)

B-1区に位置する。平面形は方形である。南北長で4.5m、壁高0.1mを測る。覆土には焼土、炭化物を多く含む。住居中央部には0.6×0.4mの焼土面があり炉跡であろう。

出土遺物 (第5図) 1~3は甕である。1は復元口径21.8cmを測る。口縁部外面は風化、内面はハケメを施す。端部に指頭痕が残る。2は山陰系で復元口径23.6cmを測る。器面は風化により調整不明。3は土師質で口頸部は外反し、口縁端部は肥厚する。4は鉢か。5は器台。6は高坏の脚部。7は須恵器の高坏で復元口径15.6cmを測る。体部に櫛描波状文を施す。

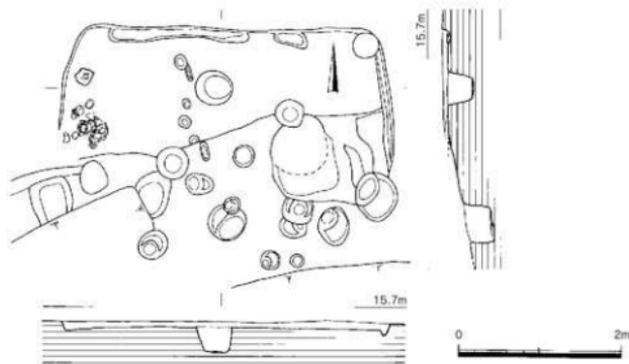
### SC476 (第6図)

B-1区に位置する。南側が調査区外に延びる。平面形は方形であろう。東西長で2.7m、壁高0.1mを測る。

出土遺物 (第6図) 弥生土器の細片が出土している。8~12は甕の口縁部。13・14は甕の底部。いずれの土器も風化により調整は不明。

### SC563 (第7図)

D・E-2区に位置し、SC1190・1384・1400を切る。南側を近年の造成により削平される。平面形は方形を呈し、両端のわかる東西で4.0m、壁高0.1m弱を測る。



第7図 SC563実測図 (1/60)

出土遺物 (第8図) 15~18は土師器の甕である。15は復元口径15.2cmを測る。外面はハケメを施す。内面は風化が進むがナデか。16は厚手の作りで風化が進むが内外面とも僅かにハケメが残る。17は口径13.6cm、器高17.3cmを測る。厚手の作りで外面はハケメ、内面はナデを施すが接合痕が残る。18は外面はハケメ、内面はナデを施す。19は甕か。外面はハケメ、内面はナデを施す。21は高坏の脚部。20・22・23は鉢である。20は復元口径16.4cm。口縁部は僅かに外反する。22・23は丸底で内外面ともナデを施す。24は土製の玉。

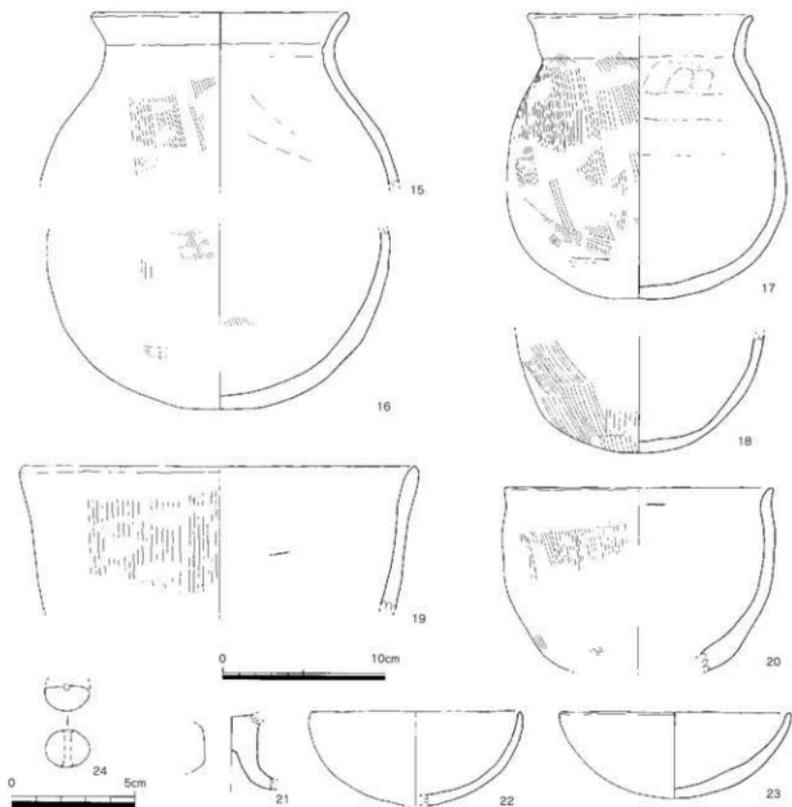
#### SC930 (第9図)

E-3区に位置する。東側が調査区外に延びる。平面形は方形であろう。東西長で3.3m、壁高0.15mを測る。支柱穴は確認できていない。

出土遺物 (第9図) 25・26は土師器の甕である。25は復元口径15.6cmを測る。外面は風化のため調整不明。胴部内面はケズリを施す。26は復元口径14.6cmを測る。外面は粗いハケメ、内面はケズリを施す。27は甕である。復元口径11.4cmを測る。外面はハケメ、内面はケズリを施す。28~32は鉢である。28は復元口径14.4cm、器高5.3cmを測る。外面上部はナデ、下部はハケメの後ナデ、内面はナデを施す。29は復元口径13.2cmを測る。内外面ともナデを施す。30は復元口径12.4cm、器高5.3cmを測る。内外面ともナデを施す。底部にハケメが残る。31は復元口径13.6cmを測る。口縁端部が僅かに外反する。外面上部はナデ、下部はハケメ、内面はナデを施す。32は復元口径12.0cmを測る。口縁端部が外反する。外面上部はナデ、下部はハケメの後ナデ、内面はナデを施す。33は高坏の脚部。34は把手である。

#### SC939 (第10図)

B-2区に位置する。平面形は方形を呈する。南北長で6.8m、壁は残りが悪く高さ5cm程しか遺存しない。この地点には遺構が集中し、切り合いが著しく、各遺構との前後関係が判り難い。支柱穴等の内部構造が判別できなかった。図上に表われるSD974やSK252等は下層の遺構である。遺物は弥生土器の細片が出土しているが遺構に伴うものか確定できない。



第8図 SC563出土遺物実測図 (1/3・1/2)

**SC1127 (第10図)**

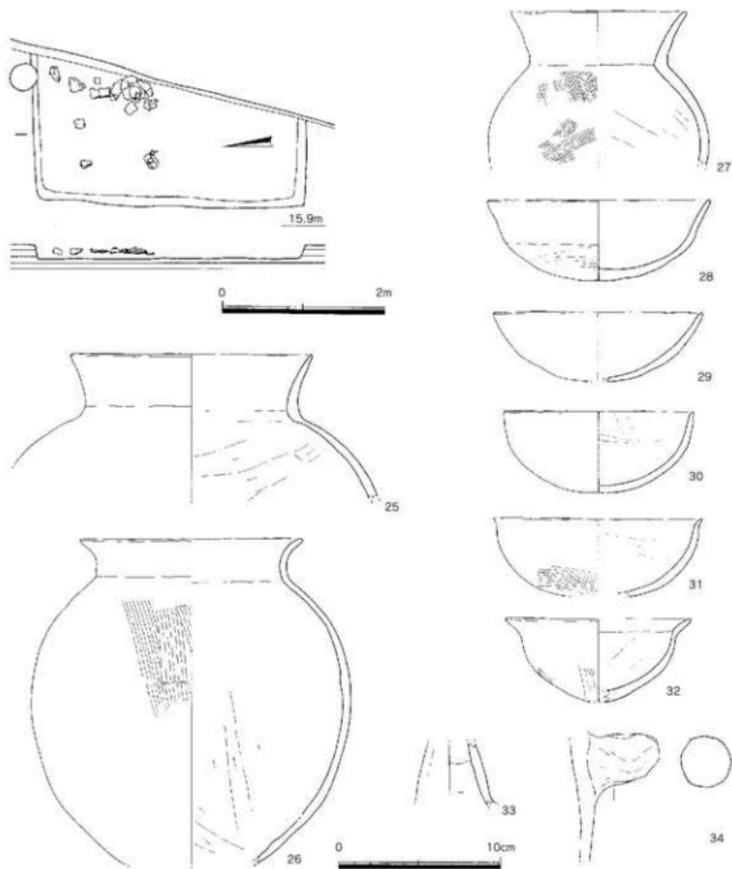
C-1区に位置する。平面形は方形を呈すると考えられる。中央部に径0.5mの焼土面があり炉跡であろう。南北長5.2mを測る。壁の遺存状況は悪くほとんど残らない。

遺物は弥生土器の細片が出土している。

**SC1190 (第11図)**

D-2区に位置し、SC563に切られ、南側を近年の造成により削平される。平面形は方形を呈する。東西長4.5m、壁高0.3mを測る。炉跡は中央やや東よりに位置し、径0.6m、深さ0.1mを測る。内部には炭化物が堆積している。

出土遺物 (第11図) 35~38は弥生土器の甕である。35は復元口径23.4cmを測る。内外面とも風化により調整不明。36は復元口径19.8cmを測る。風化が著しいが、外面にハケメが残る。39~42は

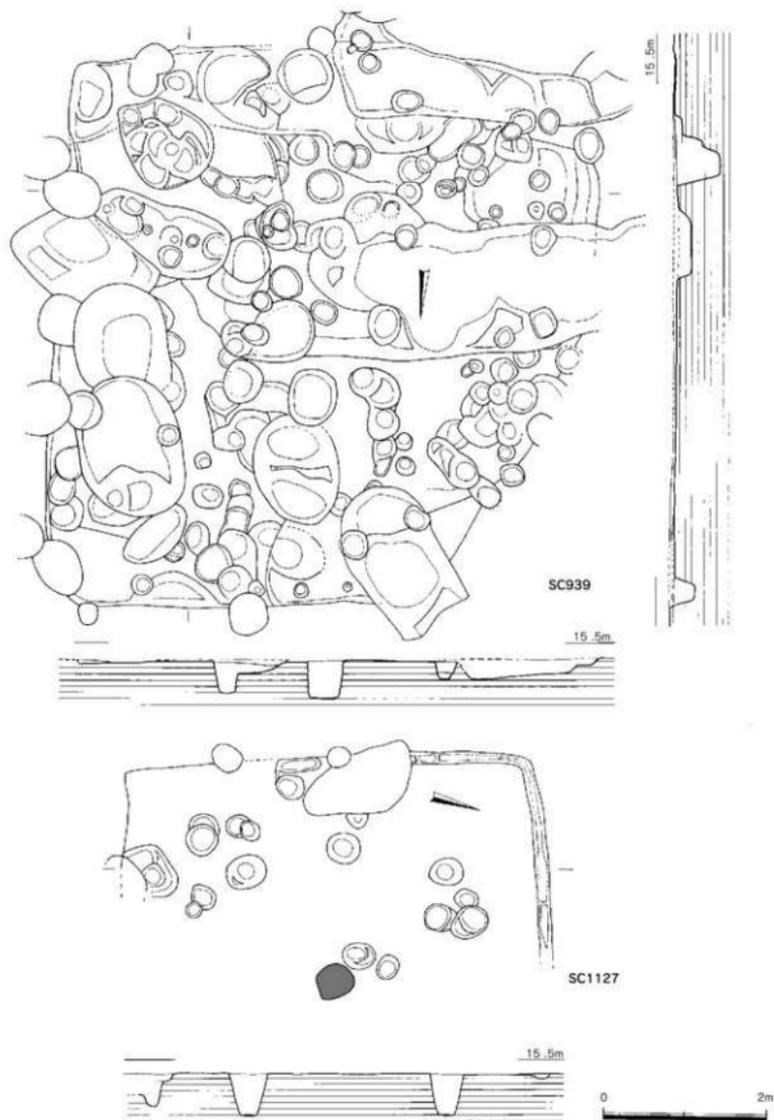


第9図 SC930実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)

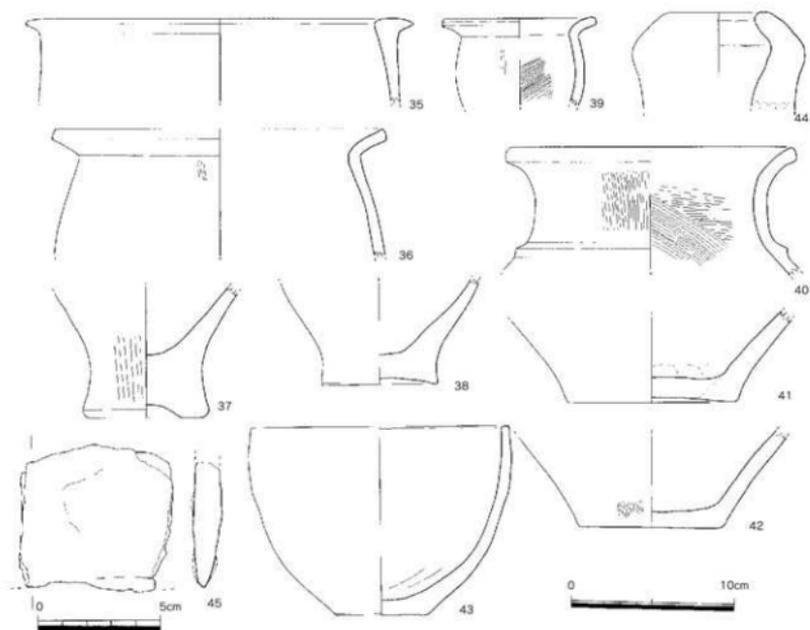
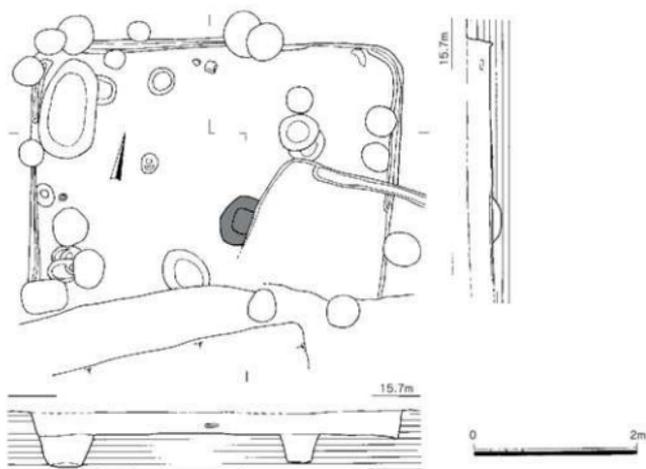
壺である。39は外反する口縁を成し、復元口径9.0cmを測る。口縁部はヨコナデ、他はハケメを施す。40は外反する口縁を成し、頸部に突帯を巡らす。43は鉢で、口径15.6cm、器高11.4cmを測る。底部内面はケズリ、他はナデを施す。44は器台。45は鉄器で両端を欠損している。刃部か。

#### SC1300 (第12図)

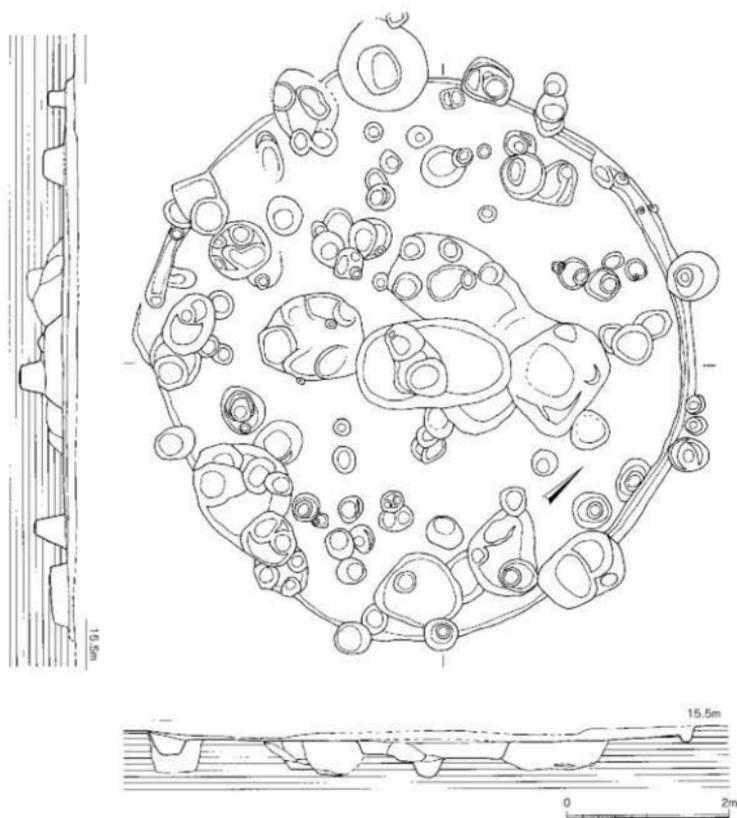
C-2・3、D-2・3区に位置し、遺構の重なりが著しい。SC1400を切る。平面形は円形を呈する。径6.7~6.9m、壁高0.1mを測る。中央部に長さ190cm、深さ20cmの土坑を付設する。主柱



第10図 SC939・1127実測図 (1/60)



第11図 SC1190実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3・1/2)



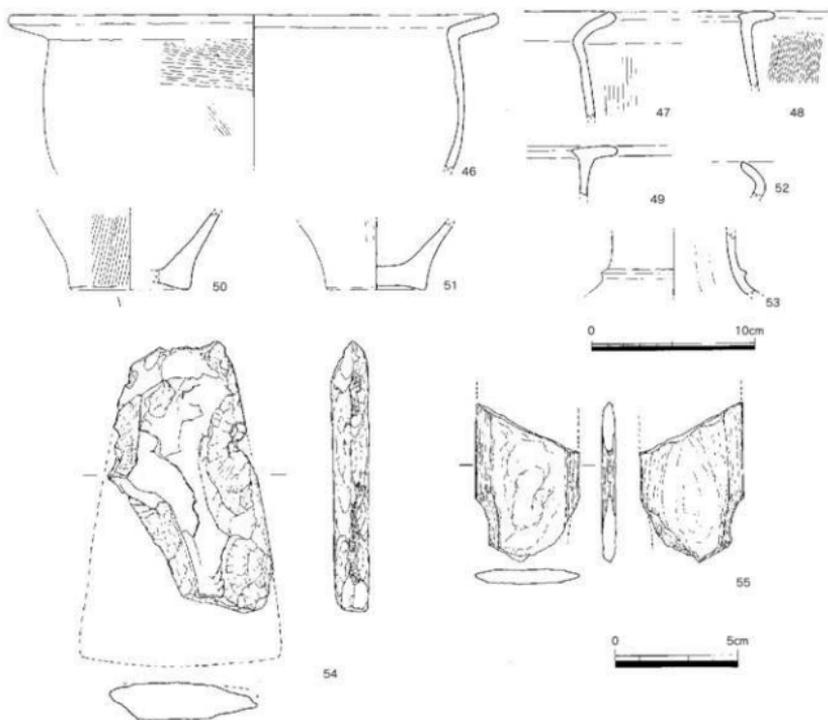
第12図 SC1300実測図 (1/60)

穴は内部に多数の柱穴が切り込むため確定しがたいが、中心から2.5m前後を巡る柱穴がこれに該当すると考えられ、6~8本であろう。

出土遺物(第13図)46~51は弥生土器の甕である。46は復元口径29.6cmを測る。外面は上部が横方向のハケメ、以下は風化が進むが斜め方向のハケメが残る。内面はナデを施す。52・53は袋状口縁壺で丹塗りを施す。54は頁岩製の打製石斧で欠損が著しい。55は石剣。

#### SC1364(第14図)

E-2区に位置し、SC563・1300・1190に切られる。北側を段上に造成する。壁高0.1mを測る。出土遺物(第14図)56~60は弥生土器の甕である。56はく字状の口縁を成し、短部を僅かに跳ね上げる。57~60は逆し字状の口縁で59は突帯を巡らす。62は壺の底部。63は高杯の脚部。64は滑石製品を再利用した勾玉である。



第13図 SC1300出土遺物実測図 (1/3・1/2)

#### SC1400 (第15図)

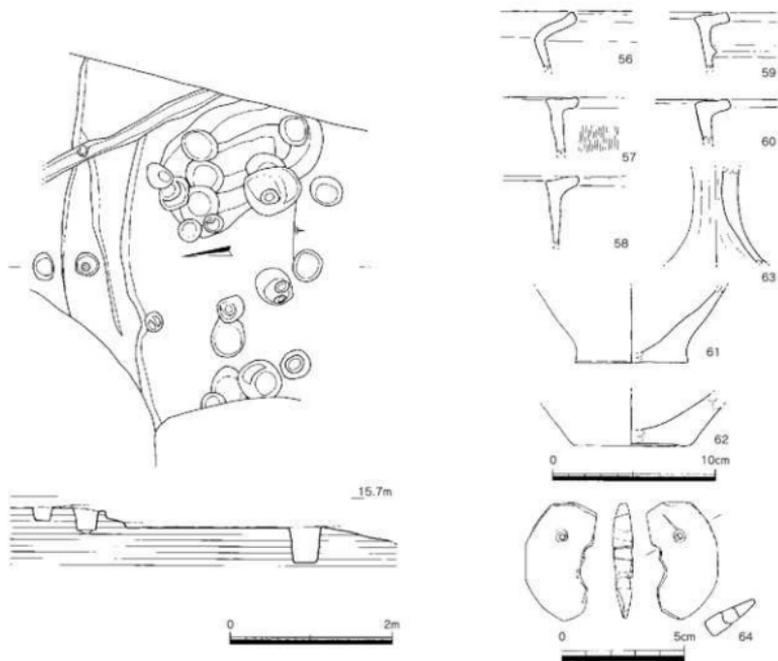
D-2・3、E-2・3区に位置し、SC563に切られる。平面形は円形を呈する。径8.5~8.9m、壁高0.1mを測る。中央部に長さ130cm、深さ40cmの土坑を付設する。主柱穴は内部に多数の柱穴が切り込むため確定しがたいが、中心から2.5m前後を巡る柱穴がこれに該当すると考えられる。

出土遺物(第15図)65~67は弥生土器の甕である。65は復元口径33.0cmを測る。内外面とも風化により調整不明。66は口縁端部を跳ね上げる。67は端部を丸くおさめる。

#### SC1442・1558 (第16図)

B-4区に位置する。SC1442が1558に切られる。当初、SC1442をベッド状遺構と考えたが1558内にややずれた壁溝が確認されたため2軒とした。ともに平面形は方形を呈する。SC1558は東西4.9m、南北3.7m、壁高0.15mを測る。中央部に炉を有し、これを挟み主柱穴が配置される。東壁際には屋内土坑が付設する。本来は南北にベッド状遺構が付くものか。

出土遺物(第16図)68・69は壺。70・71は甕底部。72・73は鉢。72は丸底で外面はハケメ、内



第14図 SC1364実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3・1/2)

面はナデを施す。復元口径13.0cm、器高5.0cm。73は平底で外面はハケメ、内面はナデを施す。復元口径16.4cm、器高9.2cm。74は土製の紡錘車。75は立岩産石包丁。76・77は砥石。

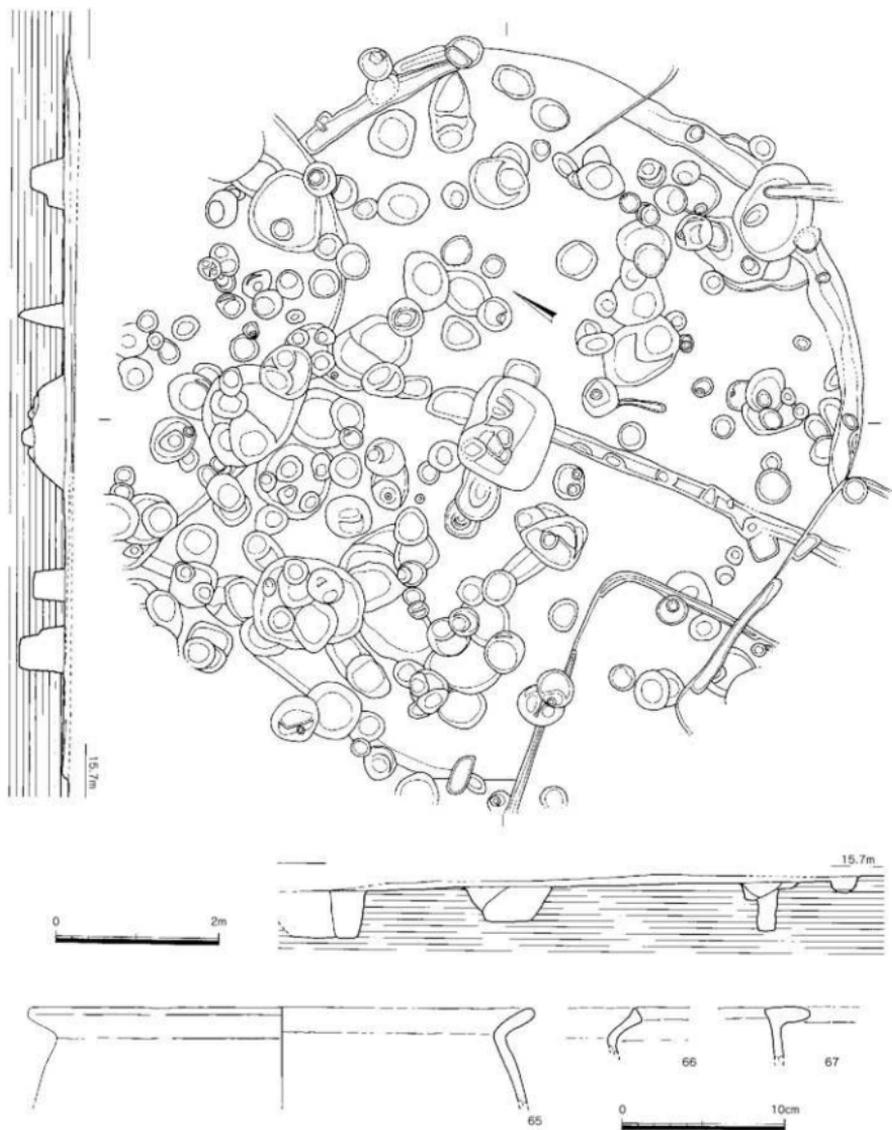
#### SC2154 (第17図)

E-3区に位置し、SC930に切られ、東側は調査区外に延びる。平面形は方形を呈する。南北長4.85m、東西長4.3m以上、壁高0.2mを測る。西側に幅0.8mのベッド状遺構が付設する。

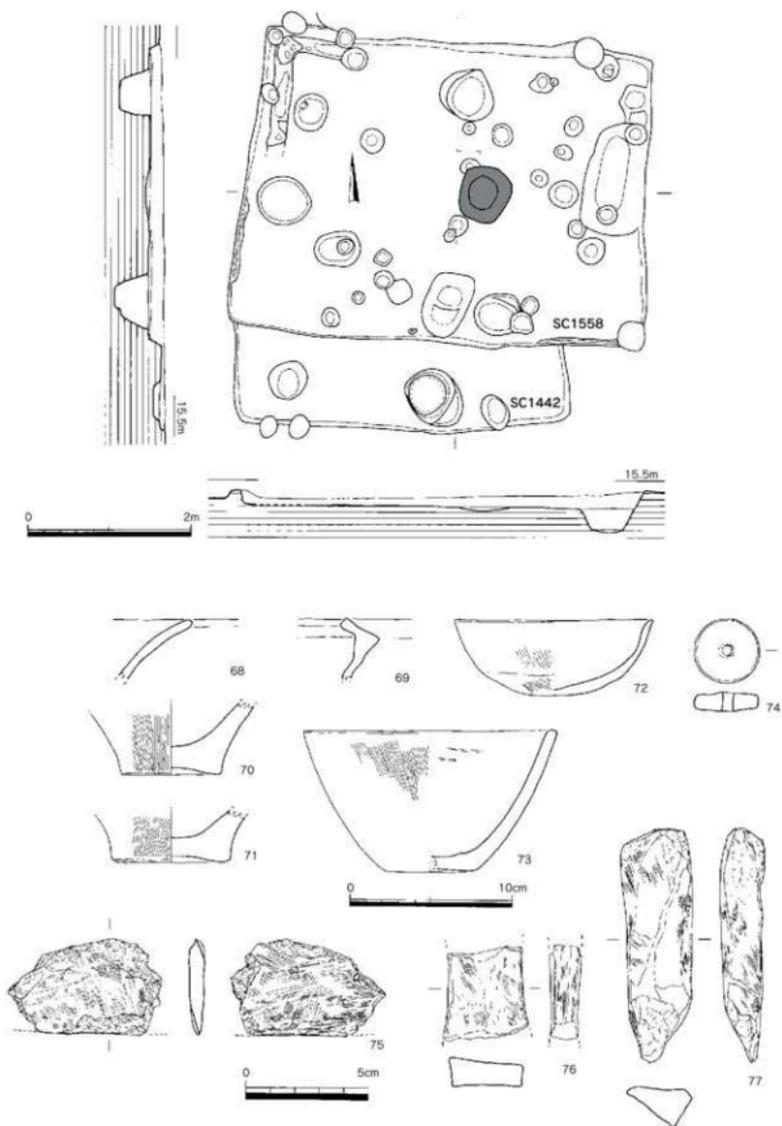
出土遺物 (第17図) 78~81は土師器の甕。78~80は僅かに内湾する口縁をなす。外面は風化により調整不明。内面はケズリを施す。81は肩部がやや歪んでいる。82~84は鉢。82は脚付きで口径18.6cm、器高10.9cm。体部は風化により調整不明。脚部はヨコナデを施す。83は復元口径12.2cm。内外面ともナデを施す。84は復元口径8.2cm。外面は風化、内面はハケメを施す。85は高杯の脚部。86は須恵器の高坏で復元口径15.6cmを測る。体部に櫛描波状文を施す。87は砥石。

#### SC2186 (第18図)

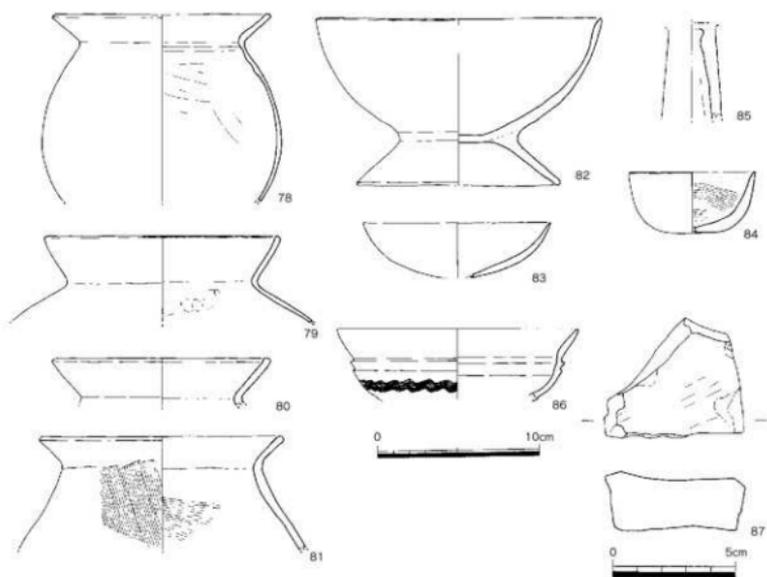
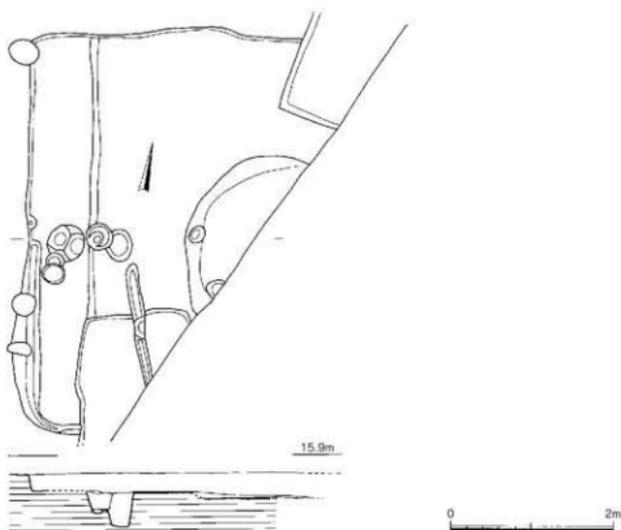
E-5区に位置する。平面形は方形を呈する。南北長3.7m、東西長3.6m、壁高0.1mを測る。この地点には遺構が集中し、切り合いが著しく、各遺構との前後関係が判り難い。主柱穴は2本か。炉跡は中央部西寄りに付設する。



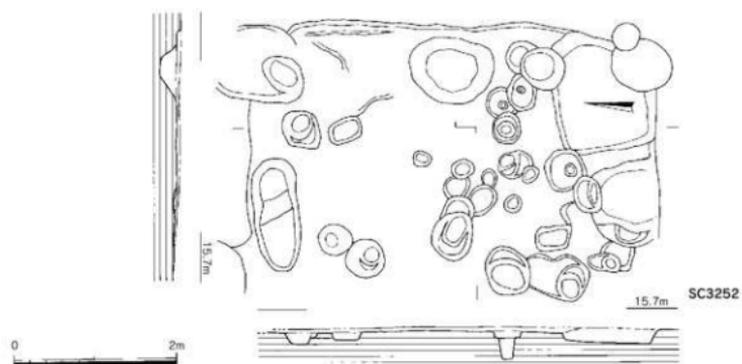
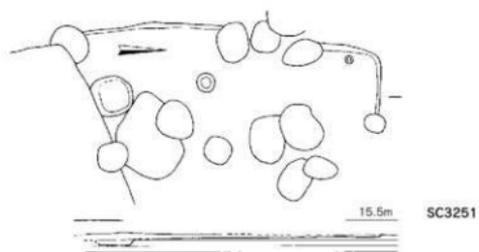
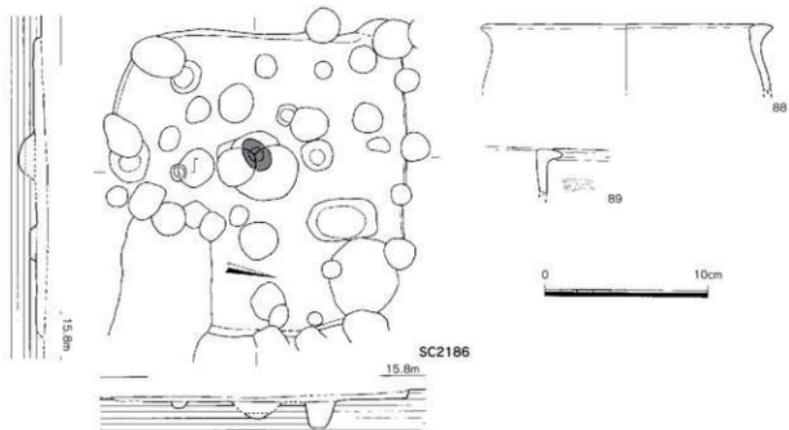
第15図 SC1400実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)



第16図 SC1442・1558実測図(1/60)および出土遺物実測図 (1/3・1/2)



第17図 SC2154実測図(1/60)および出土遺物実測図(1/3・1/2)



第18図 SC2186・3251・3252実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)

出土遺物（第18図）88・89は弥生土器の甕である。88は復元口径19.0cmを測る。内外面とも風化により調整不明。89は外面はハケメを施す。内面は風化により不明。

#### SC3251（第18図）

C-2区に位置し、SC1127に切られる。平面形は方形を呈する。南北長3.7m以上、壁は遺存状況が悪くほとんど残らない。遺物は出土していない。

#### SC3252（第18図）

C-3、D-3区に位置する。平面形は方形を呈する。南北長4.9m以上、壁は遺存状況が悪くほとんど残らない。南東隅に土坑が付設する。遺物は出土していない。

### 3. 掘立柱建物

調査時に確認したSB3300を除き、図上で復原したものである。建物は地形に沿った東西方向や直交する南北方向に建つものが多い。検出した柱穴の数に比べ、復元できた建物は一部にすぎない。

#### SB3300（第19図）

C-4区に位置する1×1間以上の建物である。短辺3.0m、長辺3.4mを測る。掘方内は柱の周りに礫を詰め込んで根固めしている。確認できた柱痕の径は15～20cm前後。柱穴より弥生土器が出土しているが、建物方向や柱穴の構造が他のものと異なることや切り合いから時期が新しい可能性がある。

#### SB3301（第19図）

C-3区に位置する2×2間の建物である。短辺2.2～2.3m、長辺3.0mを測る。確認できた柱痕の径は10～15cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

#### SB3302（第19図）

C-1・2区に位置する2×2間の建物である。短辺3.3～3.4m、長辺4.0～4.1mを測る。確認できた柱痕の径は20～25cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

#### SB3303（第20図）

B・C-2区に位置する2×4間の建物である。短辺4.1～4.3m、長辺6.8～6.9mを測る。確認できた柱痕の径は20～25cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

#### SB3304（第20図）

B・C-1区に位置する2×3間の建物である。短辺2.4～2.5m、長辺4.9～5.1mを測る。確認できた柱痕の径は15～20cm前後。柱穴より弥生土器、須恵器が出土している。

#### SB3305（第21図）

B-5区に位置する2×2間の建物である。短辺2.7～2.8m、長辺3.3mを測る。確認できた柱痕の径は20cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

#### SB3306（第21図）

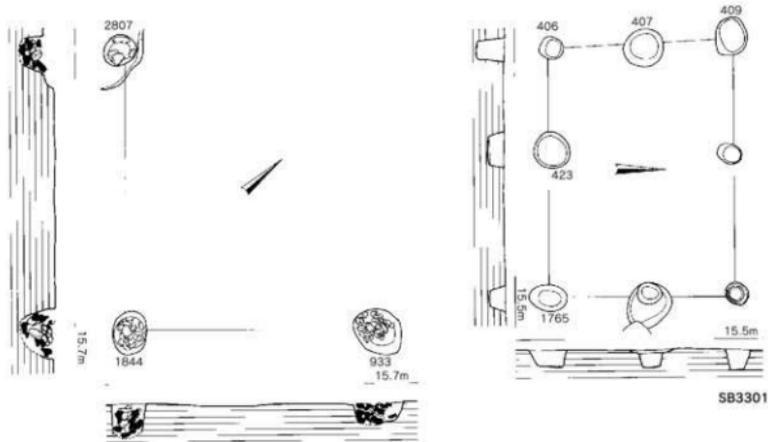
A・B-3区に位置する1×2間の建物である。短辺2.2～2.3m、長辺3.0mを測る。確認できた柱痕の径は15～20cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

#### SB3307（第21図）

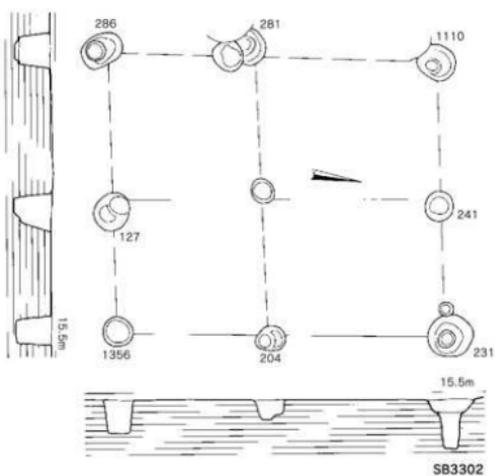
B-1区に位置する2×2間以上の建物である。短辺4.3m、長辺4.4m以上を測る。確認できた柱痕の径は20～25cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

#### SB3308（第22図）

E-4区に位置する1×2間の建物である。短辺1.1m、長辺1.7mを測る。柱穴より弥生土器の細片が出土している。



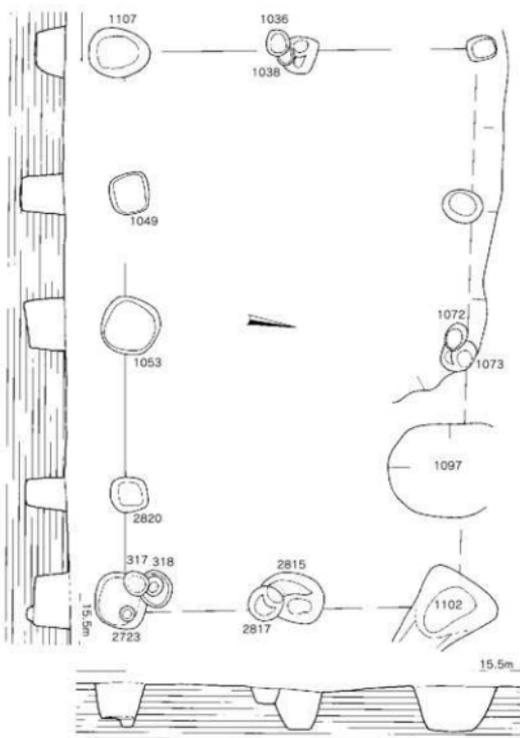
SB3300



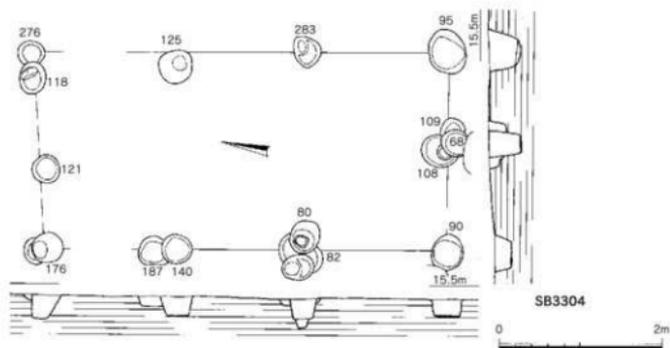
SB3302



第19图 SB3300~3302実測図 (1/60)

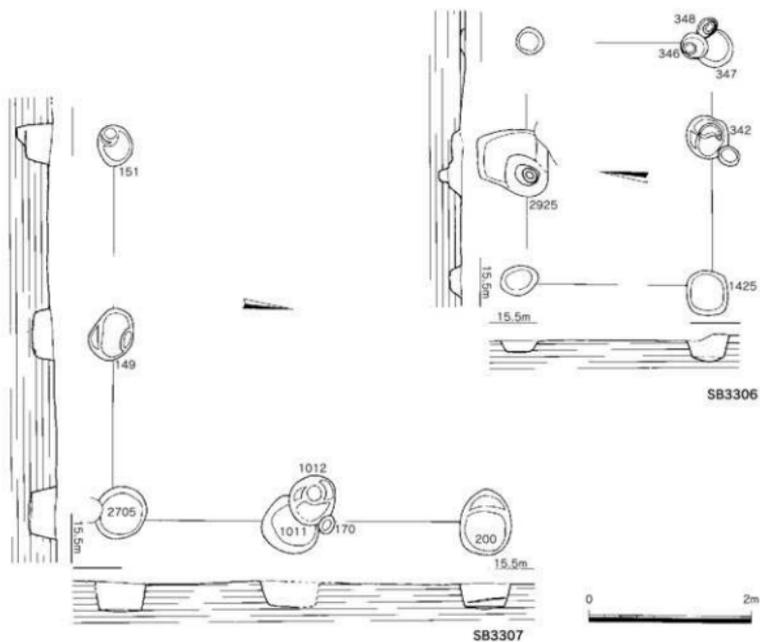
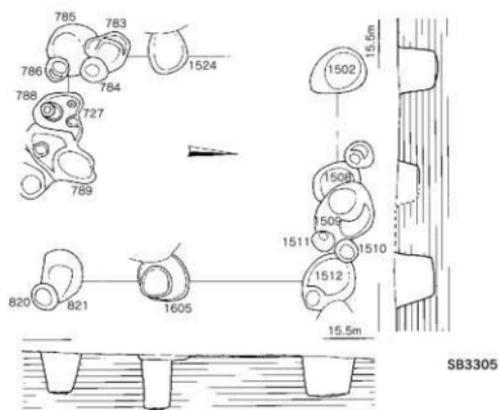


SB3303

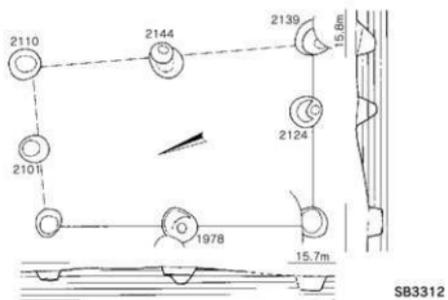
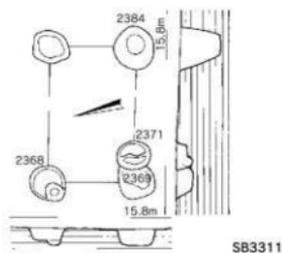
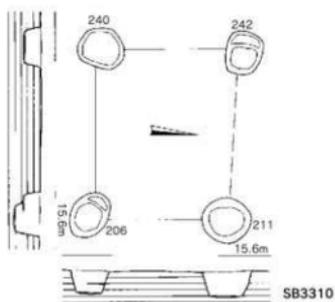
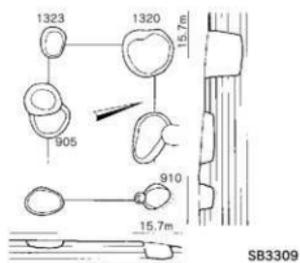
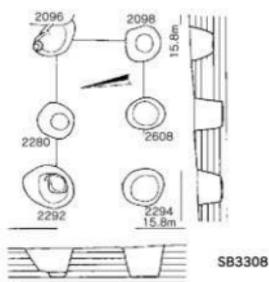


SB3304

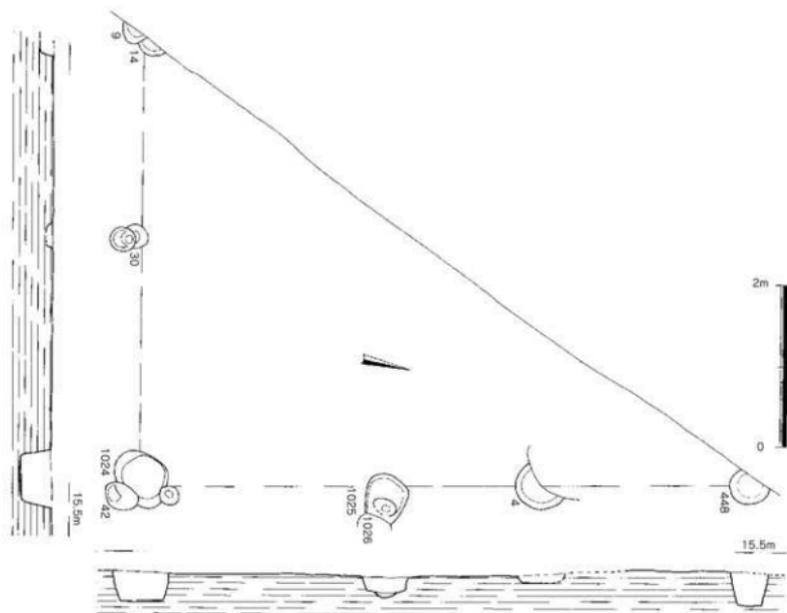
第20図 SB3303・3304実測図 (1/60)



第21图 SB3305~3307実測図 (1/60)



第22図 SB3308~3312実測図 (1/60)



第23図 SB 3313実測図 (1/60)

**SB3309** (第22図)

D・E-3区に位置する1×2間の建物である。短辺1.3m、長辺1.9mを測る。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

**SB3310** (第22図)

C-2区に位置する1×1間の建物である。短辺1.5~1.6m、長辺2.1mを測る。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

**SB3311** (第22図)

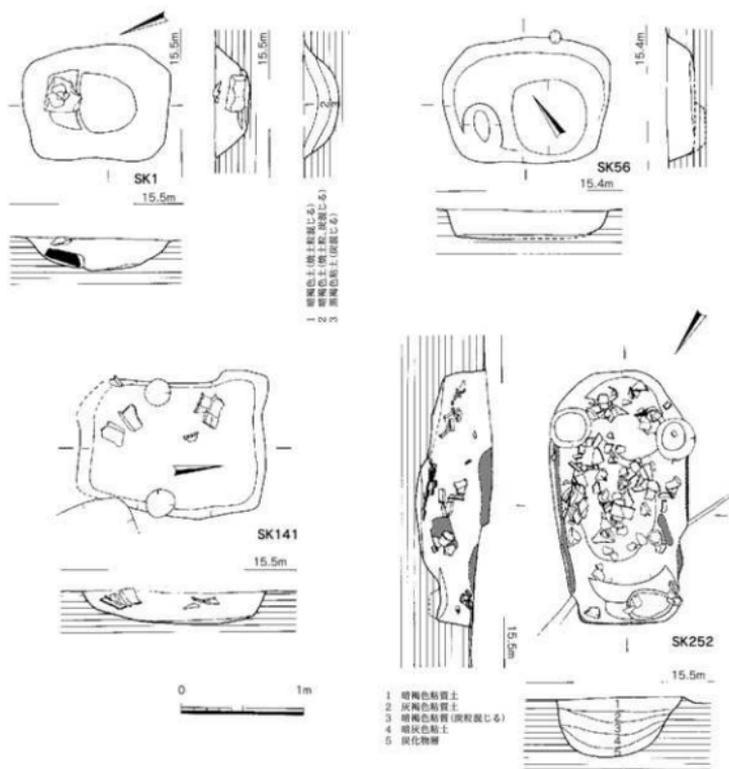
E-5区に位置する1×1間の建物である。短辺1.0m、長辺1.6~1.7mを測る。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

**SB3312** (第22図)

D-5区に位置する2×2間の建物である。短辺2.0~2.2m、長辺3.2~3.4mを測る。柱穴より弥生土器の細片が出土している。

**SB3313** (第23図)

A-2区に位置する2×3間以上の建物である。東側が調査区外に延びる。確認できた柱痕の径は20cm前後。柱穴より弥生土器の細片が出土している。



第24図 SK1・56・141・252実測図 (1/40)

#### 4. 土坑

##### SK1 (第24図)

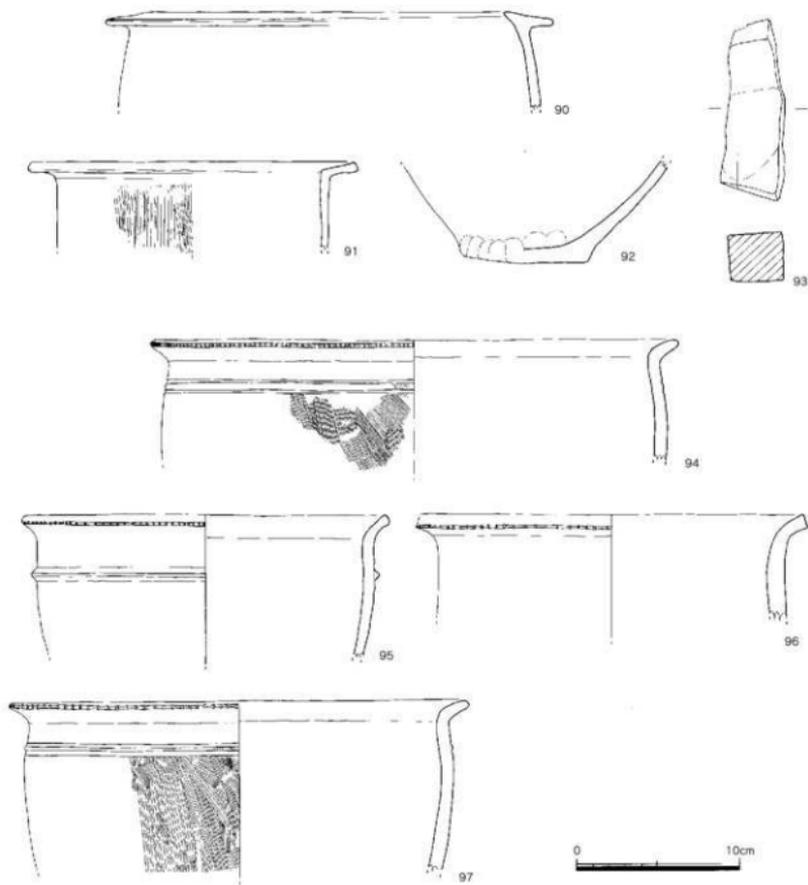
A-2区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、北側にテラスを有する。長さ116cm、幅93cm、深さ27cmを測る。覆土には炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物(第25図) 90・91は弥生土器の甕。90は復元口径27.1cm。風化により調整不明。91は復元口径20.0cm。外面はハケメ、内面はナデを施す。92は壺。内外面に指頭痕が残る。93は砥石。

##### SK56 (第24図)

A-1区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、底面に径30cmの小穴が付設する。長さ133cm、104cm、深さ24cmを測る。

出土遺物(第25図) 94~97は弥生土器の甕である。94は復元口径32.0cmを測る。口縁部に刻目、口縁下に2条の沈線を施す。外面はハケメ、内面はナデを施す。95は復元口径22.3cmを測る。口縁

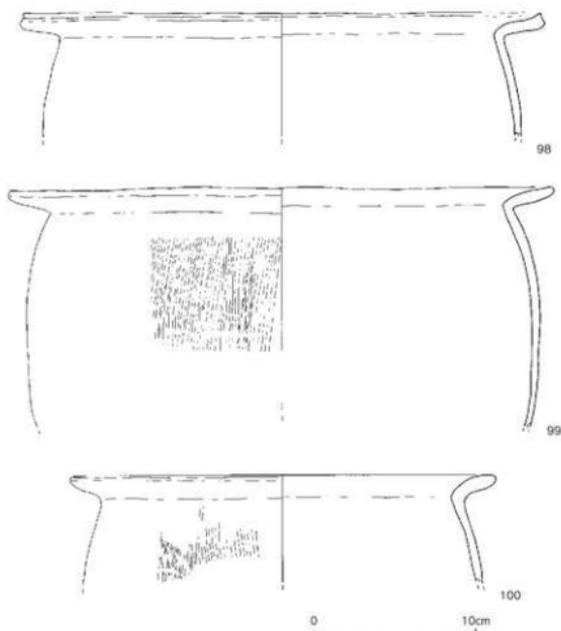


第25図 SK1・56出土遺物実測図 (1/3)

部に刻目、口縁下に突帯を1条巡らす。96は復元口径23.6cm。口縁部に刻目を施す。97は復元口径27.8cmを測る。口縁部に刻目、口縁下に2条の沈線を施す。外面はハケメ、内面はナデを施す。

**SK141 (第24図)**

B-1区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ150cm、幅110cm、深さ25cmを測る。出土遺物(第26図)98~100は弥生土器の甕である。98は口縁端部を跳ね上げる。復元口径31.4cm。風化により調整不明。99は復元口径33.8cmを測る。外面はハケメ、内面はナデを施す。100は復元口径25.0cm。口縁部はく字状で肥厚する。外面はハケメ、内面はナデを施す。



第26図 SK141出土遺物実測図 (1/3)

**SK252 (第24図)**

C-2区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、南北にテラスを有する。長さ206cm、幅113cm、深さ60cmを測る。壁は上位が焼けており、覆土の最下層は炭化物層となる。

出土遺物(第27・28図)101は弥生土器の蓋である。102~118は甕である。119は壺である。120・121は器台。この中で102は複数の破片で構成されるが、それぞれの焼成状況が異なる。また逆に別個体であるのに極めて似た焼成状況のものが確認できる。122は土師器の壺であるが、これは検出時のもので重複するSC939の床面のものか。

**SK254 (第29図)**

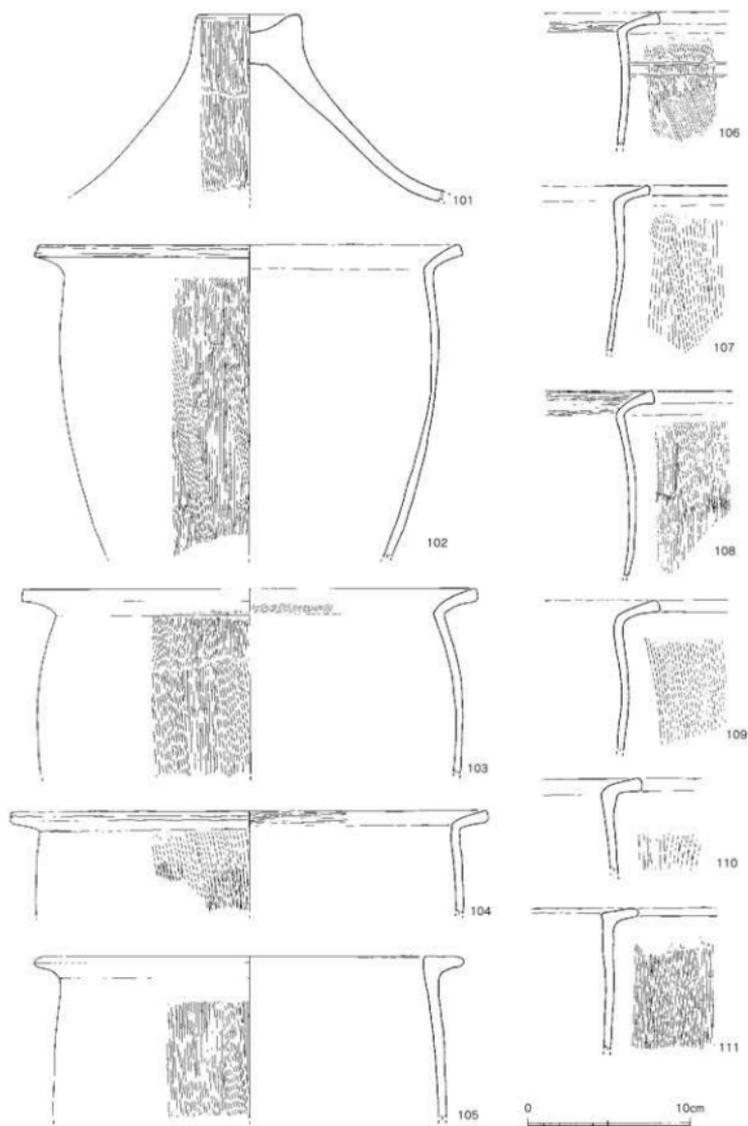
A-2区に位置し、SK369に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、底面に径18cmの小穴が付設する。長さ160cm、幅108cm、深さ28cmを測る。覆土には炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物(第30図)123~126は弥生土器の甕である。123は復元口径32.0cmを測る。外面はハケメ、内面はナデを施す。124は復元口径28.8cmを測る。風化により調整不明。125は復元口径22.0cmを測る。外面はハケメ、内面はナデを施す。

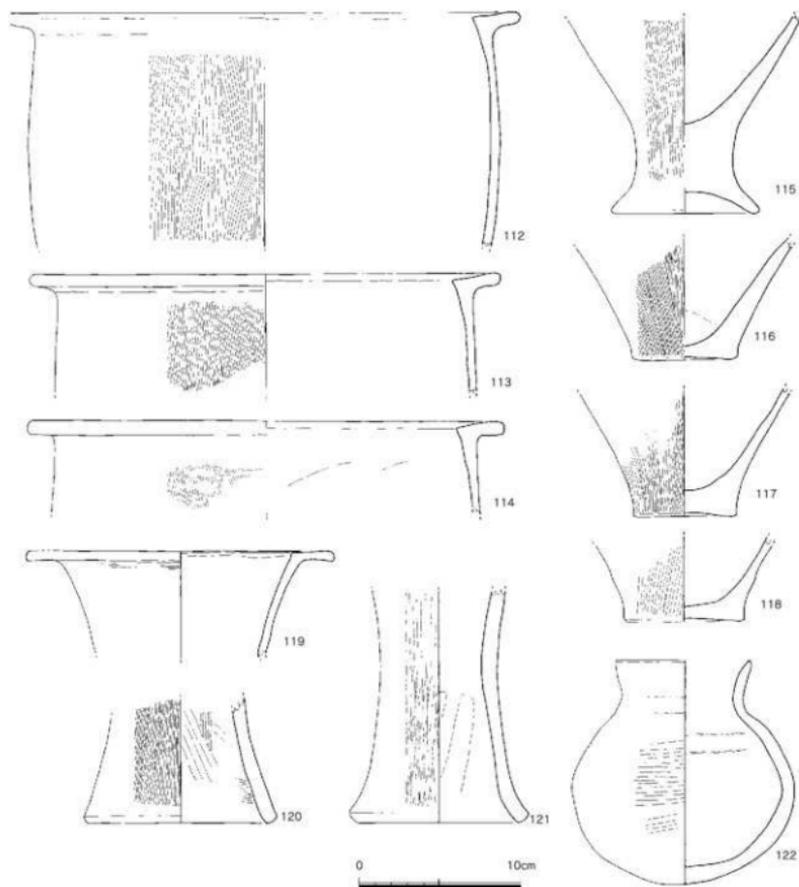
**SK255 (第29図)**

B-3区に位置する。平面形はやや不整な長方形を呈し、南側にテラスを有する。長さ150cm、幅98cm、深さ38cmを測る。

出土遺物(第30図)127・128は弥生土器の甕である。127は復元口径23.8cm。風化により調整不



第27图 SK252出土遺物実測図① (1/3)



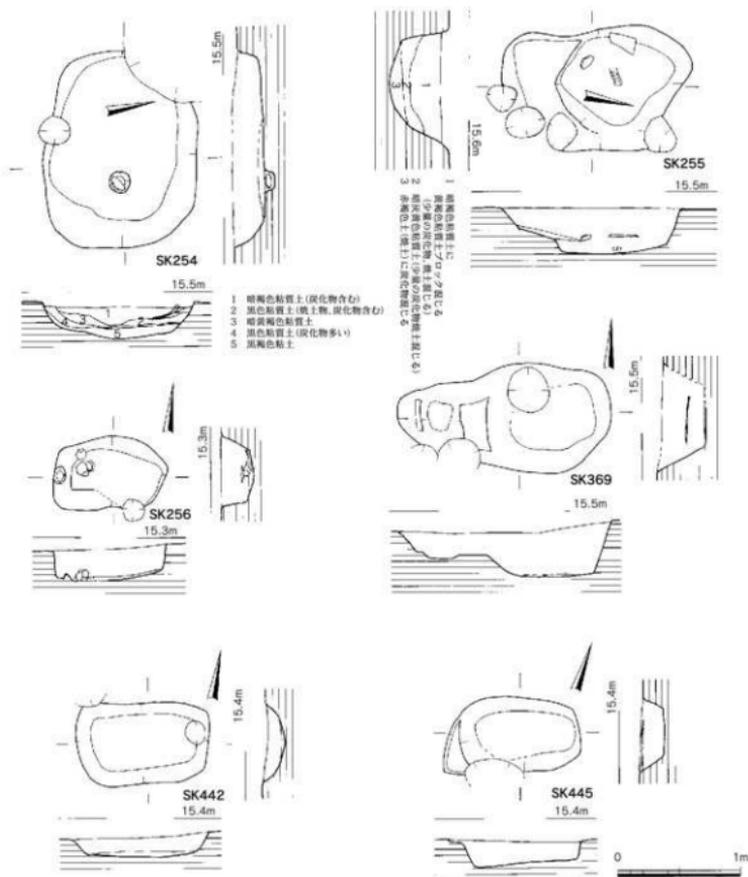
第28図 SK252出土遺物実測図② (1/3)

明。129は壺で復元口径18.6cm。内外面ともヨコナデを施す。130は柱状片刃石斧で欠損が著しい。  
SK256 (第29図)

A-2区に位置する。平面形はやや不整な長方形を呈し、西側壁に小穴が付設する。長さ90cm、幅48cm、深さ27cmを測る。覆土には炭化物・焼土粒を含む。

SK369 (第29図)

B-3区に位置する。平面形は不整形を呈し、長さ175cm、幅90cm、深さ45cmを測る。  
出土遺物 (第30図) 131~136は弥生土器の甕である。131・132は口縁下に突帯を巡らす。133は逆L字状の口縁を成す。138は壺である。139は器台。外面はハケメ、両端部はヨコナデを施す。



第29図 SK254・255・256・369・442・445実測図 (1/40)

SK442 (第29図)

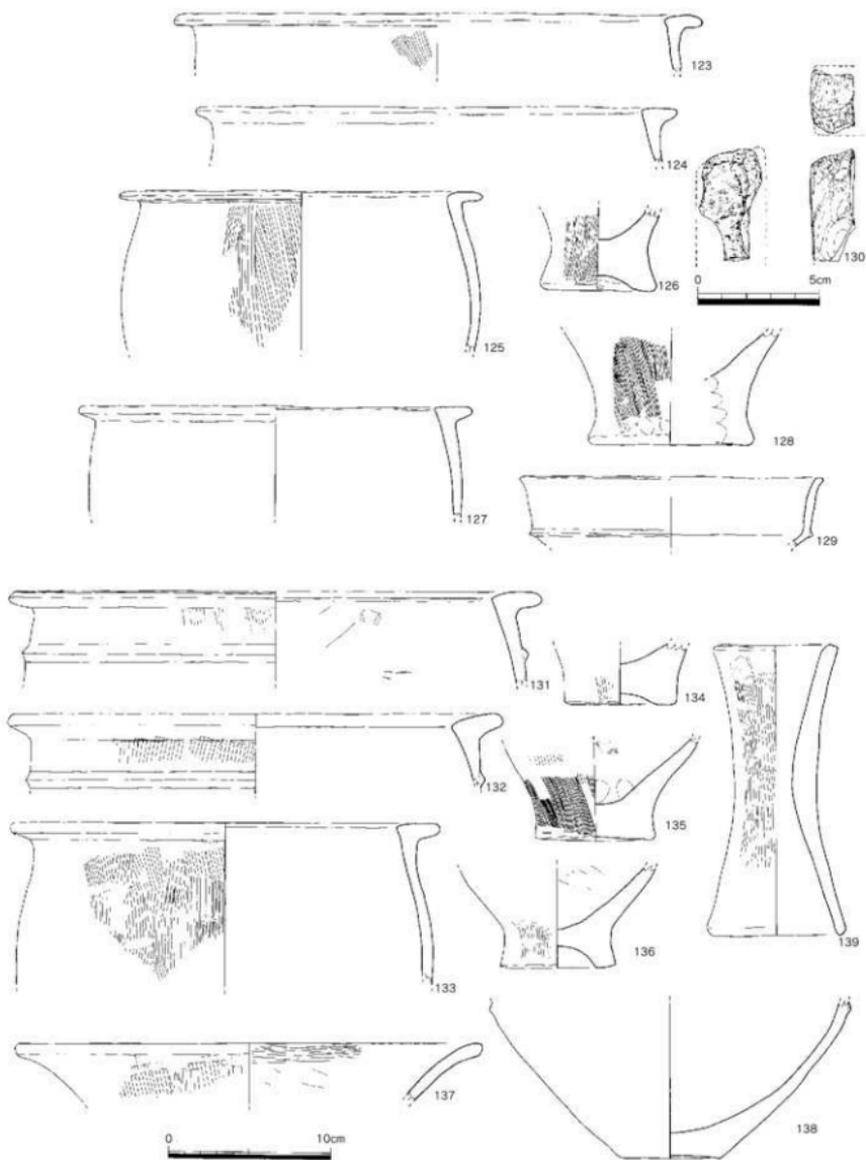
A-2区に位置する。平面形は長方形を呈し、長さ105cm、幅65cm、深さ18cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

SK445 (第29図)

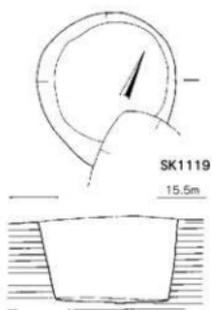
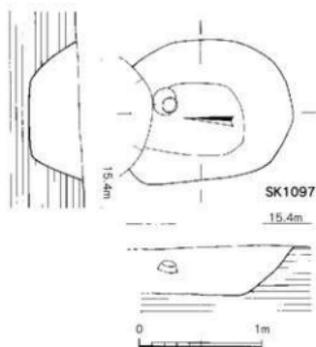
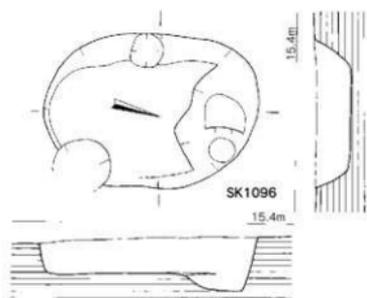
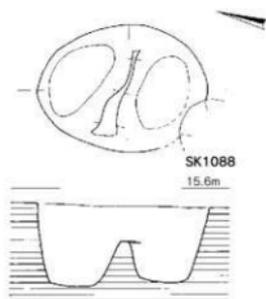
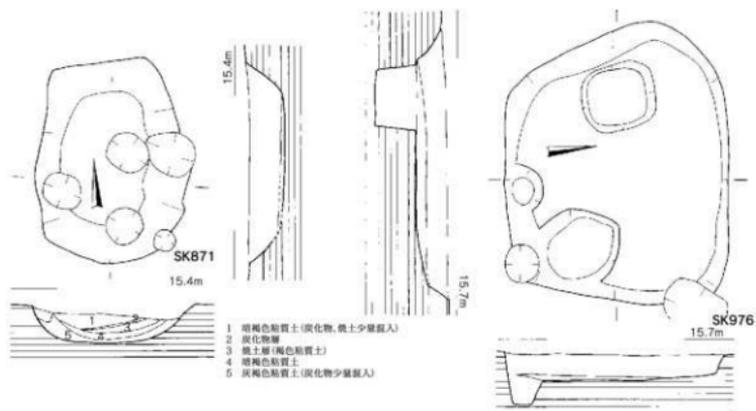
A-2区に位置する。平面形は長方形を呈し、西にテラスを有する。長さ107cm、幅58cm、深さ22cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

SK871 (第31図)

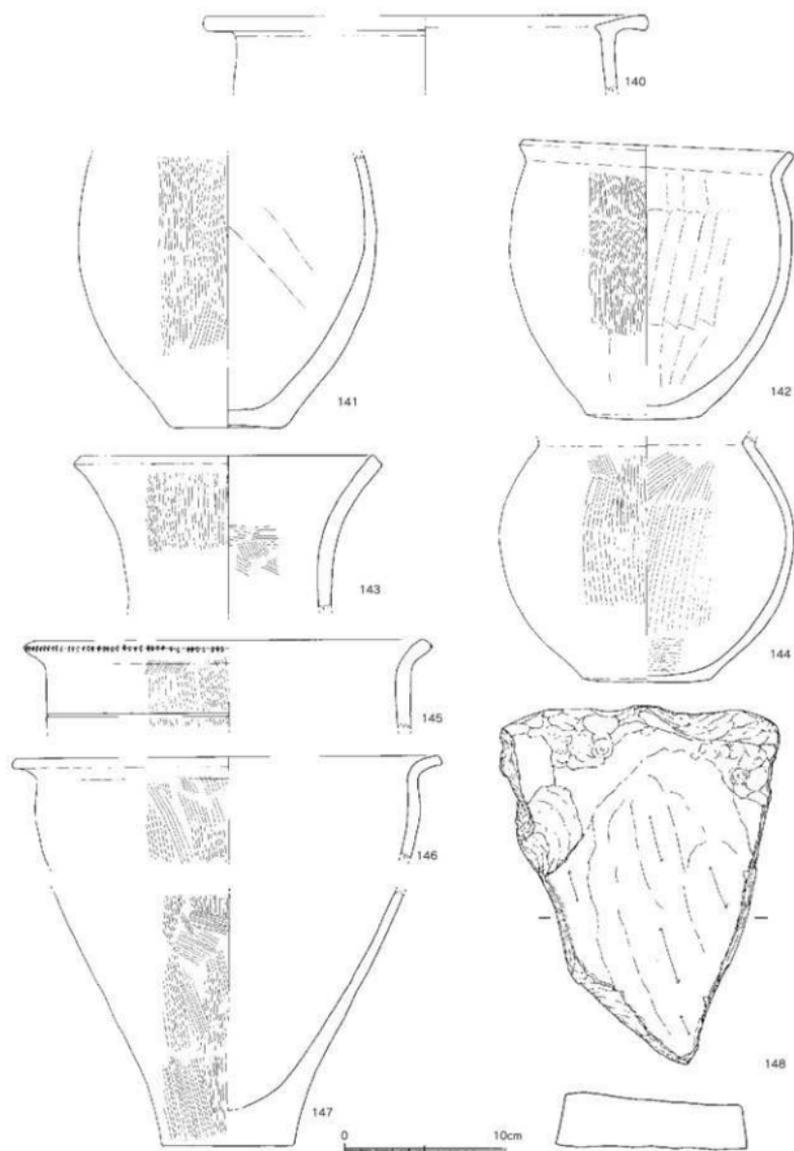
A-3区に位置する。平面形はやや不整な長方形を呈し、長さ164cm、幅127cm、深さ31cmを測る。覆土の中で炭化物、焼土がそれぞれ層を成す。遺物は弥生土器が出土している。



第30图 SK254·255·369出土物实测图(1/3·1/2)



第31図 SK871・976・1088・1096・1097・1119実測図 (1/40)



第32图 SK976·1097·1119出土物实测图 (1/3)

**SK976** (第31図)

D-6区に位置する。平面形はやや不整な方形を呈し、床面に小穴が付設する。長さ230cm、幅179cm、深さ26cmを測る。覆土には炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (第32図) 140は弥生土器の甕で復元口径27.0cmを測る。風化により調整不明。

**SK1088** (第31図)

B-2区に位置する。平面形は楕円形を呈し、長さ138cm、幅103cm、深さ67cmを測る。底面の形状から2つの柱穴の切り合いかとも思えたが平面では判別できなかった。遺物は弥生土器が出土している。

**SK1096** (第31図)

B-2区に位置し、SK1097を切る。平面形は楕円形を呈し、北側に小穴を有する。長さ174cm、幅127cm、深さ43cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

**SK1097** (第31図)

B-2区に位置し、SK1096に切られる。平面形は楕円形を呈し、長さ140cm前後、幅115cm、深さ44cmを測る。

出土遺物 (第32図) 141・142は甕である。142は口径16.0cm、器高17.0cmを測る。口径に比べ器高は低い。外面は縦方向のハケメ、内面はケズリを施す。143・144は壺である。143は復元口径17.6cmを測る。外面はハケメ後ナデ、内面はナデおよびハケメを施す。144は外面はハケメおよびナデ、内面はハケメを施す。

**SK1119** (第31図)

C-2区に位置する。平面形は円形を呈し、径115cm、深さ70cmを測る。

出土遺物 (第32図) 145～147は甕。145は口縁部に刻目を施し、沈線を1条巡らす。146、147は同一個体か。148は砥石。

**SK1416** (第33図)

E-2区に位置し、SC1300に切られる。平面形は円形を呈し、西側にテラスを有する。径205cm、深さ62cmを測る。

出土遺物 (第34図) 149・150は甕。149は復元口径25.6cmを測る。風化により調整不明。

**SK1477** (第33図)

A-5区に位置する。平面形は楕円形を呈し、南側に2段のテラスを有する。長さ150cm、幅118cm、深さ35cmを測る。

出土遺物 (第34図) 151～153は甕。151は復元口径30.4cm。口縁端部を跳ね上げる。外面はハケメ、内面はナデを施す。153は逆L字状口縁を成し、復元口径29.0cm。内外面とも風化が著しい。

**SK1556** (第33図)

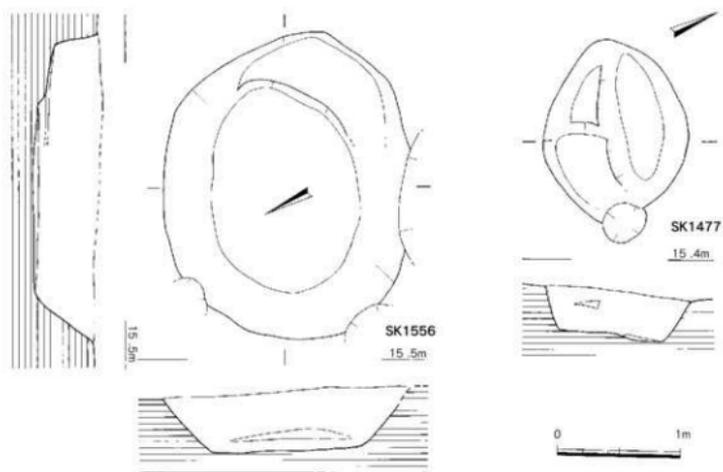
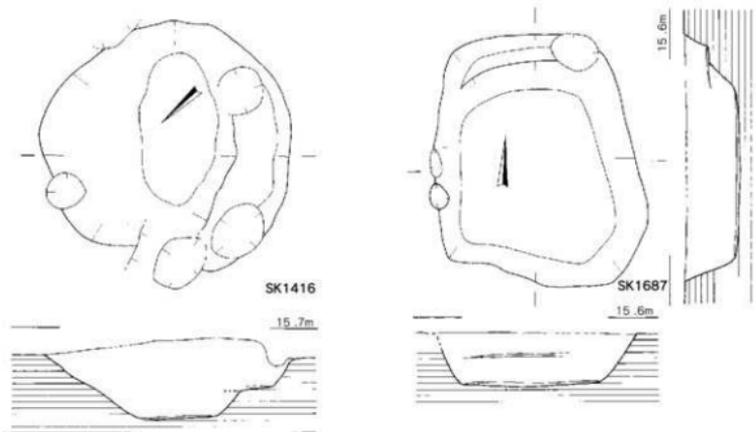
A-4区に位置する。平面形は楕円形を呈し、東側にテラスを有する。長さ245cm、幅200cm、深さ58cmを測る。

出土遺物 (第34図) 154は甕。口縁部はく字状で底部はレンズ状を成す。口径17.4cmを測る。外面はハケメ、下方はケズリ、内面はハケメを施す。155は砥石。

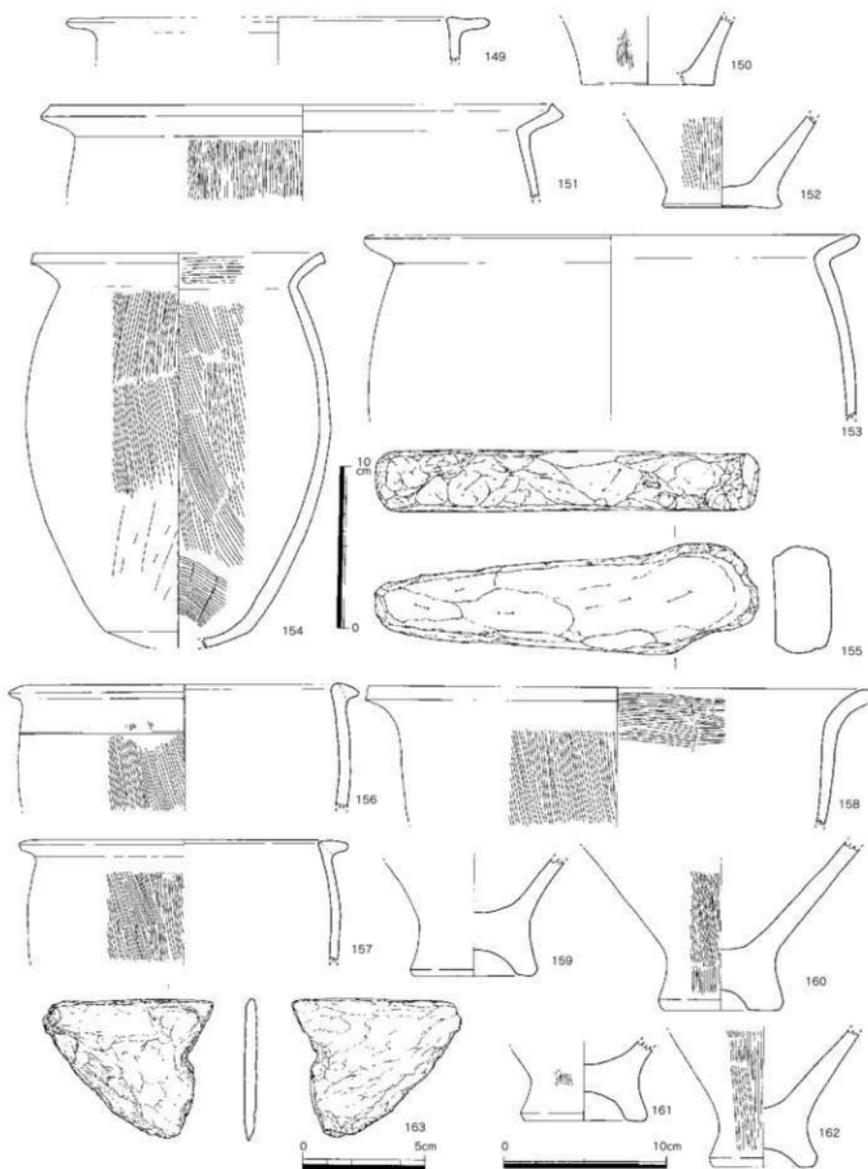
**SK1687** (第33図)

C-5区に位置し、SK2595を切る。平面形は長方形を呈し、北側にテラスを有する。長さ200cm、幅170cm、深さ47cmを測る。

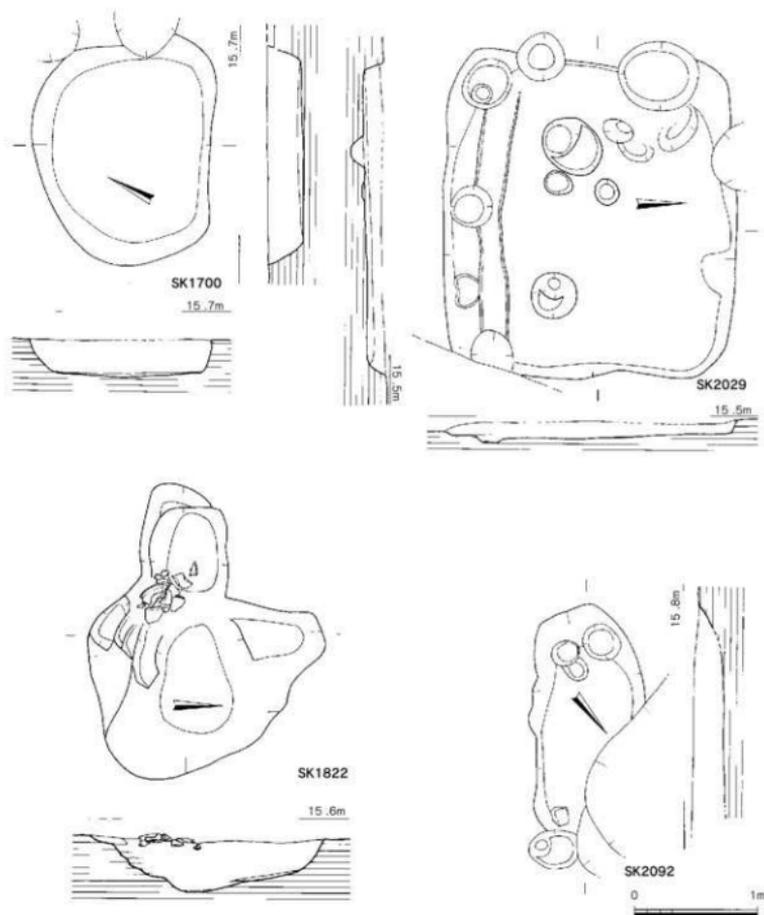
出土遺物 (第34図) 156～162は甕。156の口縁は断面三角形を成し、口縁下に沈線を巡らす。外面はハケメ、内面はナデを施す。157は復元口径21.4cm。外面はハケメ、内面はナデを施す。158



第33图 SK1416・1477・1556・1687実測図(1/40)



第34图 SK1416·1477·1556·1687出土物实测图(1/3·1/2)



第35図 SK1700・1822・2029・2092実測図(1/40)

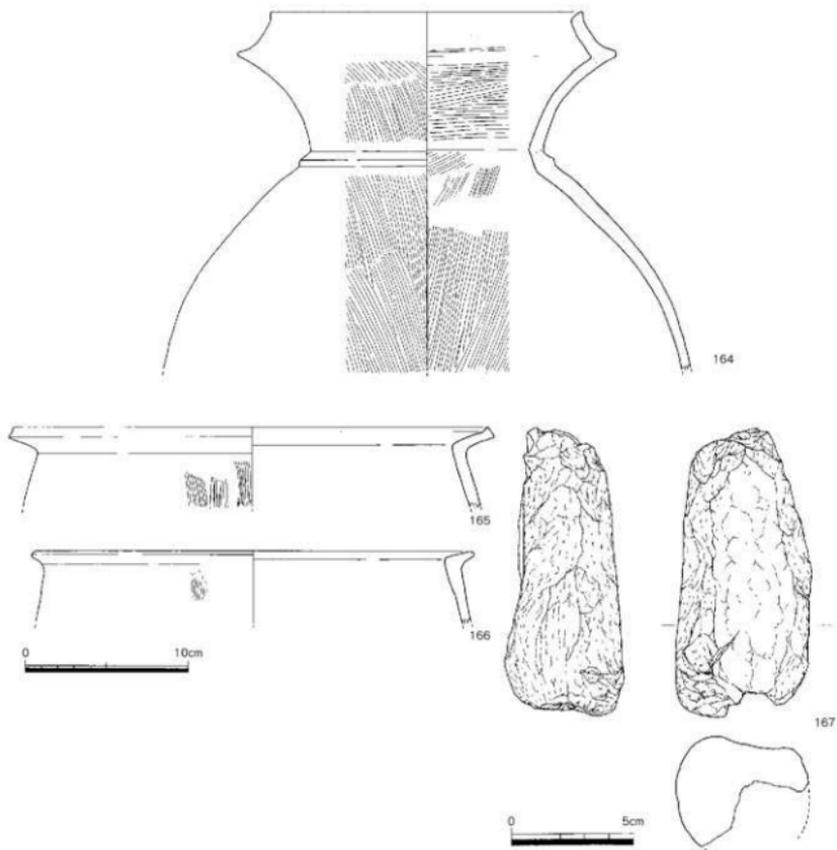
は如字形口縁で、復元口径32.4cm。外面はハケメ、内面はハケメ、ナデを施す。159～162は底部で上げ底状になる。163は石包丁。

**SK1700** (第35図)

C-4区に位置し、SP933に切られる。平面形はやや不整な楕円形を呈し、長さ180cm、幅144cm、深さ31cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

**SK1822** (第35図)

C-4区に位置する。平面形は不整形を呈し、南北190cm、深さ40cmを測る。その形状からいくつかの遺構が切りあっているものと思われる。



第36図 SK1822・2029・2092実測図 (1/3・1/2)

出土遺物 (第36図) 164は複合口縁の壺で頸部に突帯を巡らす。口径18.8cmを測る。内外面ともハケメを施す。

**SK2029 (第35図)**

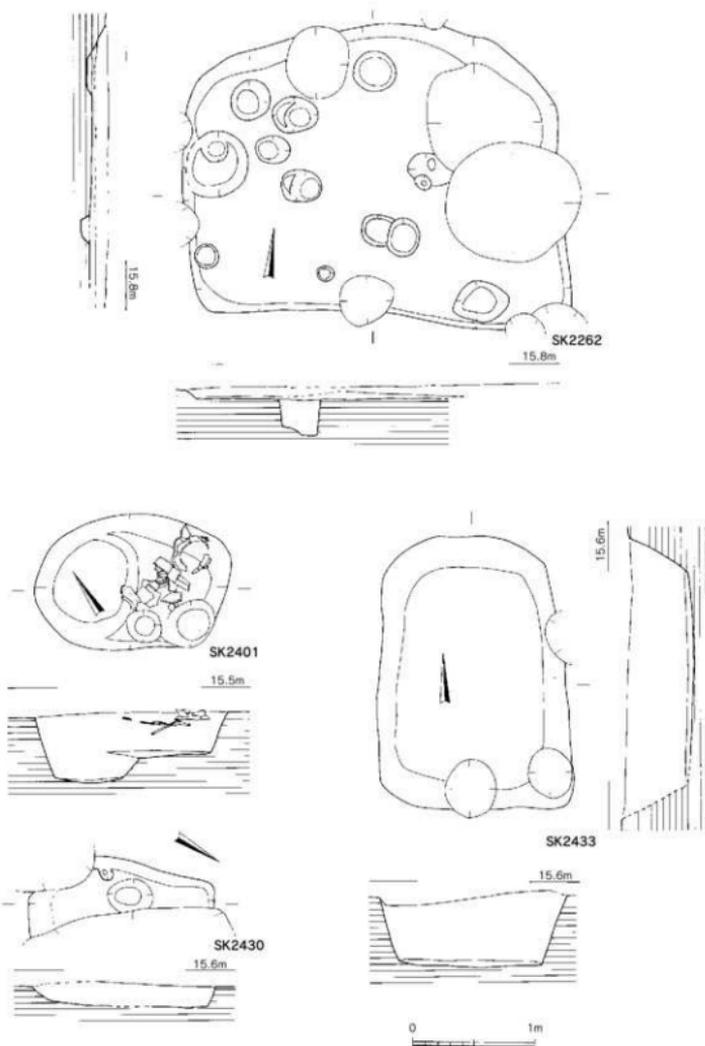
E-6区に位置する。平面形は方形を呈し、南側に幅25cmの溝を有する。長さ258cm、幅237cm、深さ19cmを測る。

出土遺物 (第36図) 165・166は甕。165は口縁端部を跳ね上げる。外面はハケメ、内面はナデを施す。166は風化が進むが外面にハケメが残る。

**SK2092 (第35図)**

E-4区に位置する。平面形は不整な長方形を呈し、長さ190cm前後、幅90cm、深さ26cmを測る。

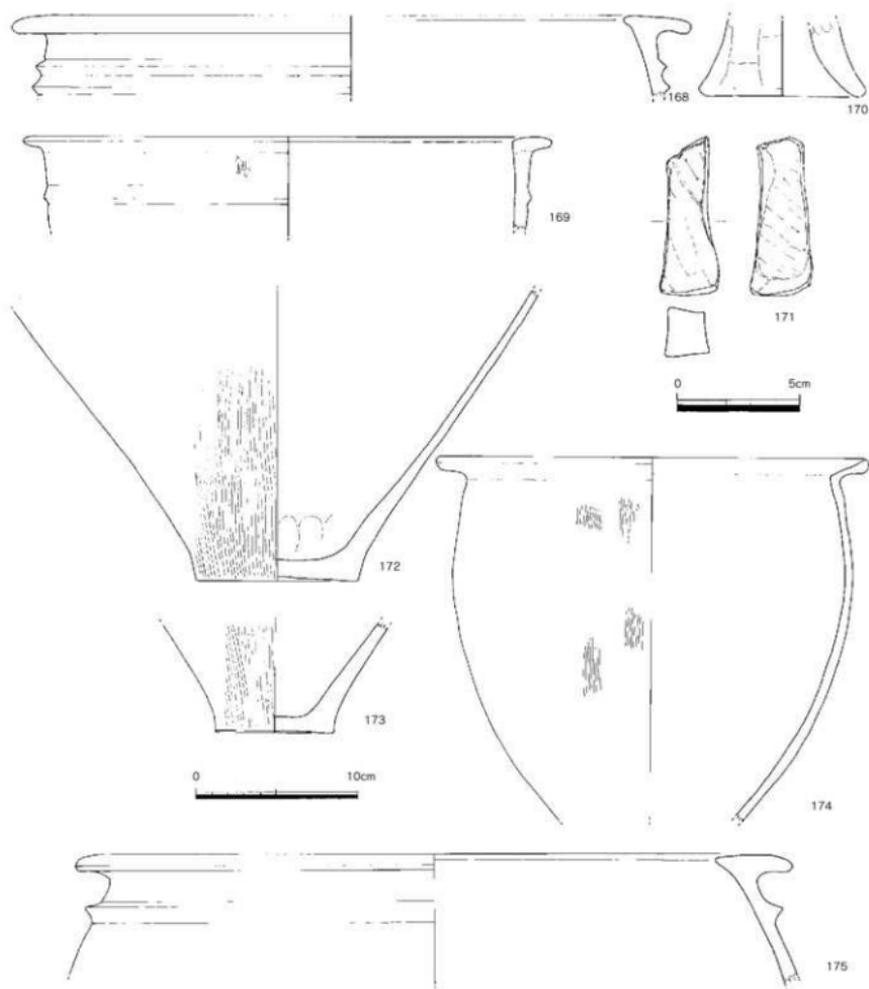
出土遺物 (第36図) 167は叩き石。



第37図 SK2262・2401・2430・2433実測図 (1/40)

SK2262 (第37図)

E-6区に位置する。平面形は不整な長方形を呈し、長さ305cm、幅238cm、深さ11cmを測る。出土遺物(第38図)168・169は弥生土器の甕。168は復元口径41.2cmを測る。口縁下に断面三角形の突帯を2条巡らす。風化により調整不明。169は復元口径32.0cmを測る。口縁下に断面三角形



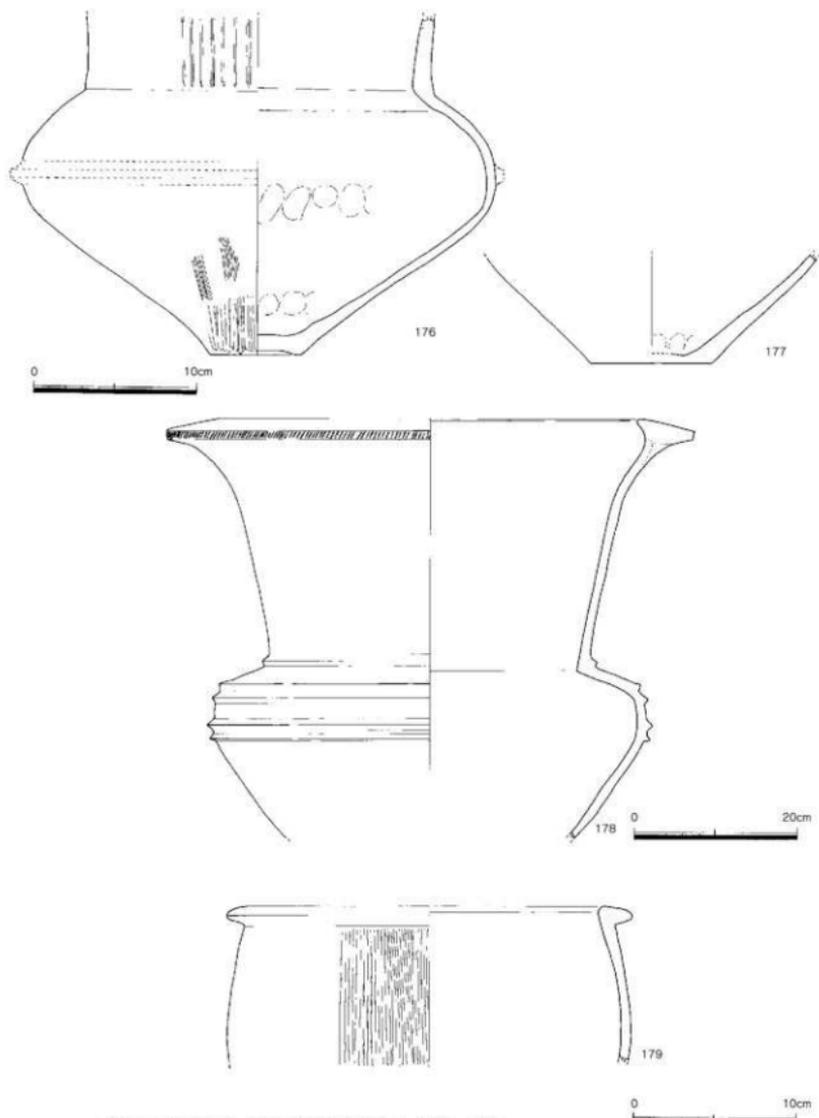
第38図 SK2262・2401出土遺物実測図 (1/3・1/2)

の突帯を巡らす。外面はハケメ、内面はナデを施す。170は器台。171は砥石。

SK2401 (第37図)

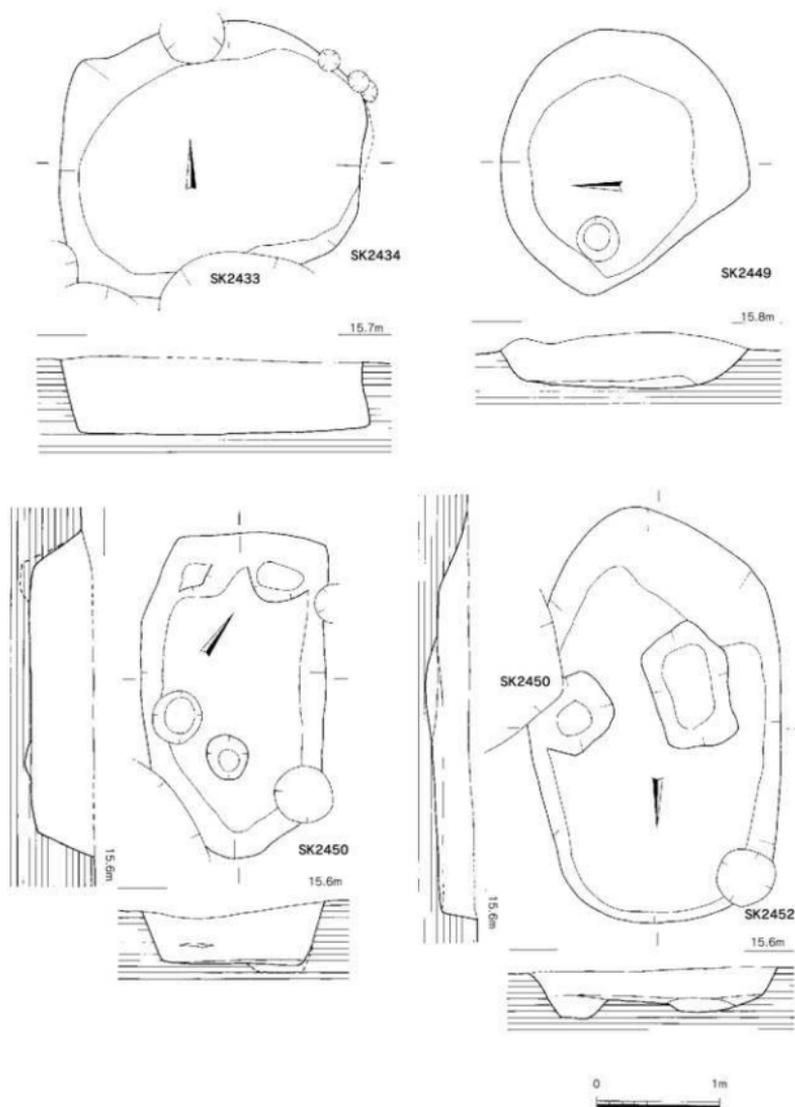
D-5区に位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、西側にテラスを有する。長さ155cm、幅110cm、深さ52cmを測る。

出土遺物 (第38・39図) 172~175は甃。174は復元口径26.2cm。く字状口縁で端部が肥厚する。



第39図 SK2401・2430出土遺物実測図 (1/6・1/3)

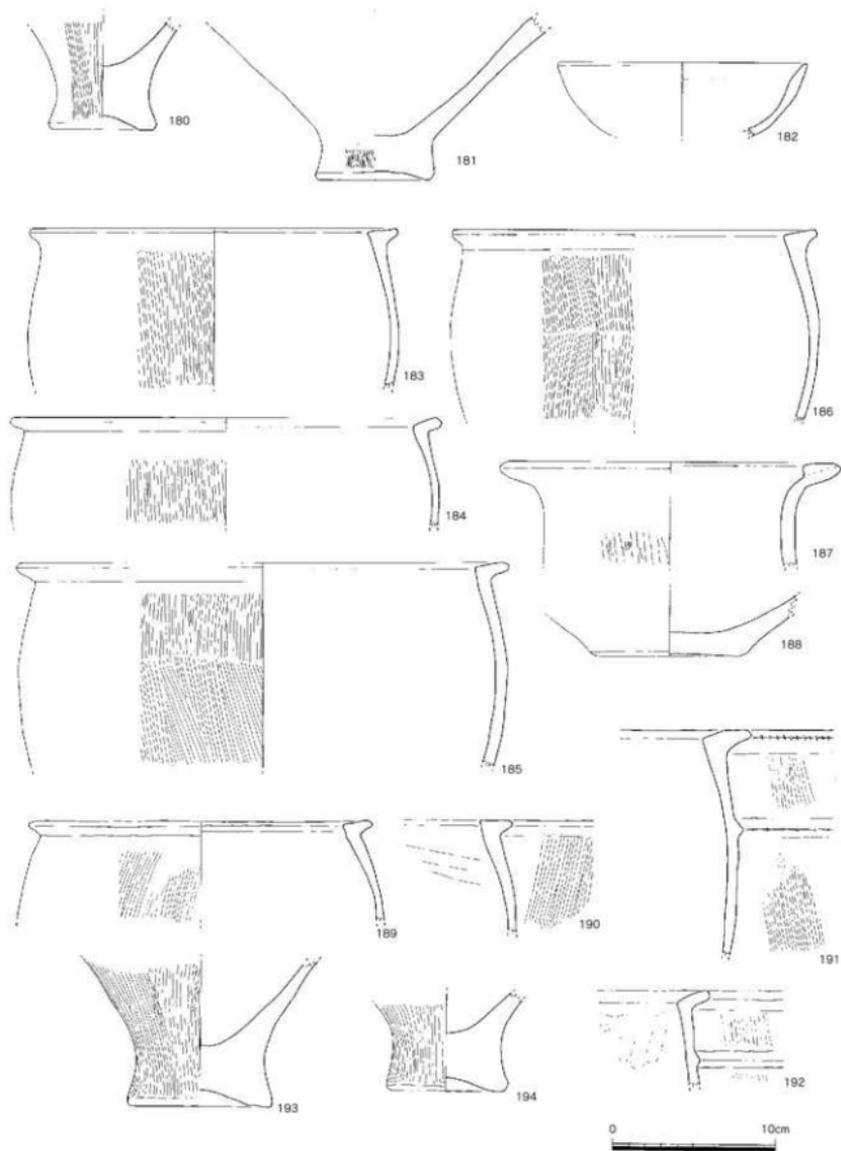
風化が進むが外面はハケメを施す。175は口縁下に2条の突帯を巡らす。風化が著しい。176~178は壺。176は頸部に暗文を施し、胴部に突帯の痕跡が残る。丹塗りを施す。178は大型で口縁部に刻目、胴部に断面三角形の突帯を4条巡らす。風化により調整不明。



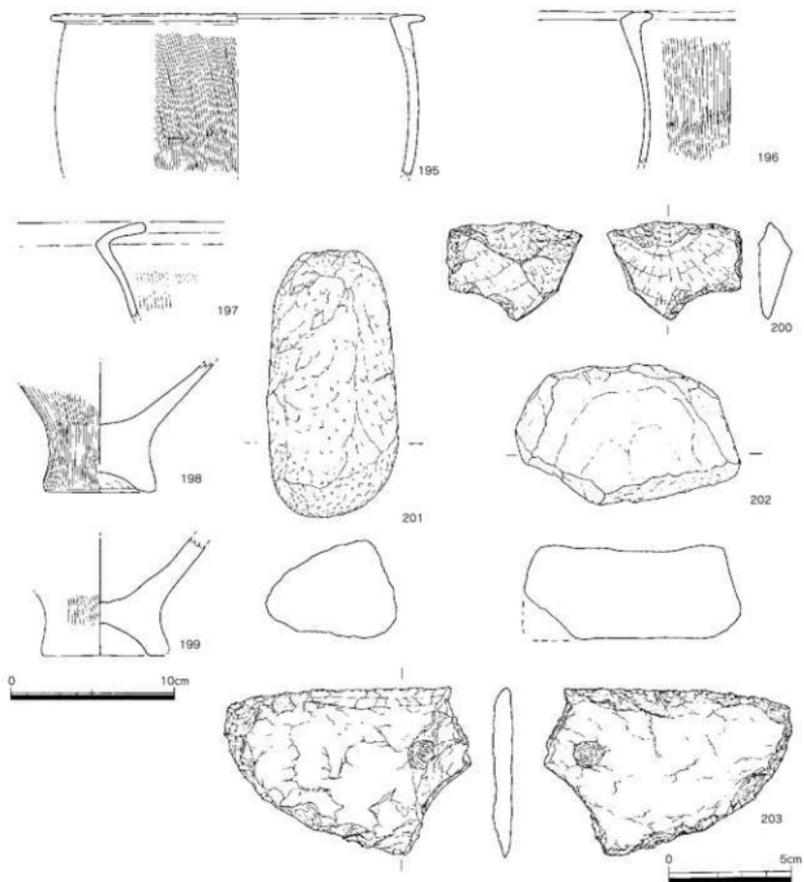
第40図 SK2434・2449・2450・2452実測図 (1/40)

SK2430 (第37図)

D-4区に位置する。平面形はやや不整な方形か。長さ159cm、深さ20cmを測る。  
出土遺物(第39図)179は甃。外面はハケメ、内面はナデを施す。



第41图 SK2434・2449・2450出土遺物実測図 (1/3)



第42図 SK2452出土遺物実測図 (1/3・1/2)

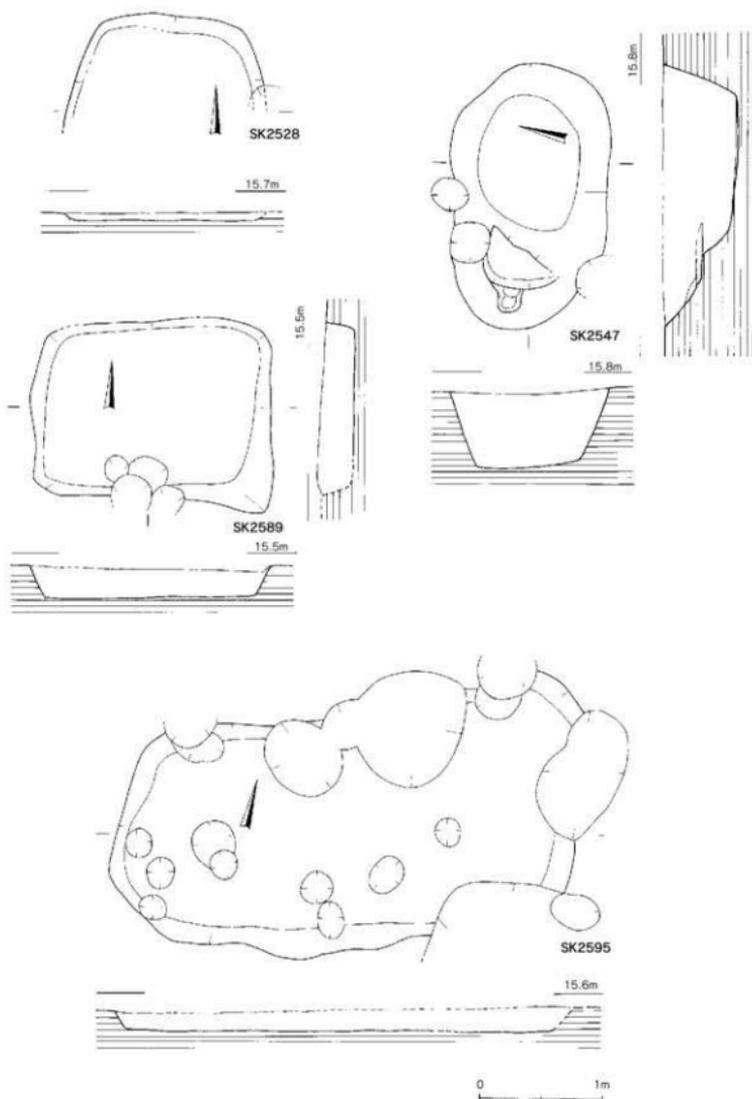
SK2433 (第37図)

D-4区に位置し、SK2434を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ227cm、幅150cm、深さ60cmを測る。

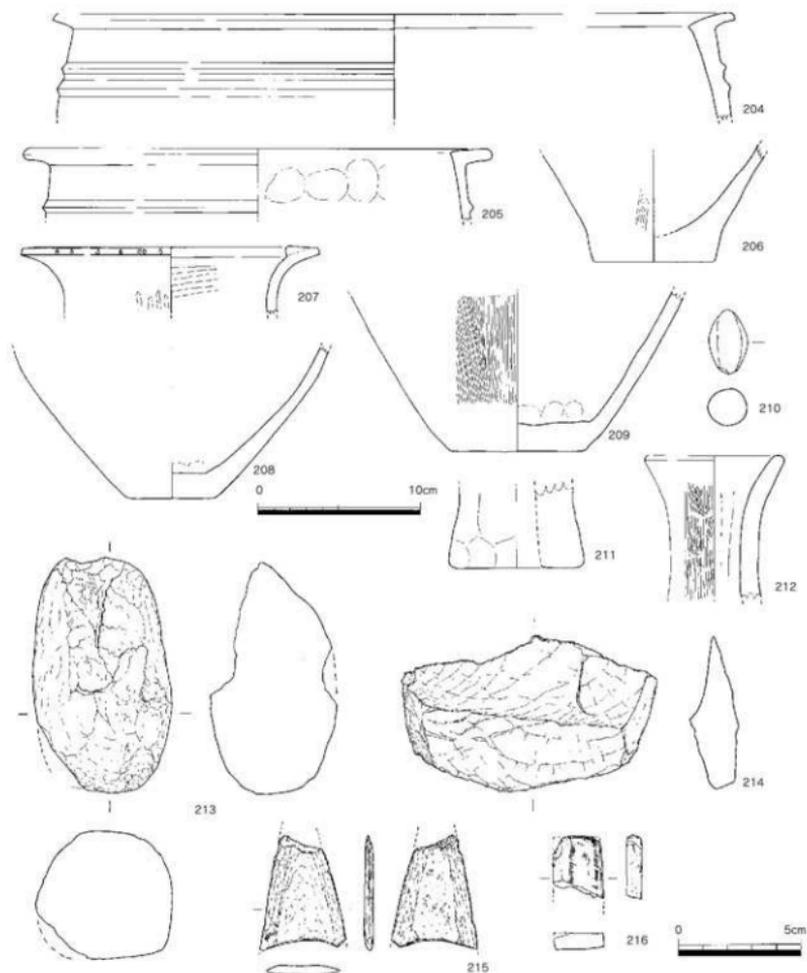
SK2434 (第40図)

D-4区に位置し、SK2433に切られる。平面形はやや不整な円形を呈し、径250cm前後、深さ62cmを測る。

出土遺物(第41図)180は甕底部。やや上底状を成す。181は甕あるいは鉢か。内外面ともナデを施すが、底部にはハケメが残る。182は鉢。復元口径16.0cm。内外面ともナデを施す。



第43図 SK2528・2547・2589・2595実測図 (1/40)



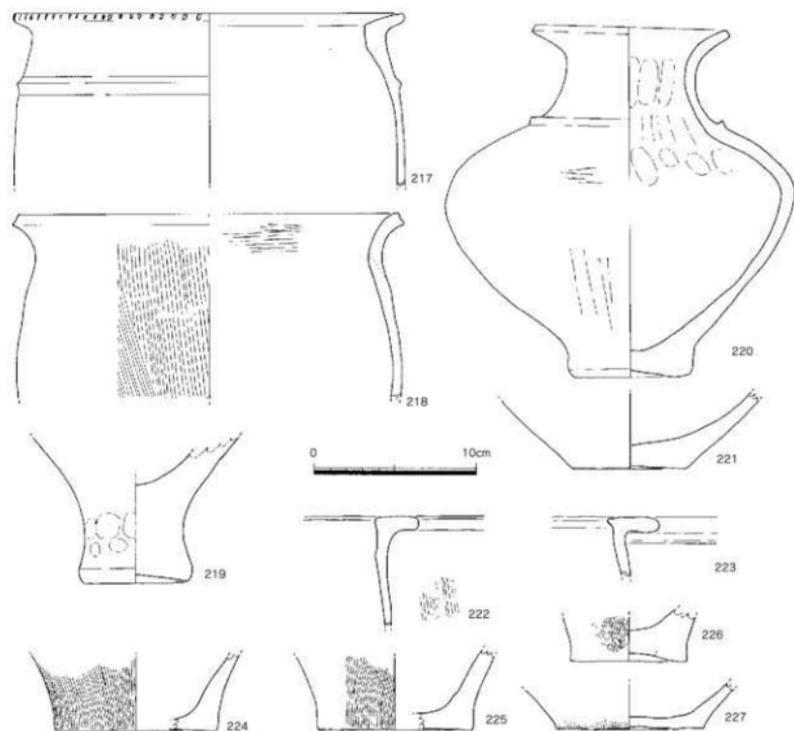
第44図 SK2547出土遺物実測図 (1/3・1/2)

SK2449 (第40図)

D-4・E-4区に位置する。平面形はやや不整な円形を呈し、径200cm前後、深さ45cmを測る。出土遺物(第41図)183~186は甕。断面三角形あるいは逆L字形の口縁を成し、いずれも外面は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。187・188は壺。187はハケメ後ミガキを施す。

SK2450 (第40図)

D-4区に位置し、SK2452を切る。平面形はやや不整な長方形を呈し、北側にテラスと小穴を有



第45図 SK2589・2595出土遺物実測図 (1/3)

する。長さ263cm、幅152cm、深さ57cmを測る。

出土遺物(第41図) 189~194は甕。189は復元口径20.6cm。風化が進むが外面にハケメが残る。191は口縁部に刻目を施し、突帯を1条巡らす。突帯には僅かに刻目が施される。193・194は底部で上底状を成す。

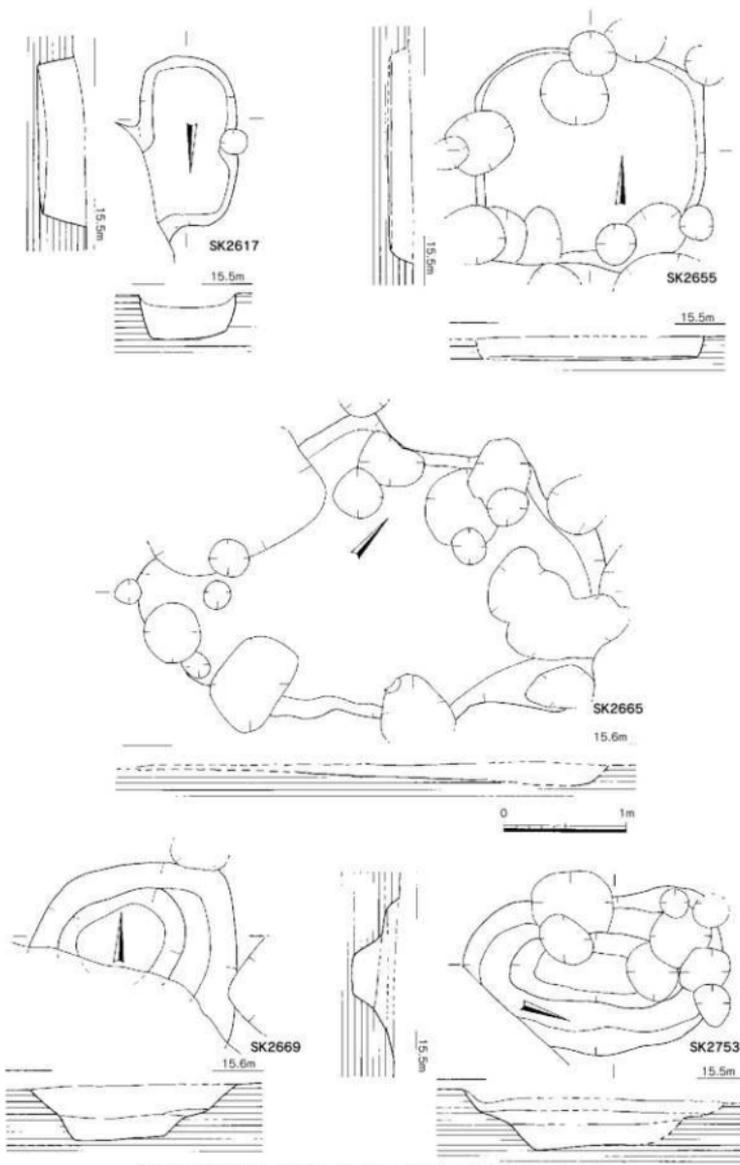
#### SK2452 (第40図)

D-4区に位置し、SK2450に切られる。平面形はやや不整な長方形を呈し、長さ336cm、幅206cm、深さ37cmを測る。

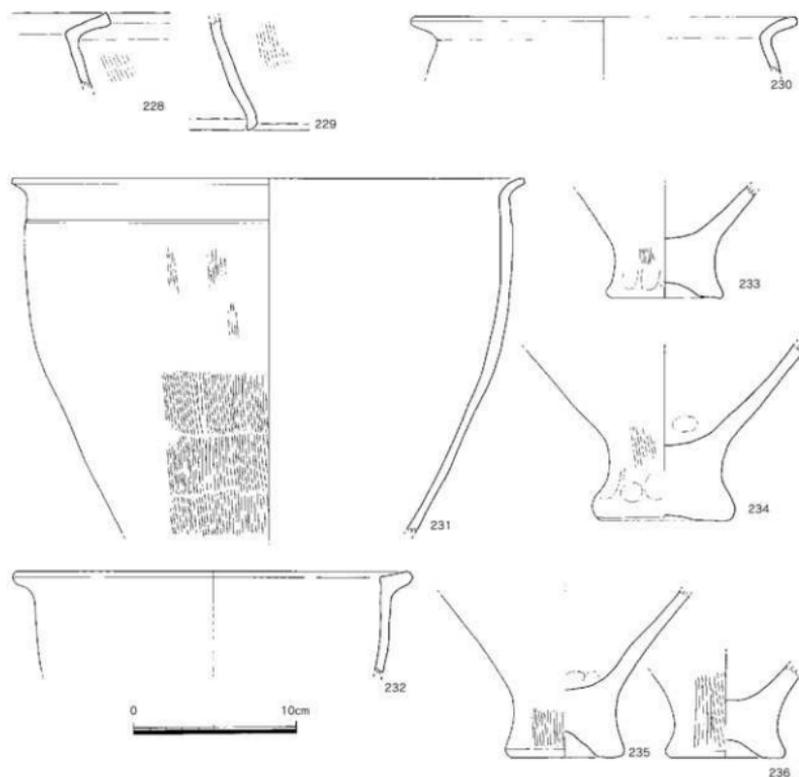
出土遺物(第42図) 195~199は甕。195は復元口径22.6cm。外面は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。198・199は底部で上底状を成す。200サヌカイト製のスクレイパー。201は叩き石。202は砂岩質の石皿。203は石包丁。

#### SK2528 (第43図)

E-4区に位置する。平面形は方形か。長さ160cm前後、深さ6cmを測る。



第46図 SK2617・2655・2665・2669・2753実測図 (1/40)



第47図 SK2617・2655・2665・2753出土遺物実測図 (1/3)

SK2547 (第43図)

E-4区に位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、西側にテラスを有する。長さ215cm、幅128cm、深さ66cmを測る。

出土遺物(第44図) 204~206は甕。204は復元口径44.4cm。口縁下に突帯を2条巡らす。205は復元口径30.4cm。口縁下に突帯を巡らす。207~209は壺。207は口縁部に刻目を施す。210は投弾。211・212は器台。213は叩き石。214は立岩産石包丁の未製品。215は石鏃。216は片刃石斧。

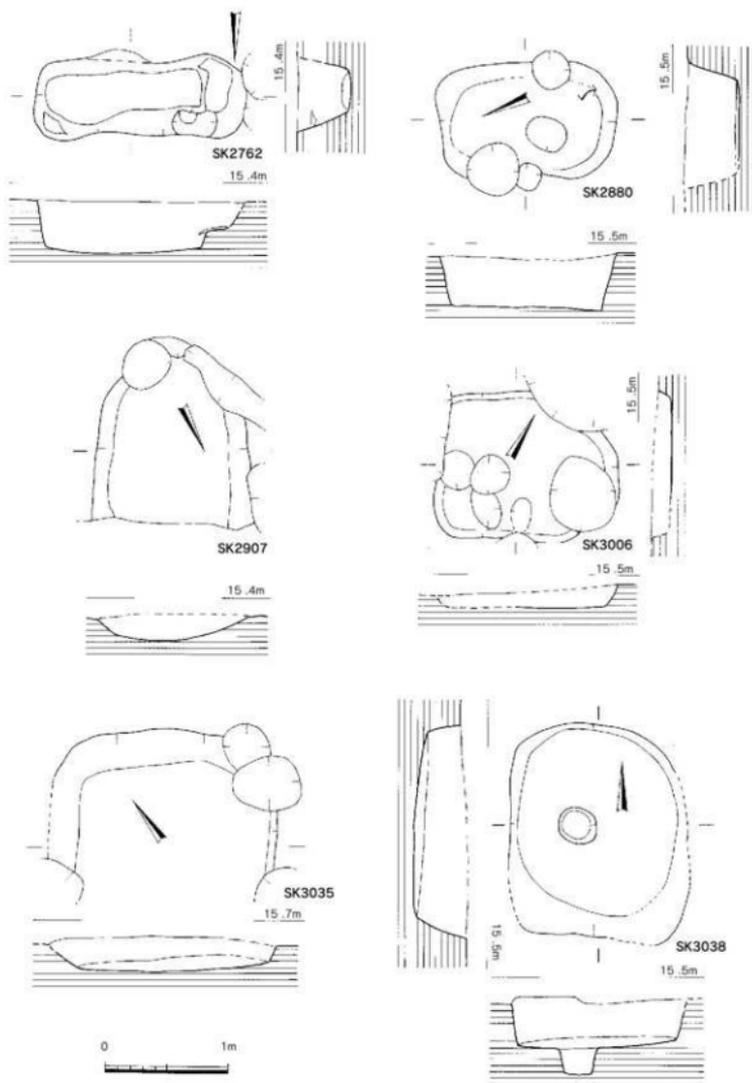
SK2589 (第43図)

C-5区に位置する。平面形は長方形を呈し、長さ194cm、幅150cm、深さ29cmを測る。

出土遺物(第45図) 222~226は甕。224・225は底部で平底。外面はハケメを施す。227は壺の底部。222・227は二次的な被熱がみられる。

SK2595 (第43図)

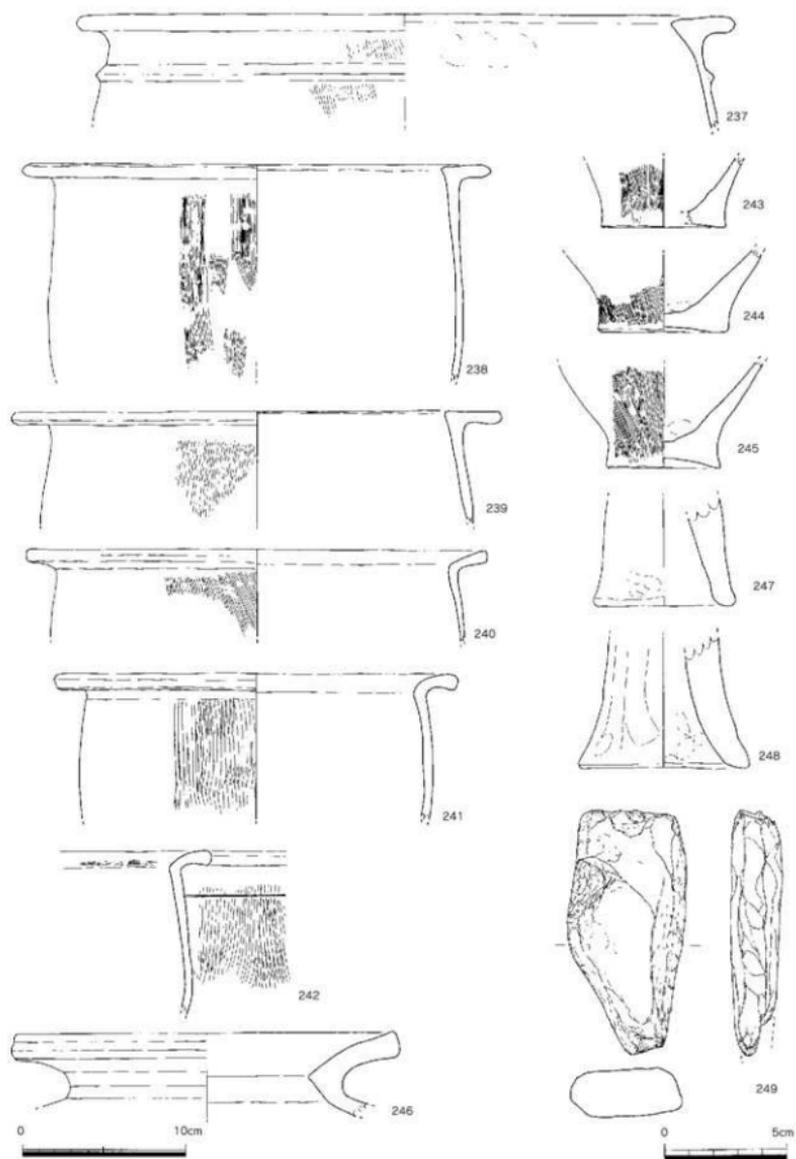
C-5区に位置し、SK1687に切られる。平面形はやや不整な長方形を呈し、長さ380cm、幅



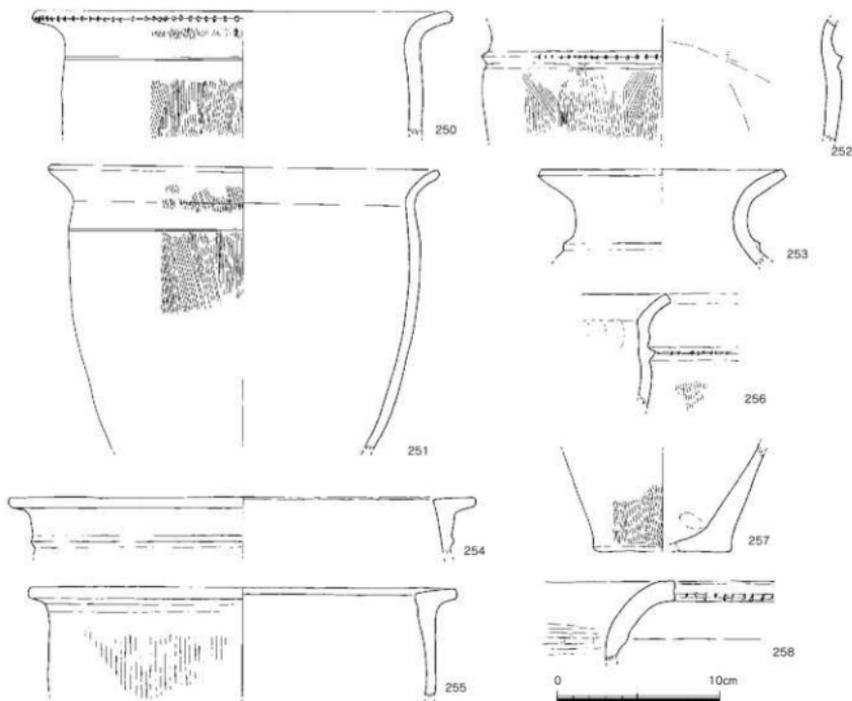
第48図 SK2762・2880・2907・3006・3035・3038実測図 (1/40)

195cm、深さ21cmを測る。

出土遺物 (第45図) 217~219は甕。217は口縁部に刻目を施し、突帯を巡らす。復元口径25.2cm。風化により調整不明。218は復元口径24.6cm。外面はハケメ、内面はハケメおよびナデを施す。



第49图 SK2762出土遺物実測図 (1/3)



第50図 SK2880・2907・3035・3038出土遺物実測図 (1/3)

220・221は壺。220は口径12.2cm、器高23.0cm。口縁は外反し、頸部下に突帯を巡らす。

**SK2617** (第46図)

D-1区に位置する。平面形は長方形を呈し、長さ138cm、幅77cm、深さ44cmを測る。

出土遺物(第47図)228は弥生土器の甕。外面はハケメ、内面はナデを施す。229は器台。外面はハケメ、内面はナデを施す。

**SK2655** (第46図)

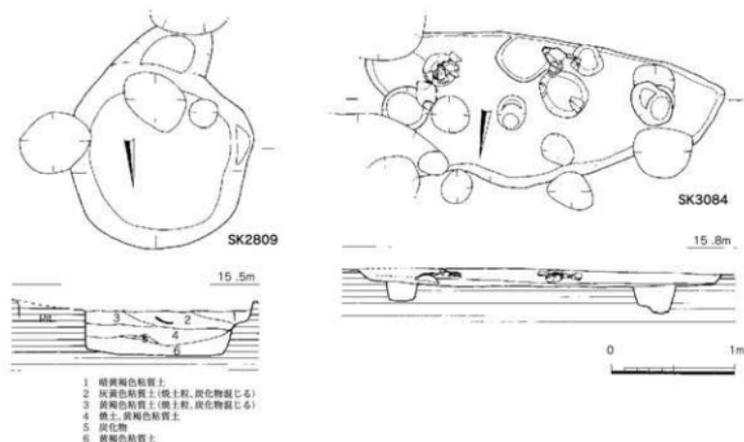
B-5区に位置する。平面形は方形を呈し、長さ185cm、幅180cm、深さ20cmを測る。

出土遺物(第47図)230は弥生土器の甕。復元口径25.2cmを測る。内外面ともナデを施す。

**SK2665** (第46図)

B-5区に位置し、SK2880に切られる。平面形は不整形を呈し、長さ370cm前後、幅250cm前後、深さ14cmを測る。

出土遺物(第47図)231~234は弥生土器の甕。231は口縁下に沈線を巡らす。外面はハケメ、内面はナデを施す。232は復元口径26.0cmを施す。風化により調整不明。234・235は底部で234は上底状、235は厚みをもつ。



第51図 SK2809・3038実測図 (1/40)

**SK2669** (第46図)

C-4・5区に位置する。平面形は隅丸方形か。長さ165cm、深さ44cmを測る。遺物は弥生土器が出土している。

**SK2753** (第46図)

E-2区に位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、2段掘りとなる。長さ210cm前後、幅138cm、深さ51cmを測る。

出土遺物 (第47図) 235・236は弥生土器の甕底部で上底状を成す。

**SK2762** (第48図)

A-2区に位置する。平面形は長方形を呈し、西側にテラスを有する。長さ170cm前後、幅60cm、深さ43cmを測る。

出土遺物 (第49図) 237~245は甕。237は口縁下に突帯を巡らす。238は復元口径28.4cm。239は復元口径29.6cm。240は復元口径27.6cm。241は復元口径23.0cm。いずれも外面はハケメ、内面はナデを施す。246は壺、胴張りの甕か。復元口径22.6cm。頸部が縮る。内外面ともナデを施す。247・248は器台。249は叩き石。

**SK2809** (第51図)

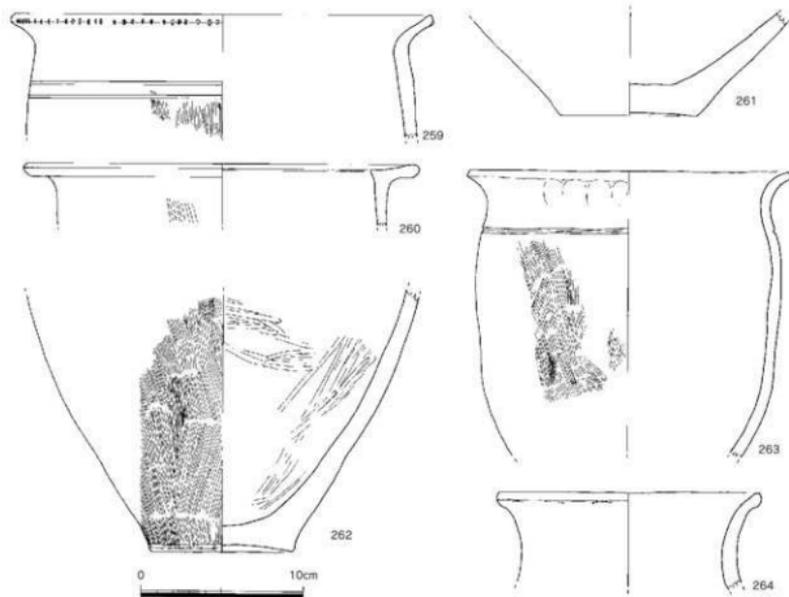
B-4区に位置する。平面形はやや不整な方形を呈し、長さ145cm前後、深さ42cmを測る。覆土は中層で焼土と黄褐色粘質土の混成層が10cm程堆積する。

出土遺物 (第52図) 259~261は甕。259は口縁に刻目を施し、2条の沈線を巡らす。260は復元口径24.0cm。外面はハケメ、内面はナデを施す。262は壺。

**SK2880** (第48図)

B-5区に位置し、SK265を切る。平面形は長方形を呈し、長さ145cm、幅105cm前後、深さ44cmを測る。

出土遺物 (第50図) 250・251は甕。250は口縁下端に刻目を施し、2条の沈線を巡らす。251は如



第52図 SK2809・3084出土遺物実測図 (1/3)

意形口縁で沈線を巡らす。

**SK2907** (第48図)

A-4区に位置する。平面形は楕円形か。幅125cm、深さ19cmを測る。  
出土遺物(第50図)252は甕。口縁下に刻目を施した突帯を巡らす。外面はハケメ、内面はナデを施す。253は壺。口縁は外反し、頸部に突帯を巡らす。復元口径14.6cm。

**SK3006** (第48図)

B-4区に位置する。平面形はやや不整な方形を呈し、長さ145cm前後、幅120cm前後、深さ19cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

**SK3035** (第48図)

D-4区に位置する。平面形は隅丸方形か。長さ180cm前後、深さ24cmを測る。  
出土遺物(第50図)254・255は甕。254は口縁下に突帯を巡らす。内外面ともナデを施す。255は復元口径26.0cm。外面はハケメ、内面は風化により不明。

**SK3038** (第48図)

C-2区に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、底面に小穴が付設する。長さ173cm、幅150cm前後、深さ45cmを測る。

出土遺物(第50図)256・257は甕。256は刻目を施した突帯を巡らす。風化が進むが、外面がハケメ、内面に指頭痕が残る。257は底部。外面はハケメ、内面はナデを施す。258は壺。口縁下端に刻目を施す。

**SK3084** (第51図)

D-5区に位置する。平面形は不整な長形を呈し、長さ290cm、幅125cm、深さ15cmを測る。  
出土遺物(第52図) 263は甕。復元口径19.6cm。如意形口縁で2条の沈線を巡らす。外面は口縁部に指頭痕、胴部はハケメ、内面はナデを施す。264は壺。復元口径15.6cm。内外面ともナデを施す。

**5. 溝**

溝・溝状遺構は30余を確認した。地形に沿った東西方向やこれに直交する南北方向に延びるものが多い。

**SD50** (第53図)

A-1区に位置する。南北方向に直線的に延びる。幅25cm、深さ11cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

**SD57** (第53図)

C-1区に位置する。東西方向に直線的に延びる。幅50cm、深さ24cmを測る。  
出土遺物(第54図) 265は甕の底部。外面はハケメ、内面は風化により不明。266は鉢。復元口径9.0cm。口縁下の屈曲部に突帯を巡らす。風化により調整不明。

**SD388** (第53図)

B-2・3区に位置する。南北方向に直線的に延びる。幅50cm、深さ25cmを測る。  
出土遺物(第54図) 267・268は甕。いずれも外面はハケメ、内面はナデを施す。

**SD974** (第53図)

A・B-2区に位置する。東西方向に直線的に延びる。幅135~165cm、深さ55cmを測る。  
出土遺物(第54・55図) 269~276は甕。269は口縁下に2条の沈線を巡らす。外面は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。復元口径21.0cm。270・271は如意形の口縁で外面は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。272は口縁下に2条の沈線を巡らす。外面は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。273は口径23.2cm、器高27.6cm。外面は縦方向のハケメ、内面は風化により不明。275は口縁下に断面三角形の突帯を巡らす。復元口径31.2cm。277は鉢。口縁下に突帯を巡らす。外面は口縁下に暗文を施す。内面はナデ。復元口径29.6cm。278・279は壺。278は復元口径26.0cm。頸部に暗文を施す。279は外反する口縁を成し、外面は暗文か。復元口径10.4cm。280は胴部に突帯を巡らす。復元口径9.0cm。281は器台。282は注口部。

**SD1294** (第53図)

D-3区に位置する。北東方向に直線的に延びる。幅95cm、深さ7cmを測る。遺物は弥生土器が出土している。

**SD1309** (第53図)

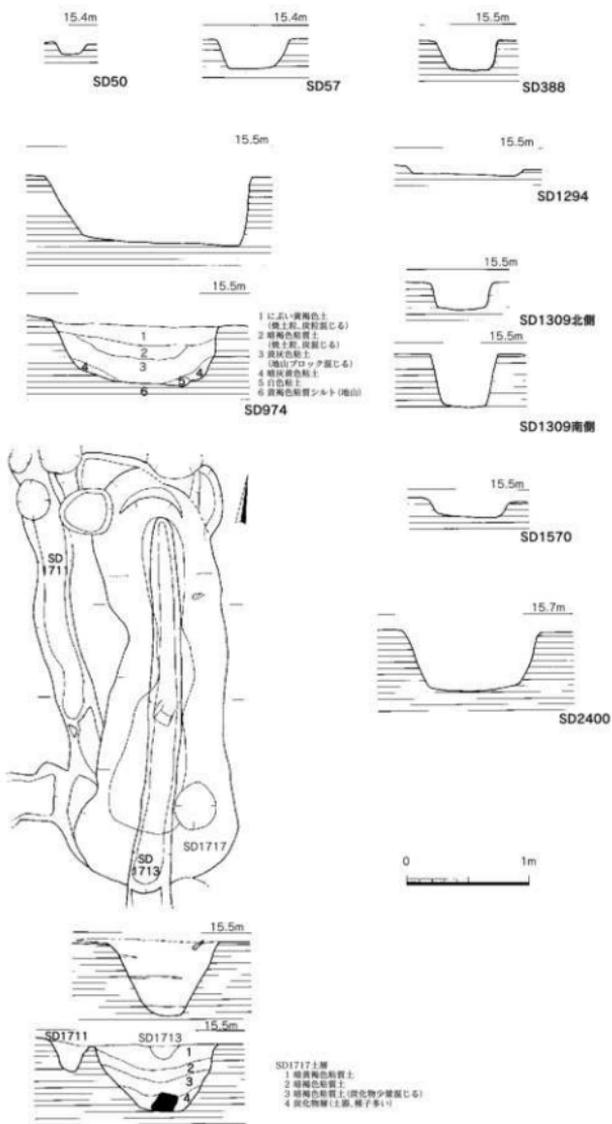
D-3区に位置する。北東方向に直線的に延びる。幅50cm、深さは北側で22cm、南側で52cmを測る。覆土には焼土、炭化物を含む。遺物は弥生土器片が出土している。

**SD1570** (第53図)

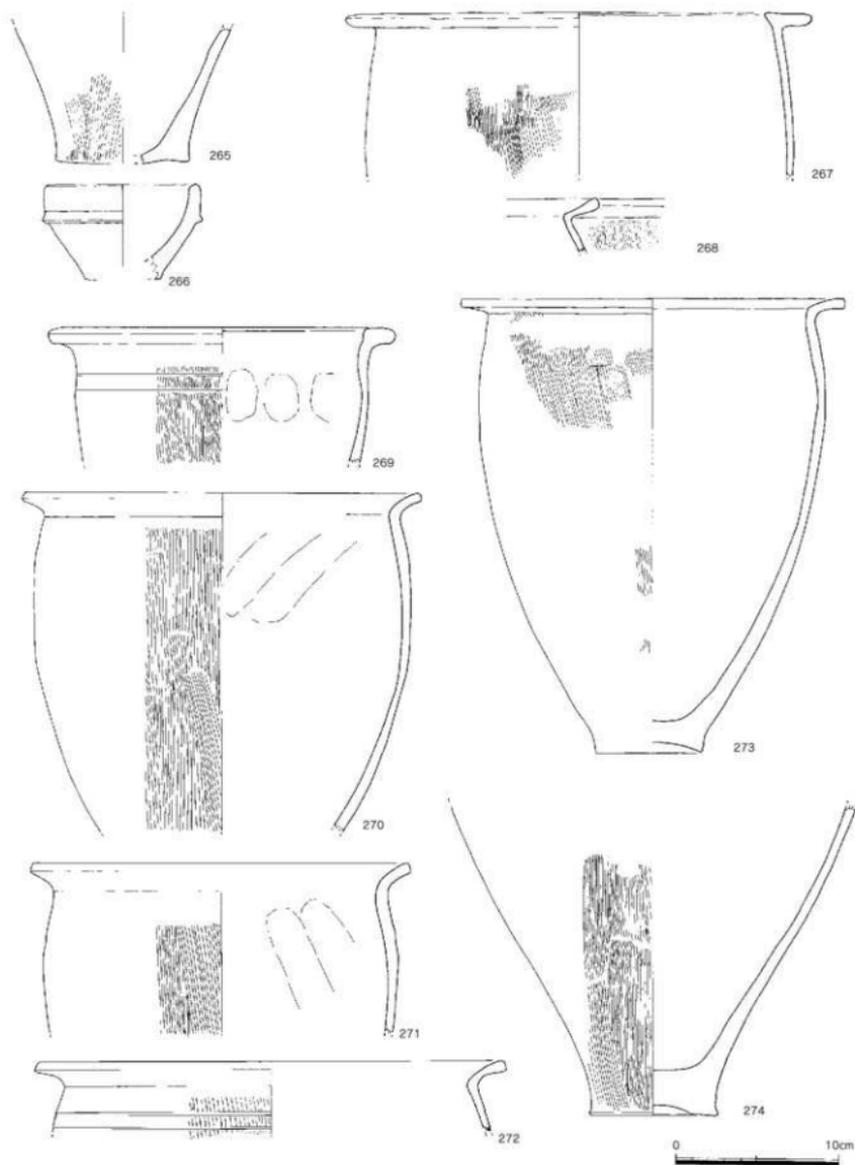
B-4区に位置する。南北方向に直線的に延びる。幅57cm、深さ13cmを測る。  
出土遺物(第55図) 283は甕。復元口径30.2cm。く字状に近い口縁で端部が肥厚する。外面はハケメ、内面はナデを施す。284は鉢。口径10.5cm、器高6.7cm。平底で外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。

**SD1711** (第53図)

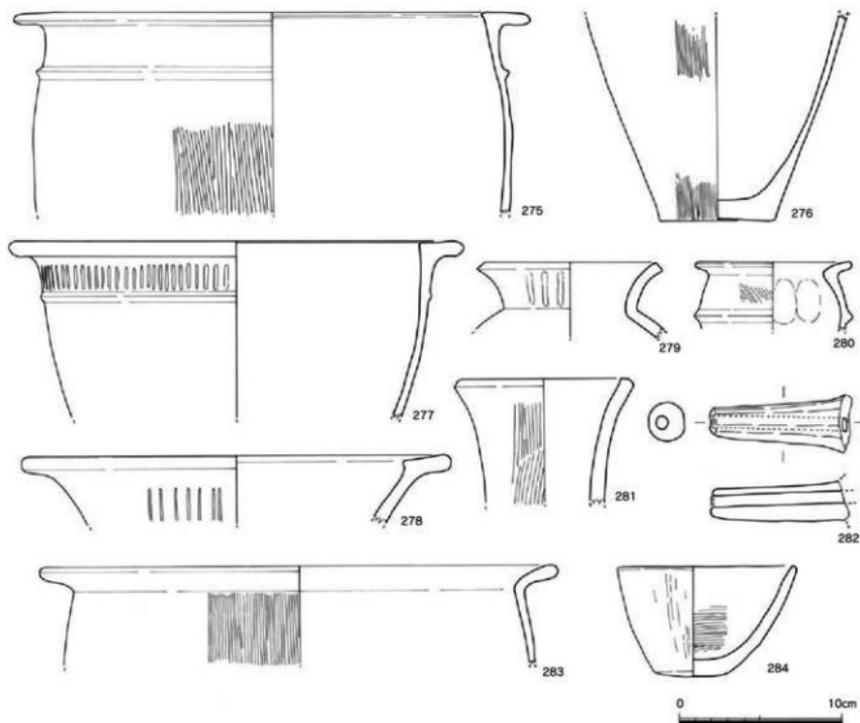
B-4・5区に位置し、SD1717を切る。南北方向に直線的に延びる。幅25cm、深さ12cmを測



第53図 SD50~2400実測図 (1/40)



第54図 SD57・388・974出土遺物実測図 (1/3)



第55図 SD974・1570出土遺物実測図 (1/3)

る。遺物は弥生土器片が出土している。

**SD1713** (第53図)

B-4・5区に位置し、SD1717を切る。南北方向に直線的に延びる。幅25cm、深さ12cmを測る。遺物は弥生土器片が出土している。

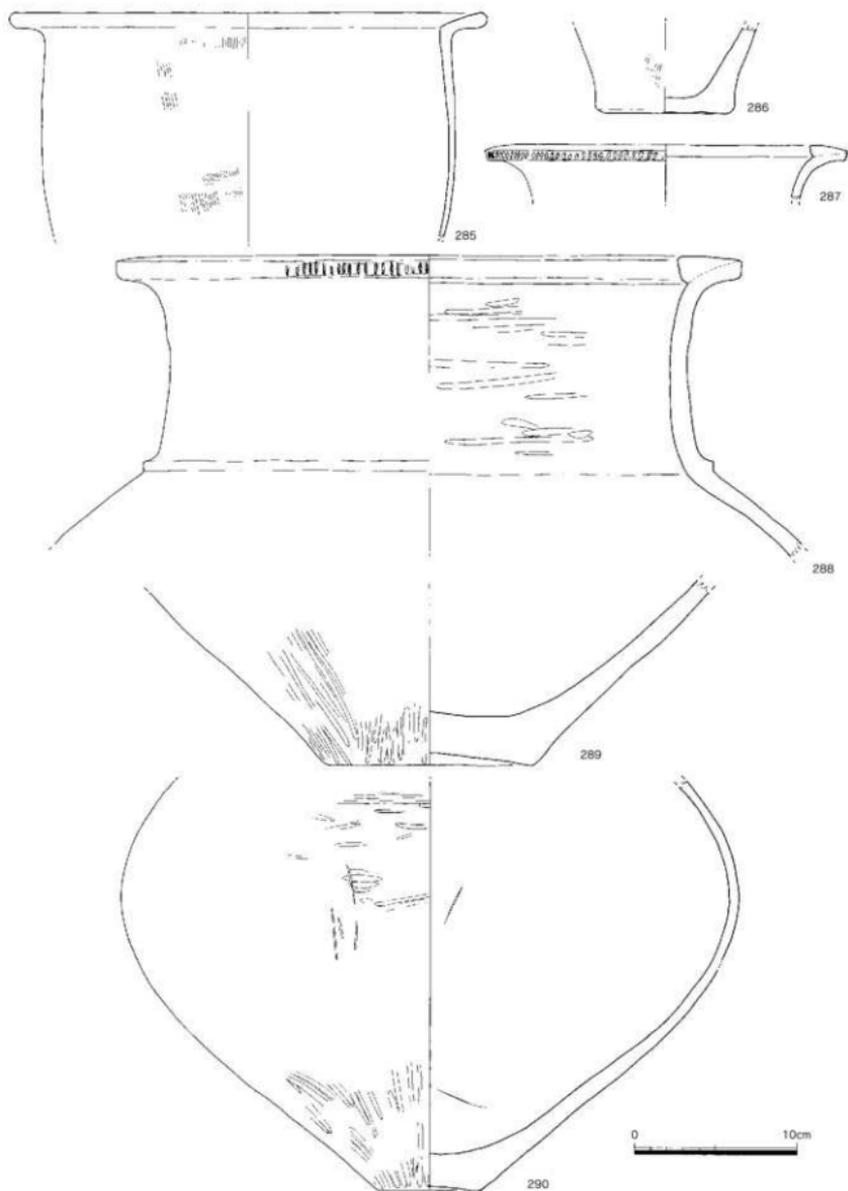
**SD1717** (第53図)

B-4・5区に位置し、SD1713に切られる。南北方向に直線的に延びる。幅94cm、深さ60cmを測る。下層に炭化物が堆積し、種子を含む。

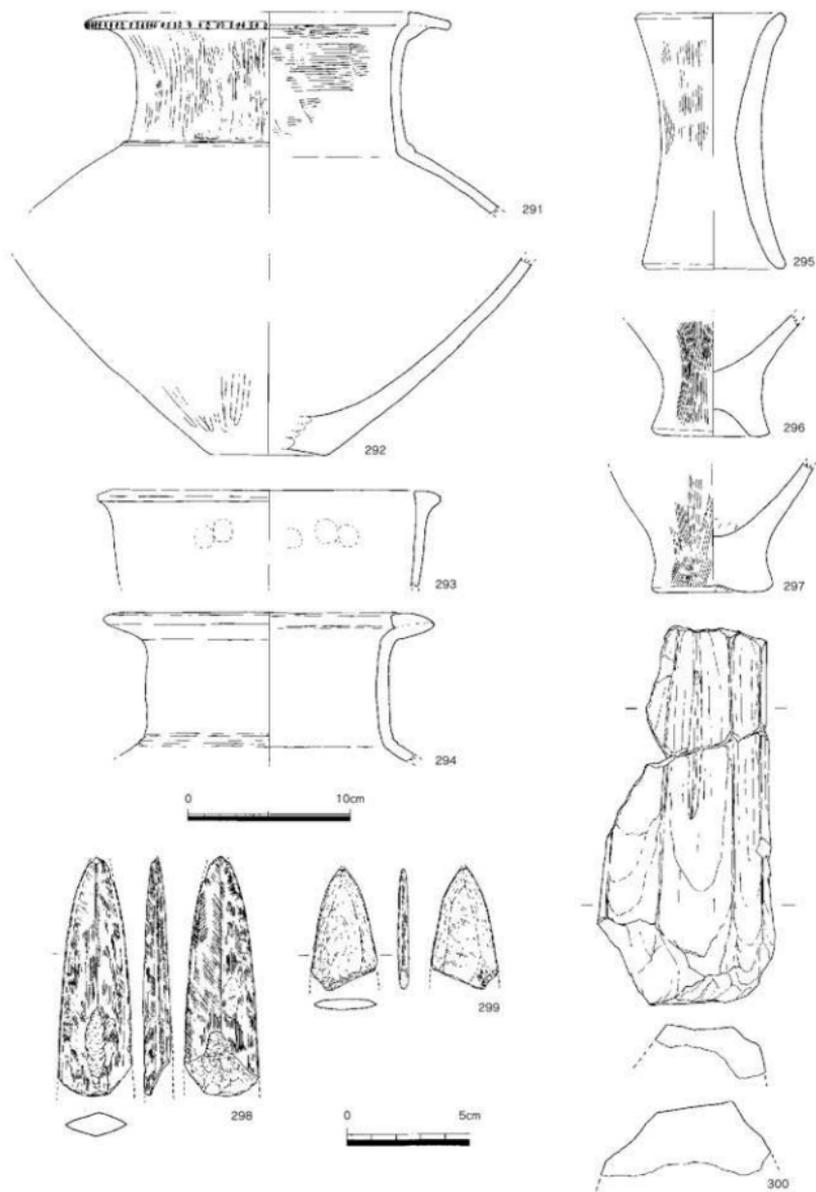
出土遺物 (第56・57図) 285・286は甕。285は風化が進むが外面に僅かにハケメが残る。287~290は壺。287・288は口縁部に刻目を施す。288は頸部境に突帯を巡らす。291~297はSD1713と一括して取り上げたため両者が混在している。298・299は石剣。299はSD1713と一括して取り上げたもの。300は砥石。砂岩質で被熱により赤変する。

**SD2400** (第53図)

E-5区に位置する。東西方向に直線的に延びる。幅108cm、深さ48cmを測る。遺物は弥生土器



第56图 SD1717出土遺物実測図 (1/3)



第57图 SD1717出土遺物実測図 (1/3 · 1/2)

片が出土している。

## 6. その他の遺構・遺物

### SP1152 (第58図)

C-2・D-2区に位置する柱穴である。平面形は楕円形を呈し、長さ78cm、幅62cm、深さ39cmを測る。

出土遺物(第58図) 底面よりほぼ完形で301が出土した。301は弥生土器の鉢。口径14.7cm、器高13.7cmを測る。外面は叩き後ナデ、内面はナデを施す。

### SP1949 (第58図)

D-5区に位置する柱穴である。平面形は楕円形を呈し、長さ60cm、幅50cm、深さ35cmを測る。

出土遺物(第58図) 底面より302が出土した。302は脚付きの鉢で口径11.3cmを測る。外面はハケメ後ナデ、内面はナデを施す。

### SP2550 (第58図)

B-2区に位置する柱穴である。平面形は楕円形を呈し、長さ60cm、幅50cm、深さ35cmを測る。掘方内は根固めの礫が敷き込んでいる。対応する柱穴は確認できなかった。遺物は弥生土器の細片が出土している。SB3300と同時期であろうか。

### SP2551 (第58図)

C-4区に位置する。平面形は円形を呈し、径56cm、深さ19cmを測る。

出土遺物(第58図) 底面より303が出土した。303は高杯で口径30.0cmを測る。内外面ともハケメ後ナデを施す。

### SX1742 (第58図)

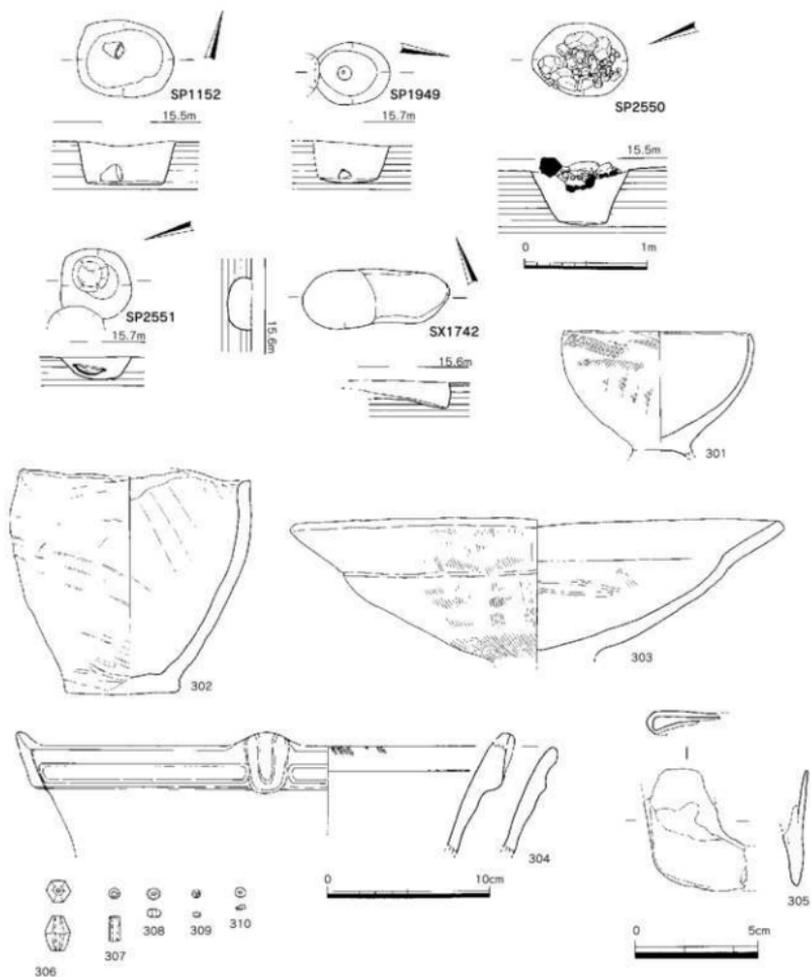
B-4区に位置し、西側を切られる。竈の可能性を考えたが、周囲に住居の痕跡が確認できないことや本調査で竈を有する住居が確認できないことから不明遺構とした。平面形は長楕円形か。壁は丸みをもって立ち上がる。底面は東に向かい傾斜している。長さ60cm以上、幅45cm、深さ21cmを測る。壁、底面ともに被熱しており、壁は特に強く焼けている。遺物は弥生土器の細片が出土している。

### その他の遺物 (第58図)

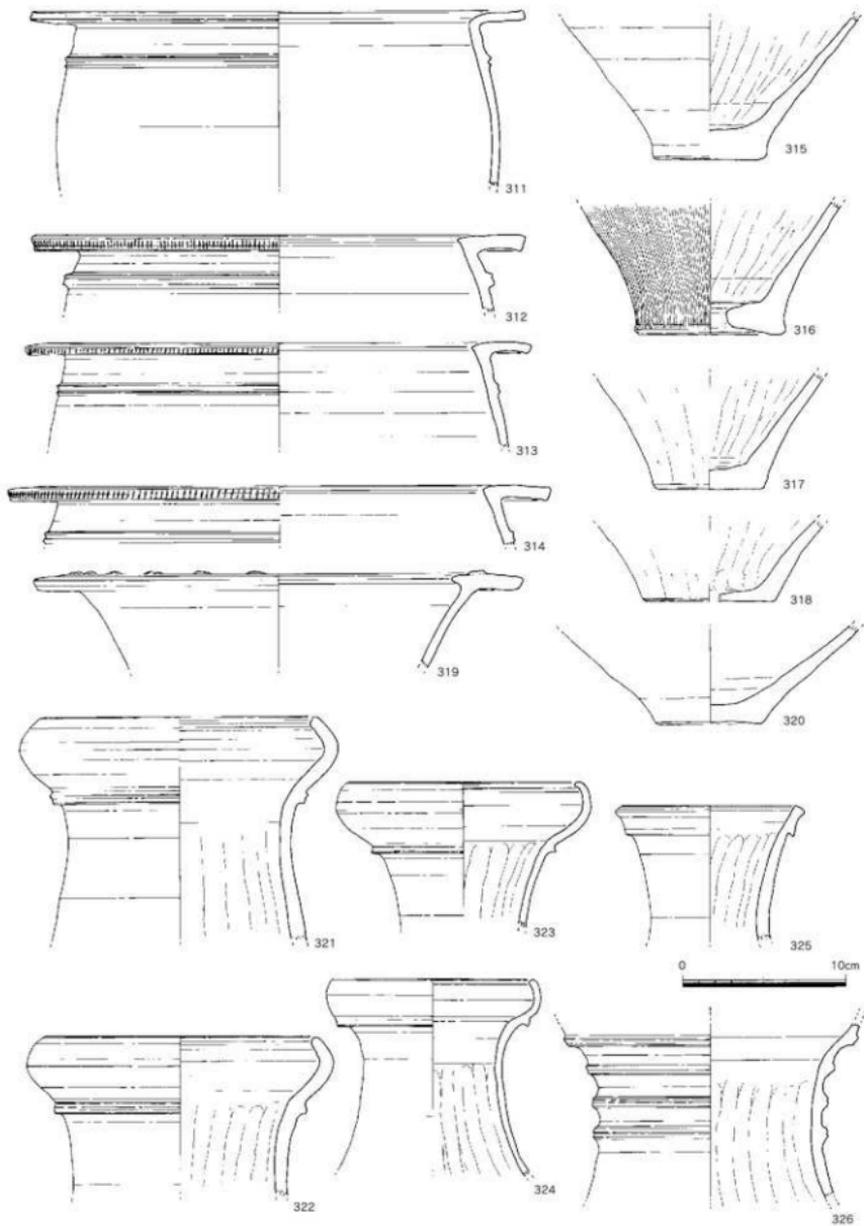
304は縄文土器後期の深鉢。2027出土。(現時点で遺構の位置、性格不明。他に弥生土器が出土しており、遺構に伴わない。) 305は青銅製鋤先。欠損し、風化が進む。1699出土。(現時点で遺構の位置、性格不明。) 306は水晶製切子玉。SC1127検出時出土。307は碧玉製管玉。検出時出土。308・309はガラス製小玉。検出時出土。310は滑石製白玉。

### 北側包含層出土遺物 (第59・60図)

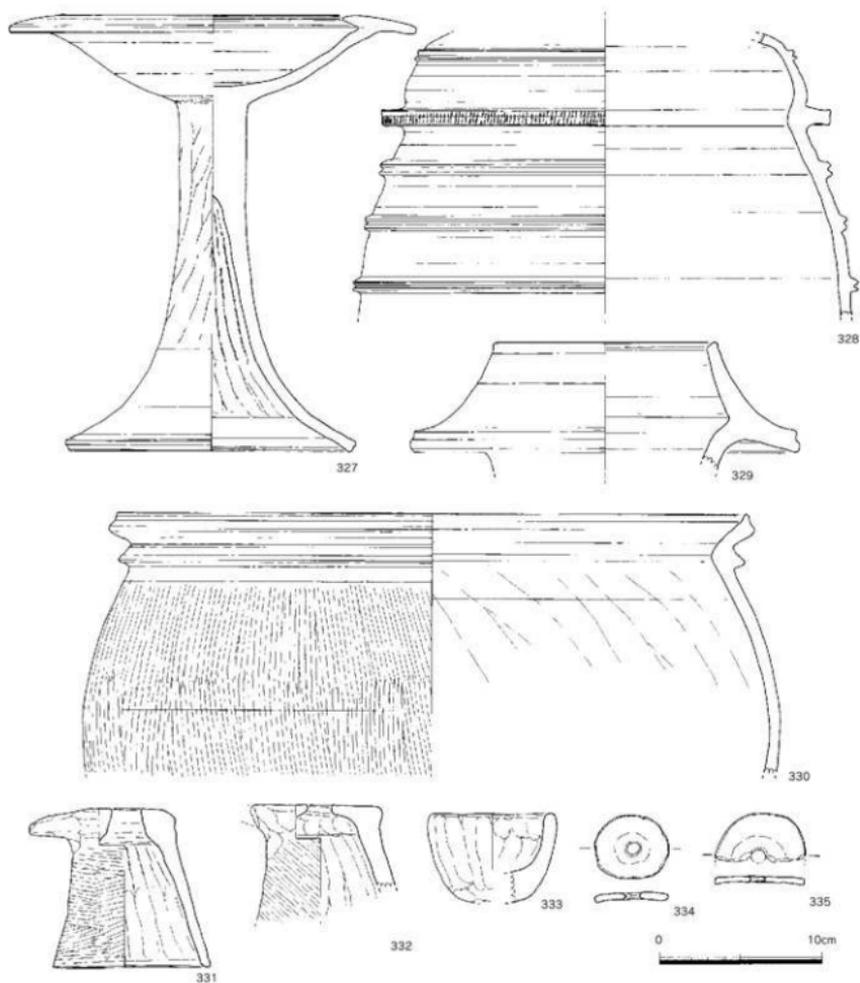
調査区北側の旧河川際から多量の土器が出土した。(図版7-7・8) 大半は弥生土器であるが、土師器や少量の須恵器も含まれる。包含層として取り上げたが、そのまともりや組成から人為的な投棄も想定でき、祭祀等の可能性も考えられる。ここでは特徴的なものを中心に掲載した。



第58図 その他の遺構 (1/40) および出土遺物実測図 (1/2・1/3)



第59図 北側包含層出土遺物実測図 (1/3)

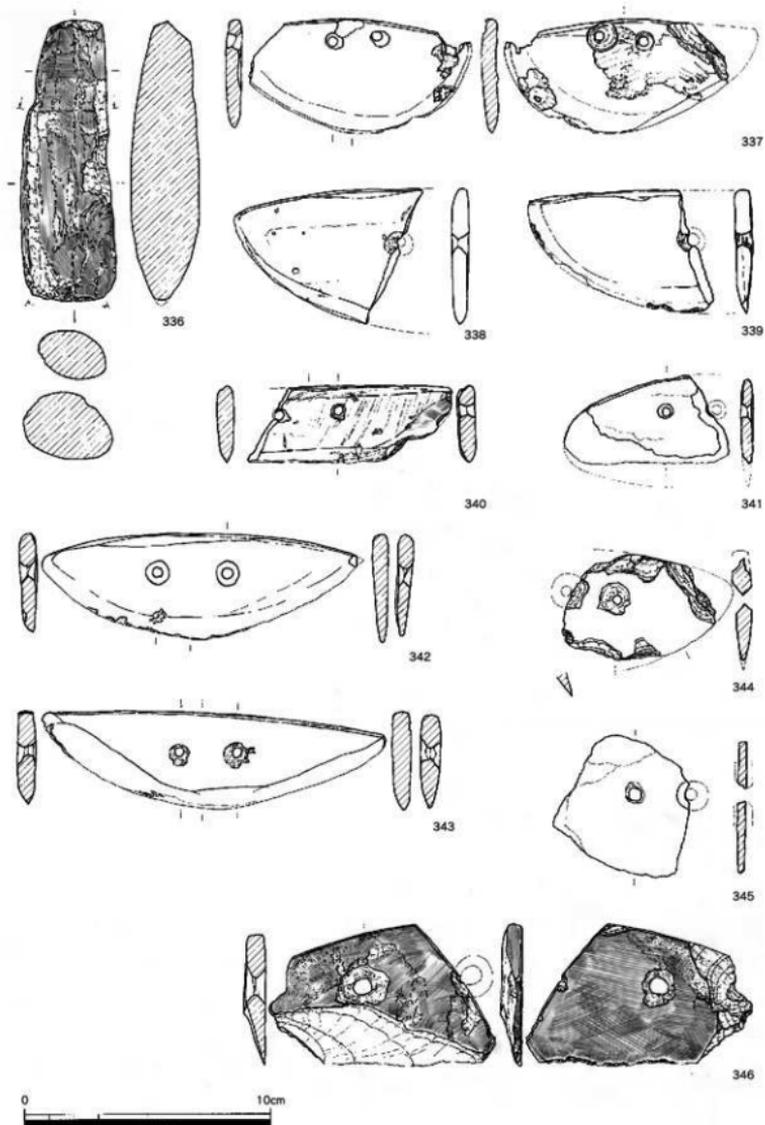


第60図 北側包含層出土遺物実測図 (1/3)

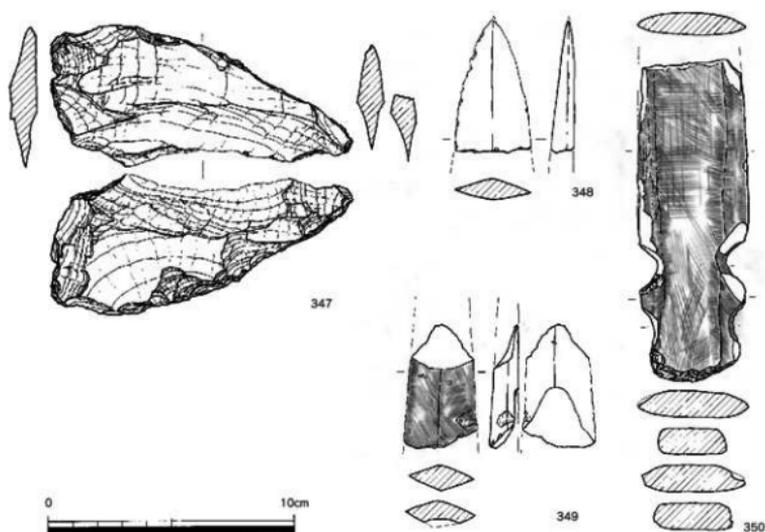
各土坑および包含層出土石器 (第61～64図)

本調査では、各土坑・各柱穴や包含層から縄文時代後期から古墳時代前期にかけての各種の石器および石製品が出土した。以下、簡単にみていくことにする。

工具としては、石斧・砥石・石錐・台石がある。336は滑石片岩を素材とし、剥離加工を加え整形した後丁寧な研磨を加え、横断面形楕円で、表裏から先端を研ぎ出して蛤刃を造り出した優美な蛤刃



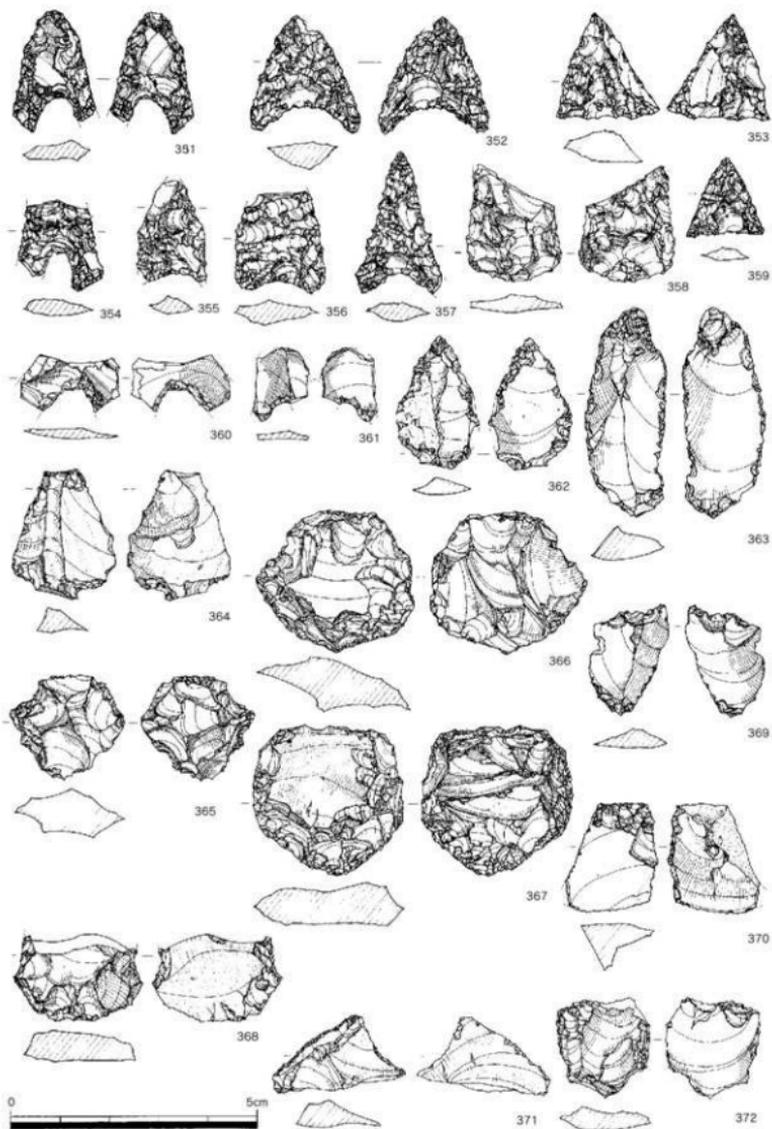
第61図 各土坑および包含層出土石器実測図 (1) (1/2)



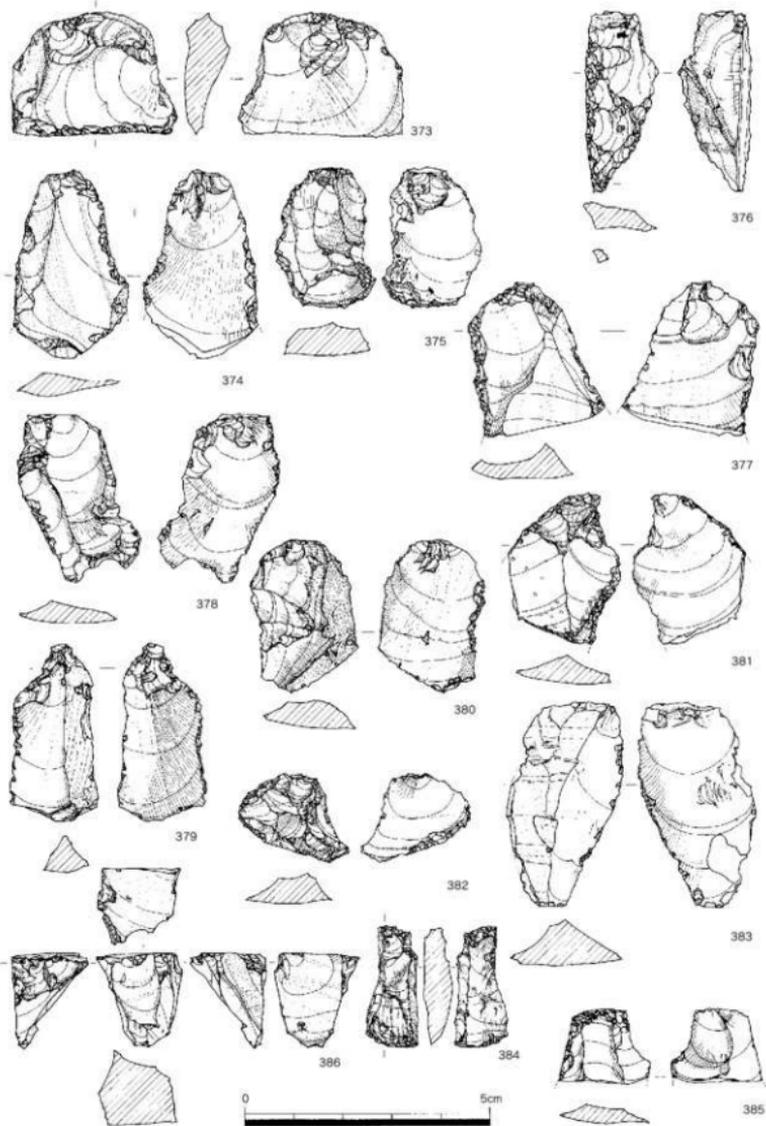
第62図 各土抗および包含層出土石器実測図 (2) (1/2)

石斧の蛤刃を潰す形で再利用された叩き石である。器長11.45cm、幅3.35cm、最大厚2.65cmを測る。石斧製作時は器形から縄文時代後期で、叩き石再利用時期は弥生時代であろう。他に、蛤刃石斧1点・石斧1点がある。SD974からは安山岩素材の蛤刃石斧がある。残存長11.8cm、幅5.2cm、最大厚3.6cm。横断面形が楕円形を呈し、弥生時代中期初頭前後のものか。包含層からは安山岩を素材の扁平石斧がある。残存長5.5cm、幅4.1cm、最大厚1.4cm。蛤刃石斧で弥生時代中期初頭前後のものか。376は黒曜石製核片を素材とした石錐（オール）で、器長3.68cm、幅1.5cm、最大厚0.57cmを測る。弥生時代中期初頭前後のものか。369も石錐か。以上のほか、砥石5点と台石1点がある。

農具としては、石製穂摘み具などがある。337～345が石製穂摘み具で、346が除草具である大型石包丁転用の石製穂摘み具、347は石鎌未製品と考えられる。337・338・342・346・347は小豆色凝灰岩を、他は安山岩質凝灰岩を素材としている。337～345は剥離・敲打により杏仁形・半月形・長方形に成形し、表裏に丁寧な研磨を加え、両刃の刃を研ぎだし、表裏から穿孔し回転研磨を加えた紐縛孔を造りだして仕上げている。337は器長4.6cm、幅約10.2cm、最大厚0.7cm、紐縛孔中心間1.8cmを測る。342・343は、それぞれ器長3.9cm・4.3cm、幅約13.9cm・12.9cm、最大厚0.8cm・0.7cm、紐縛孔中心間2.3cm・2.8cmを測る。346は紐縛孔中心間4.5cmを測る製品として除草に使用されたと考えられる。破損後、紐縛孔を生かし、表面は破砕面を使い、裏面は簡単に研磨を加え、穂摘み具の刃を造り出している。器長3.15cm、幅約9.2cm、最大厚0.8cmを測る。347は厚めの板状素材剥片に粗い剥離加工を加え、外湾する背とやや内湾ぎみの刃を造り出しており石鎌未製品とした。穂摘み具未製品の可能性もある。器長5.75cm、幅約12.2cm、最大厚1.05cmを測



第63図 各土抗および包含層出土石器実測図 (3) (1/1)



第64図 各土抗および包含層出土石器実測図 (4) (1/1)

る。以上のほか石鎌の背部片1点がある。

武器・狩猟具として石剣と石鎌がある。348～350は磨製石剣で、348は安山岩質凝灰岩、349は頁岩、350は滑石片岩を素材としている。348・349は表裏中央に鑿があり、横断面形菱形をなす鋒片で、残存長5.4cm・5.05cm、幅3.1cm・2.95cm、最大厚0.9cm・1.05cmを測る。350は柄を造り出した有柄式石剣で、鋒は欠失している。残存長13.1cm、幅約4.95cm、最大厚1.1cm、柄長5.5cm～5.7cm、柄幅4.25cmを測る。以上の石剣は、弥生時代前期～中期前半のものといえる。351～362・364は黒曜石製打製石鎌で360・361は剥片鎌、362・364は未製品である。351・354はU字状内湾基部、352・355～357はやや内湾ぎみ基部、353・359は平基部、358は凸ぎみ基部をなし、351～359は押圧剥離で仕上げている。352・353・357・359は器長2.4cm・2.18cm・2.9cm・1.6cm、幅2.21cm・2.02cm・1.75cm・1.54cm、最大厚0.55cm・0.6cm・0.38cm・0.29cm、重さ1.93g・1.85g・1.19g・0.56gを測る。362は器長2.7cm、幅1.7cm、最大厚0.33cmを測る。石鎌は縄文時代後期から弥生時代中期初頭のもので、剥片鎌および未製品は縄文時代後期のものといえる。

調理加工具として搔器・削器・剥片石器などがある。366～368は黒曜石製の円刃搔器で、366・367は径2.9～3.2cm、最大厚1.1cm・1cm、重さ7.96g・9.42gを測る。363・370・372・373・377・381・385は、黒曜石製剥片の縁辺に主要剥離面から二次加工を加えた削器である。371・374・375・378～380・382・383は、黒曜石製剥片の縁辺に使用による刃こぼれがみられる剥片石器である。以上の調理加工具の大半は縄文時代後期のもの、一部弥生時代中期初頭までのものもあるか。

以上のほか、剥片・削片・石核386などの石製品が出土している。

#### 蒲田部木原遺跡10次調査出土の動物遺存体について

福岡市教育委員会埋蔵文化財第1課 屋山 洋

出土した骨は1のアオサメ属の歯を除いてすべて被熱し白色化した状態で出土した。そのため骨が縮小・変形しており、ほとんどの骨で種の同定ができなかった。骨はきれいに白色化する程火を受けているため、最初ヒトの火葬骨ではと考えたが、詳しく見た結果、ヒトと思われる骨は見あたらない。表のうち3の下顎と6の椎骨は骨端部の未化骨化と骨の大きさから幼～若獣である。

時期の判明している遺構のほとんどが弥生時代である。福岡市の弥生時代の遺構から動物遺存体が出土するのは希であるが、今回の骨は白色化するまで焼かれるという骨にとって残りやすい状態になったため残ったものである。これらの白色化した骨が出土する遺構はある特定の地区に集中せず調査区全体に分布する。一般に調理程度では白色化しないため、調査区全体で強く火を受けることがあったと考えられる。

順位	大分類	小分類	部位名	左右	部分1	部分2	成長度	切痕	火熱	備考	時代	
1	全体一括	魚類	アオサメ科	歯			不明	不明	不明	1本のみ		
2	SP追加	哺乳類	不明		不明	3点	不明	なし	白色化			
3	SP1091	哺乳類	イノシシ	下顎	左	P2-M1部分	歯は欠損	なし	白色化		弥生	
4	SP1091	哺乳類	イノシシ	下顎	不明	下顎肉	不明	なし	白色化		弥生	
5	SP1091	哺乳類	不明	歯			不明	不明	白色化	遺存不良	イノシシか	弥生
6	SP1091	哺乳類	不明	肋骨		骨体のみ	椎頭-椎末骨化	不明	白色化	遺存不良	弥生	
7	SP1091	哺乳類	シカ	下顎	左	関節突起	不明	不明	白色化		弥生	
8	SP1091	哺乳類	不明	骨小片多数			不明	不明	白色化		弥生	
9	SP456	哺乳類	不明	長骨片		幹部小片のみ	不明	あり	白色化		弥生	
10	SP2164	哺乳類	イノシシ-シカ?	肋骨		近位部	不明	なし	白色化		弥生	
11	SP2164	哺乳類	不明	膝蓋骨か		膝蓋骨	不明	不明	白色化		弥生	
12	SP2126	哺乳類	不明	骨小片			不明	不明	白色化		弥生	
13	SC1109	哺乳類?	不明	不明			不明	なし	白色化		弥生	
14	SP1470	不明	不明	小片			不明	不明	白色化		弥生	
15	1664	哺乳類	不明	長骨片		鱗片化	不明	不明	白色化		不明	
16	SP1219	哺乳類	不明	不明			不明	なし	白色化		弥生	
17	SP855	哺乳類	不明	小片			不明	不明	白色化	骨色を帯びる	弥生	

#### Ⅳ. おわりに

今回の第10次調査で縄文時代後期と考えられる土器、石器類、弥生時代前期後半～古墳時代の集落を確認した。縄文時代の遺物については第5次調査においても出土しているが遺構に伴うものは確認できていない。周囲に該期の遺構が存在する可能性が指摘されているが、本調査区では弥生時代以降に掘削された多数の遺構によって破壊され、確認できない可能性も考えられる。弥生時代以降については竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、旧河川、柱穴等を確認した。

遺構の分布は調査区北端の旧河川を北限とし、調査区全面に非常に高い密度で遺構が広がる。竪穴住居は16軒以上を検出した。円形住居が2軒で他は方形住居である。円形住居は中央に長方形ないし長楕円形の土坑を配置し、少なくとも6本以上の柱を巡らす。また今回掲載した以外に壁が削平されたものが2軒以上は存在する。方形住居は中央に炬をもつものもたないものがある。4軒が古墳時代に属するが、竪を有するものは確認できていない。

掘立柱建物は14棟を復元した。建物方位を南北あるいは東西にとるものが多く、溝や住居と並行、または直交する。建物を含む遺構の方位は大半が東西方向及びこれに直交する南北にとるが、これは地形の制約を受けたものと思われ、河川の方に並行あるいは直交して営まれる。第7次調査で確認した墓地区も同様の遺構配置をとる。建物それぞれの時期は決め難いが、長期にわたり制約が働いていたようである。この中でSB3300、SB3312が他と方位を異にするが特にSB3300は方位のほかに構造も異なり、時期が下る可能性がある。検出した柱穴の数に比べ復元できた建物は少なく、まとめ切れなかった建物が多数存在すると思われる。

土坑は80基以上を検出した。SK56等が前期後半に位置付けられ、本地点での集落の開始期にあたるが、この時期は土坑が少数見られるだけで住居については確認できていない。方位については土坑も概ね他の遺構同様に方位を南北あるいは東西にとるものが多い。特に調査区北端に位置する大型土坑は旧河川に沿って長軸を揃えて並び、その性格は明らかにできないがそれぞれ関連しているように見うけられる。また特徴的なものとしては弥生時代中期のSK252があげられる。いわゆる焼土坑で、壁が強く焼け、下層に炭化物が堆積する。この炭化物層を中心とする下層から出土した複数の破片で復元される甕102はそれぞれの破片の状態が異なる。出土位置による風化の差によるものか、あるいは割れた状態で火を受け、熱を受ける状況が異なったため生じた差とも考えられる。またこの遺物は下層から出土したにもかかわらず、2次的に熱を受けたようにみえない。後者の要因による差であれば焼成途中で割れ、火を受け続けたものと推測される。SK252と同様の遺構としては第4次調査で確認された中期のSK25、後期のSX04や市内では飯倉C遺跡第5次調査で確認された後期のSK04・12・14等があるが、これらについては土器焼成遺構の可能性が指摘されている。これらの状況や類似遺構からSK252も土器焼成遺構の可能性が考えられる。ただし、コンテナ3箱程の土器が出土したが、これらについて詳細な検討を行っていないため可能性を指摘するに留めておきたい。各遺構について簡単に述べたが、これらの遺構の覆土には焼土や炭化物を含むものがあり、広範囲に分布する。出土獣骨の分析結果ではそれぞれの出土地点が離れているにもかかわらず、ほとんどが熱を受けていた。このことから本地点において大規模な火災が起きた可能性が考えられる。

本調査区については前期後半に集落の形成が始まり、中期初頭以降、本格的に営まれ、古墳時代前半期まで継続し、その後終息していく。この状況はこれまでの遺跡東部の調査成果と大きく変わらない。弥生時代後期～古墳時代以降の集落については西部で確認されており、中心が移るようにも見えるが、遺跡全体の変遷をたどるにはまだ調査が少なく今後の調査の進展を待ちたい。



1. 調査区全景 (北から)



2. SC253 (南から)



3. SC476 (南から)



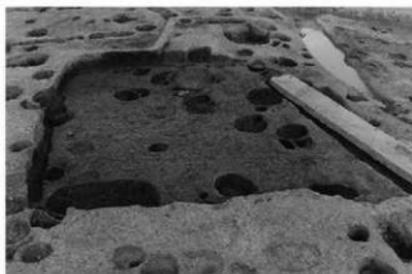
4. SC563 (南から)



5. SC930 (東から)



1. SC1127 (西から)



2. SC1190 (西から)



3. SC1300 (西から)



4. SC1364 (東から)



5. SC1558 (西から)



6. SC2154 (南から)



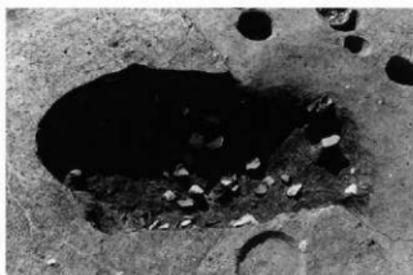
7. SC2186 (東から)



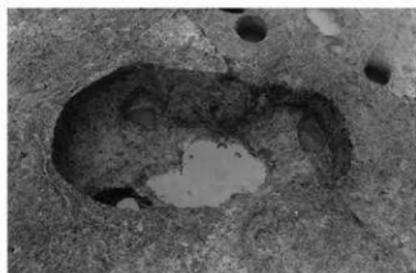
8. SK1 (西から)



1. SK141 (南から)



2. SK252遺物出土状況 (東から)



3. SK252 (東から)



4. SK252土層 (北から)



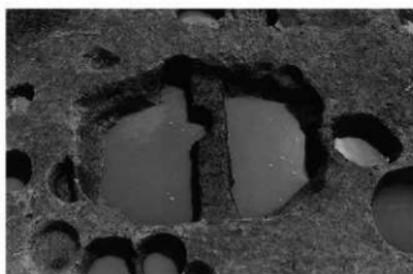
5. SK254 (北から)



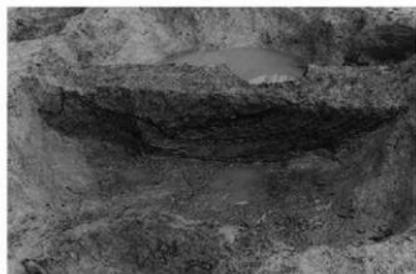
6. SK254土層 (東から)



7. SK255土層 (南から)



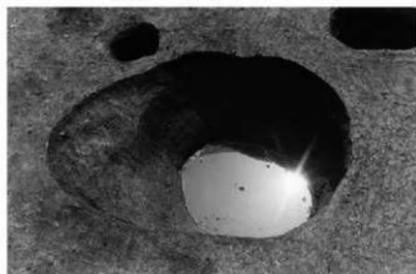
8. SK871 (西から)



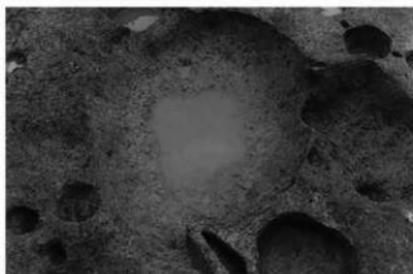
1. SK871土層 (南から)



2. SK976土層 (西から)



3. SK1119 (東から)



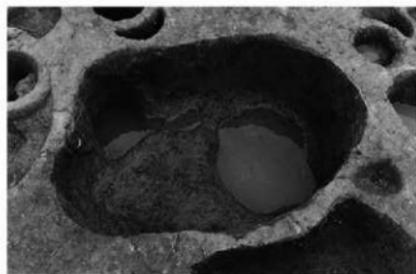
4. SK1556 (西から)



5. SK1822遺物出土状況 (北から)



6. SK2401遺物出土状況 (北から)



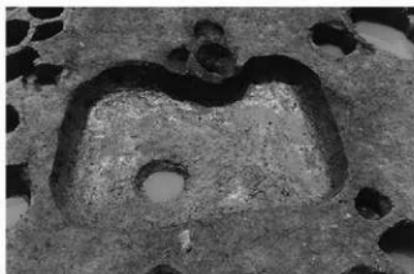
7. SK2401 (北から)



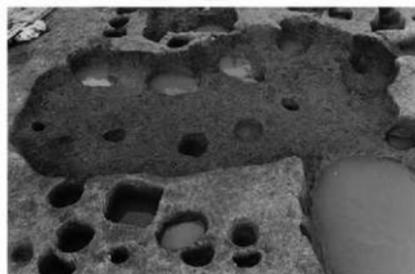
8. SK2433 (東から)



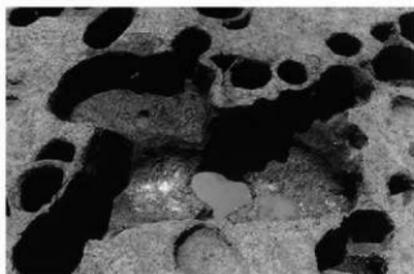
1. SK2434 (東から)



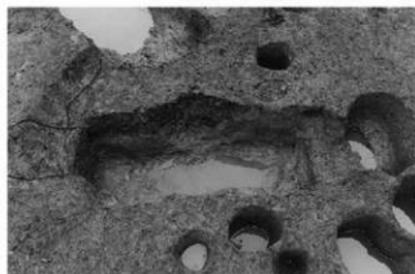
2. SK2589 (北から)



3. SK2595(南から)



4. SK2617 (東から)



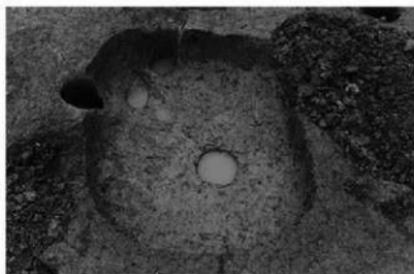
5. SK2762 (北から)



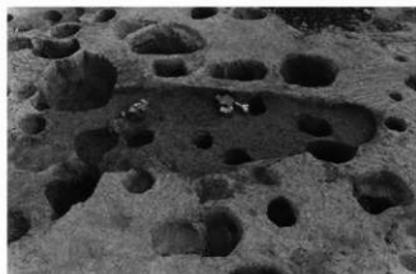
6. SK2809 (北から)



7. SK2809土層 (北から)



8. SK3038 (北から)



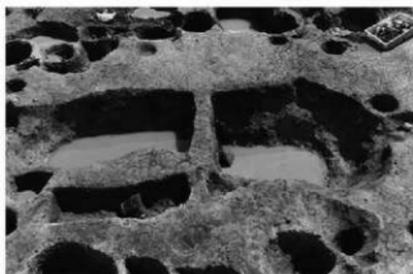
1. SK3084 (北から)



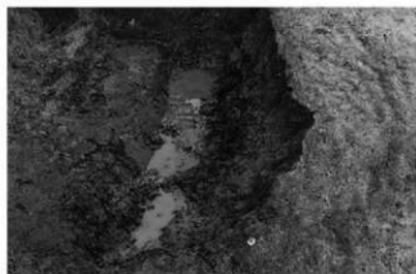
2. SD974 (西から)



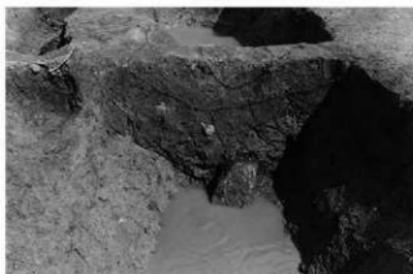
3. SD974 (東から)



4. SD1717 (東から)



5. SD1717炭化物出土状況 (北から)



6. SD1717土層 (北から)



7. SD2400 (東から)



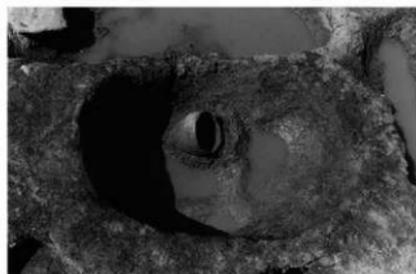
8. SP933 (北から)



1. SP1849 (北から)



2. SP2550 (東から)



3. SP1152 (西から)



4. SP1909 (東から)



5. SP2551 (西から)



6. SX1742 (西から)



7. 北側包含層 (西から)



8. 北側包含層土層 (西から)

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	かまたへきばるいせき							
書名	蒲田部木原遺跡 8							
副書名	―蒲田部木原遺跡群第10次調査報告―							
巻次								
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第976集							
編著者名	中村啓太郎							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かまたへきばるいせきぐん	ふくおひのほくかた			33° 38'	130° 29'	20051221 ~ 20060428	1805.38	倉庫建設
蒲田部木原遺跡群第10次	福岡市東区蒲田	40130	0003	8"				
	3丁目1211-1他							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
蒲田部木原遺跡群第10次	集落	弥生時代～古墳時代	堀穴住居 掘立柱建物 土坑 溝 柱穴		弥生土器 土師器 須恵器 石器			

蒲田部木原遺跡 8  
 ―蒲田部木原遺跡群第10次調査報告―  
 福岡市埋蔵文化財調査報告第976集  
 2008年（平成20年）3月31日  
 発行 福岡市教育委員会  
 福岡市中央区天神1-8-1  
 印刷 江口印刷株式会社  
 福岡市南区大楠2丁目22番8号